2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	人間学特講（SR）
担当教員	一ノ瀬　正樹
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもらう。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。今年度は、前半の集中講義の後半部において、災害や事故の際にしばしば依拠される「予防原則」の考え方の検討を行う。他方、後半の毎週水曜日の講義では、様々なもののもつ「価値」と、私たちの心のあり方である「価値観」がどう関係するかという観点から講義を行う。あらゆる価値は人の価値観に依存する、という主張は正しいのだろうか。正しいとしたら、なぜ、どのように正しいのだろうか。このような考察を通じて、人間的生をより深く理解する視座の獲得を目指していく。
授業計画	「哲学」とは何か、について序論的な仕方で解説する。とくに、英米哲学に依拠しながら、形而上学、認識論、倫理学の区別について論じる。そして、哲学の社会的意義について論じる。哲学は役に立つのか、といった問いをめぐって考えていく。 2.　哲学を教育することの意義について考える。大学で哲学を学ぶことの狙いは果たしてなんなのか、という問いを検討していく。そして、形而上学の諸問題、すなわち、時間、神、自由などについて、その問題の本質について理解してもらう。 3.　時間にまつわる形而上学的問題について解説する。過去の存在、未来の意味、などについての問いが手がかりとなる。さらに、認識論の諸問題、すなわち、知識、信念、帰納、確率などについて、基本的な議論を押さえていく。 4.　帰納法にまつわる様々なパズルについて解説する。法則性とか規則性とは何か、について考えていく。資料集から、「観念論」について理解を深めていく。とりわけ、ジョン・ロックとジョージ・バークリについて論じる。 5.　前回に続いて、「観念論」について論じる。「知覚の因果説」と対比的に論じる。そして、知覚内容に暗黙的に混ざり込む契機、条件文的な契機に注目して、「観念論」のおのずとなりゆく変容について検討していく。 6.　資料集に基づいて、ヒューム哲学の基本的構図について論じる。とりわけ、因果論の衝撃に焦点を合わせていく。さらに、カント哲学の意義について論じる。「コペルニクス的展開」がキーワードとなる。この辺りで、出席者のプレゼンテーションもできれば混ぜたい。 7.　倫理学の諸問題、すなわち、義務論と功利主義、人権概念、所有、などについて、論争の基本論点を確認していく。功利主義についてやや立ち入って検討する。「しあわせ」あるいは幸福概念について考えていく。また、倫理学の諸問題の一系列として、死刑の問題について論じる。すなわち、存置論と廃止論の論争の意義、執行人の問題などについて論じる。 8.　ここから、教科書『いのちとリスクの哲学』第 6 章に基づいて、「予防原則」という考え方について哲学的に検討していく。まず、予防原則が適用された顕著な例として、東日本大震災と福島第一原発事故について振り返る。

9. 前回を踏まえて、3.11 の被害とは何だったのか、という問いを立てて検討していく。そして震災関連死と予防原則について、導入的説明をしていく。

10. 「弱い予防原則」と「強い予防原則」の対比について解説し、それらと「防止原則」との対比をして、予防原則という考え方の特徴を抑えていく。その際、「費用便益分析」についても検討していく。

11. 二つの予防原則について、これまで提起されてきた批判点を検討する。同時に、これらの批判点に対して、さらに予防原則の意義を維持しようとする議論についても検討する。

12. 予防原則の考え方が、条件文に基づく因果関係の理解を本質的に含んでいることに注意を促した上で、では予防原則における因果関係とはどのようなものなのか、をくわしく追求していく。

13. 直説法条件文と、反事実的条件文の対比を導入し、それが予防原則での因果関係にどのように当てはまるか検討していく。因果的判断、因果的推論、因果的物語、という三つの因果関係理解の位相を導入する。さいごに、新型コロナウイルス問題についても、以上のような議論を踏まえて、多少の考察をしていく。

14. 出席者によるミニ・プレゼンテーションの時間を設ける。試験も行う。

15. これ以降の回では「価値と価値観」がテーマとなる。まず、本講義でいう「価値」と「価値観」が何を指すのか、おおよその規定を与えたうえで、価値と価値観の関係についてどのような哲学的理論が提示されてきたかを概観し、今後の講義内容を予告する。

16. 前回で概観した理論のうち、「価値の傾向性理論」とよばれる立場についての講義を開始する。これは概ね、「何かに価値があるというのは、事実として、皆に求められているということだ」という着想を展開させた理論である。この理論の基本的な枠組みや利点を理解することがこの回の目標となる。

17. 傾向性理論への批判として、「私たちは誤解や愚かさのせいで、価値があるものを求めそこなう場合もある」という議論をとりあげる。さらに、この批判に応じて傾向性理論を洗練させる試みの一つとして、ただ何かを求めることではなく、よく知ったうえでそれを求めることが価値と結びつくのだという議論もとりあげ、この成否を検討する。

18. 前回にひきつづき、傾向性理論を洗練させるもう一つの試みとして、軽い気持ちで何かを求めることではなく、本心からそれを求めることが価値と結びつくのだという議論をとりあげて検討する。ここでいう「本心」とは何なのかを追求する中で、いわゆる「自律性」や「自由」そして「アイデンティティ」といった概念が価値・価値観とどう結びつくかを見る。

19. 傾向性理論に残された課題として、「未決論法」「条件的誤謬」といった問題をとりあげて検討する。これらはややテクニカルな哲学的議論に基づいた問題であるため、それを理解するプロセスをもって、論理的思考力のトレーニングの一助となすこともねらいである。

20. 価値に関する哲学的理論の二番手として、ここからは「価値の適格性理論」を取り上げる。これによれば、価値があるとは「事実として求められていること」ではなく、「求められるにふさわしいこと」だとされる。この主張は傾向性理論とよく似ているように見えるかもしれないが、その実、両者は大きく異なった理論であることをまずは多面的に確認する。

21. 適格性理論に対して伝統的に向けられてきた、「これは理論として循環している」という批判をとりあげる。まず、説明や定義における「循環」とは何であり、それはなぜいけないのかという基本を確認した上で、適格性理論がどのようにして循環の危険にさらされているのかを詳しく見ていく。

22. ひきつづき適格性理論について講義する。この理論を擁護するためには、求められるに「ふさわしい」ということの内実を適切に具体化する必要がある。これが決して簡単な課題でないことを、「間違った理由問題」と呼ばれる議論に即して確認する。

	23. いったん視点を変え、「価値」と呼ばれるものの中にも種類があることを見る。とりわけ「道徳的な価値」と呼ばれるものの特異性に注目し、「良い／悪い」の区別と「善い／悪い」の区別が概念的にどのように異なるかを考察する。 24. 傾向性理論や適格性理論とは対照的に、価値を我々の価値観から独立したものとみなす「価値の実在論」についての講義を開始する。特に前回で特徴づけた道徳的価値に関して、実在論が強い説得力を発揮しうることを確認する。 25. 実在論の中にも大別して「自然主義的実在論」と「非自然主義的実在論」の二種類が存在し、この二つが全く異なった立場であることを見ていく。前者によれば、価値とは科学的に特定できる性質、たとえば「人間の生存に役立つ」という性質に等しい。対して後者によれば、価値はまさに価値としか言いようがなく、科学的に特定できるようなものではないとされる。 26. 実在論は、価値が価値観によって作られるという考え方を否定するが、価値と価値観がまったく無関係だと考えるわけでもない。実在論によれば、世界にもともと存在する価値を判別するために我々に備わった能力が価値観なのである。さらに近年の実在論では、この価値判別という現象が視覚・聴覚といった知覚と類比的なものとみなされる場合が多い。こうした類比がどこまで成功しているかを考察する。 27. 実在論に対する代表的批判の一つは、価値のもつ「動機づけ」の特徴を十分に説明できないというものである。つまり、価値が価値観から独立に存在するならば、我々が価値あるものを手に入れようと常に心動かされるのは奇妙ではないかと。ここまでの講義を踏まえつつ、実在論がこの批判にどこまで答えられるのかを検討する。 28. 傾向性理論、適格性理論、（自然主義的及び非自然主義的な）実在論、というここまでに検討してきた理論の特徴を改めて整理し、価値と価値観の関係にかかわる多様な視点と反省的な思考力を獲得したことを確認するために、期末試験を行なう。
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」
	b その他
	途中で、若干のプレゼンテーションをしてもらう。それを「小テスト」として扱う。 そして最後に試験を行う。
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	人間学特講(R)
担当教員	一ノ瀬 正樹
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	・哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもらう。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。部分的に、仏教的な「因果応報」の思想にも触れていく。 ・当然視される前提について、あえて「問い」を向けるという姿勢を養ってほしい。自分は正しい、と思っても、一旦保留して、別の考え方はありえるか、という思考ができるようになってほしい。 ・人間に関わる諸問題は、ほとんどが複雑的・複層的であり、一方のサイドからの単純な切り分けが困難なものであること、この「人間本性の事実」をいつも考慮に入れるようになっていただきたい。
授業計画	上に記したように、基本的に、資料集に依拠しながら、各章の議論を理解し、十分に咀嚼した上で、自身の思考の成果について論述していただきたい。小論文のつもりで、文献註などもしっかりつけて、構成をよく考えて、読む者に趣旨がよく伝わるように記述してほしい。出題範囲は、資料集全部である。 第一課題(出題範囲:資料集資料 1-3 および資料 5) ・一回目のレポート 「因果関係とは何であるか、因果関係についてどのような問題が提起されうるのかについて、 資料集 1,2,3 を熟読し、各人の関心に従って問題を絞って、説明しなさい。ヒューム、事実と規範の対比、不在、などがキーワードとなります。また、資料 1-3 での西洋思想における因果論を踏まえた上で、資料 5 の浄土教における因果について取り上げてもよいです。」 ＊字数: 2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ・二回目のレポート 「第一回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。具体的には、添削で指示します。」 ＊字数: 2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 第二課題(出題範囲:資料集資料 4) ・一回目のレポート 「安楽死は道徳的に許容できるか、という生命倫理の古典的な問いに対して、資料 4 を熟読した上で、さらには、他の関連文献などにも視野を広げて、自身の見方を展開しなさい。資料 4 にあるように、「死ぬ権利」という概念をどう捉えるか、という観点が一つの手がかりとなるでしょう。」 ＊字数: 2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ・二回目のレポート 「第一回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。具体的には、添削で指示しま

	す。」 ＊字数: 2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題 「上の二つのレポートを提出した経緯を踏まえて、「死因」という概念について各人の考えを述べなさい。そして、さまざまな死因による死の、さまざまな(法的、道徳的)評価についても考えを述べなさい。」 ＊字数: 1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。 なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	死生学特講（SR）	
担当教員	川端　美季	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング・レポート	
単位数	4	
到達目標	スタディガイドをご確認ください。	
授業計画	スタディガイドをご確認ください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	
	スタディガイドをご確認ください。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	死生学特講(R)	
担当教員	川端 美季	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	スタディガイドをご確認ください。	
授業計画	スタディガイドをご確認ください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	スタディガイドをご確認ください。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	老年学特講（SR）
担当教員	菅原　育子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	老年学（ジェロントロジー）は、人間の生涯にわたる変化―生涯発達とエイジングー、および社会の高齢化―社会の構成員に占める高齢者の増加―を理解し、それらの変化がもたらす多様な課題の解明を目指す総合的な学問です。世界規模で人口高齢化が進む現代社会において、私たち一人一人がどう生きるか、どんな社会をつくるかという展望を持つために基盤となる学問と言えるでしょう。 「老年学特論」では、老いとはどんな現象か、長命化は人間に何をもたらしてきたのか、高齢社会とはどういうことか、高齢者が増えることがなぜ人々の暮らしに課題を生じさせているのか、について考えを深めます。 「老い」という誰もが経験する現象に対し、多角的な視点から理解、分析する力を修得し、「老いること」「高齢者である/になること」「高齢社会に生きること」について、一人一人が課題意識を持って考え、行動するための知識を獲得することをめざします。
授業計画	学習をはじめる前に、自分が「老いるということをどう考えているか」「高齢者とはどんな存在だと考えているか」「自分が 80 歳、90 歳、100 歳のときにどんな暮らしをしているだろうか」といったことに思いを巡らせ、簡単で良いのでメモを取ってください。 また老年学に関連する内容の報道や記事は日々新聞、雑誌、テレビ等で取り上げられています。気になった報道や記事、あるいは個人的な経験があれば、それらについて情報を収集する、あるいはメモを取ることを心がけましょう。それらを見比べながら、以下の学習を進め課題に取り組んでいくことを求めます。 「資料集」は「老年学特講」を通じて学習する内容を概説しています。まず全体の流れを把握します。それから各章の学習に入りますが、その際には「資料集」のなかで「→ 読んでみよう・調べてみよう」で示されているデータや資料、書籍等にあたって、自ら学習を深めることが必要です。特に統計資料は、最新のデータを調べてください。さらに、資料集の最後に示された参考文献リストに載っている書籍等も学習のきっかけになるでしょう。各自の関心に応じてそれらを読み進めることで、「資料集」で取り上げられているテーマの深堀り学習をしましょう。 スクーリング・レポートでは、スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される原則100分の講義を14限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 なお、第1課題2回目のレポートは、スクーリングを受講してから、提出するようにして下さい。 スクーリングでは、資料を配付しますが、「資料集（老年学特講）」も参照しますので手元に用意してください。 スクーリングでは、講師による講義に加えて、その日の授業内容に関連したテーマでのディスカッションや発表など、グループ演習も行います。限られた時間ですが関心事を共有する研究仲間と知り合い考えを深めたり、新たな考えに触れられる良い機会です。ネットワークを広げる機会としてもこのスクーリングを大いに活用してください。
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」

	b その他		○
	スクーリングの評価結果(50%)と、レポート(1 つの課題に対して 2 つのレポート)の評価結果(50%)を合計して評価する。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	老年学特講(R)	
担当教員	菅原　育子	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	老年学(ジェロントロジー)は、人間の生涯にわたる変化―生涯発達とエイジングー、および社会の高齢化―社会の構成員に占める高齢者の増加―を理解し、それらの変化がもたらす多様な課題の解明を目指す総合的な学問です。世界規模で人口高齢化が進む現代社会において、私たち一人一人がどう生きるか、どんな社会をつくるかという展望を持つために基盤となる学問と言えるでしょう。 「老年学特論」では、老いとはどんな現象か、長命化は人間に何をもたらしてきたのか、高齢社会とはどういうことか、高齢者が増えることがなぜ人々の暮らしに課題を生じさせているのか、について考えを深めます。 「老い」という誰もが経験する現象に対し、多角的な視点から理解、分析する力を修得し、「老いること」「高齢者である/になること」「高齢社会に生きること」について、一人一人が課題意識を持って考え、行動するための知識を獲得することをめざします。	
授業計画	学習をはじめる前に、自分が「老いるということをどう考えているか」「高齢者とはどんな存在だと考えているか」「自分が 80 歳、90 歳、100 歳のときにどんな暮らしをしているだろうか」といったことに思いを巡らせ、簡単で良いのでメモを取ってください。 また老年学に関連する内容の報道や記事は日々新聞、雑誌、テレビ等で取り上げられています。気になった報道や記事、あるいは個人的な経験があれば、それらについて情報を収集する、あるいはメモを取ることを心がけましょう。それらを見比べながら、以下の学習を進め課題に取り組んでいくことを求めます。 「資料集」は「老年学特講」を通じて学習する内容を概説しています。まず全体の流れを把握します。それから各章の学習に入りますが、その際には「資料集」のなかで「→ 読んでみよう・調べてみよう」で示されているデータや資料、書籍等にあたって、自ら学習を深めることが必要です。特に統計資料は、最新のデータを調べてください。さらに、資料集の最後に示された参考文献リストに載っている書籍等も学習のきっかけになるでしょう。各自の関心に応じてそれらを読み進めることで、「資料集」で取り上げられているテーマの深堀り学習をしましょう。 学習を進めながら、2つの課題に取り組みます。それぞれの課題に対して2つのレポートを提出、合計で4つのレポートを提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートは課題1(50%)、課題2(50%)として評価する。各課題について2回のレポート提出を求める。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	グリーフケア特講（SR）
担当教員	新明　一星
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。 喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。受講者は学習経験や自らの生活体験や宗教観などをもとに考え、研究的関心を持って先人の宗教的教えや心理学的先行研究を理解しようとすることが基本的態度として要求される。またグリーフケアに関する心理学・精神医学論文の多くは英語文献・実証研究であり、英語購読・心理学統計の知識が求められる。さらに仏教等の宗教に関する専門的知識や実践経験があることも望ましい。
授業計画	まず資料集をじっくり読み、概念的な部分と臨床的な部分の区別と共通するところを理解できるようにしてほしい。引用文献や抄録は訳者や著者が異なるので少し読みにくいかもしれないので注意しながら進めるようにしてほしい。最初から読むのが難しい方は4章のケアの実践のところから読んでイメージをふくらませてみてもよいだろう。全体を読んだら、自分の関心の分野についてさらに読み進めてほしい。本書で字数の都合上触れられなかったところとしては、子どもやきょうだいの死別、離婚や難民など死別以外のグリーフ、宗教におけるグリーフ、などである。これらについては、自分で検索エンジンや図書館などを用いて文献を探してみてほしい。また、周囲で死別体験を持っている人と話しあうことも有益だろう。資料集に挙げた参考文献は、臨床心理学や精神医学関係が多いが、宗教学や文化人類学、社会学、死生学などからも良書を探してほしい。外国語に強い方は英語などのホームページにもチャレンジしていただくとよいだろう。今回の改訂で資料集への翻訳著作の引用箇所が削減されているので、該当文献を取り寄せて読んでほしい。 学習方法 本科目には、①レポート、②スクーリング・レポートの2つの学習方法があり、選択することができます。 ①「レポート」を選択した場合、4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 ②「スクーリング・レポート」を選択した場合、スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される100分の講義を14コマ受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 レポートの出題範囲と課題

学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。

【学習方法①レポート(R)を選択した場合】

第1課題(出題範囲:資料集第1章、第2章、3章)

1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)

「悲嘆のプロセスについて, 具体的にひとつの遺族を取り上げ、以下の①～③に沿って、考察する」

① 自分で様々な死因、対象による遺族(例:病死、突然死、暴力的な死別(犯罪、災害、事故等)、子ども、親、きょうだいなど)を一つ選択して、「このレポートでは○○による死別遺族について考察する。」と最初に始めてください。

② その遺族がどのような悲嘆のプロセスをたどるか、その遺族の特徴をとらえて述べましょう。

③ またその悲嘆のプロセスがうまく進まない場合は、どのような状態が生じるか、何がリスクファクター(危険因子)になるのか、についても説明しましょう。

資料集は読むことが前提なので、資料集は引用文献には入れないでください。

引用文献、参考文献は、資料集巻末またはスタディガイド、またはご自身で検索された著作物、学術論文から最低2 本以上読みましょう。」

注意:

A) この課題では自分の体験談や知人の話などは書かないでください。

B) 資料集や文献の引用でなく、選んだ遺族の内容に沿った形に当てはめて考察しましょう。

C) 引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

D) 参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

E) また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

F) 箇条書きはやめ、論理的展開に留意しましょう。上記の①～③に沿った形で字数をバランスよく配置しましょう。

字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出)

「第 1 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。」(具体的には、添削で指示する。)

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意:この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそ

のまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

第2課題(出題範囲:資料集　第4章)

1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出)

「グリーフケアの実践について、資料集の該当する章を参考に、①その回復像はどのようなものか、②実践としてどんなことがされているかについて、考察しなさい。また参考文献や著作・論文の中から少なくとも 2 編を読み，その内容について言及しながら，論じなさい。」

注意:

A)　資料集の引用に終わるのではなく、自分で文献を複数読んで論述しましょう。

B)　実践、の範囲は「誰が(例えば隣人、専門職、宗教者など)」「どのように(専門的な、一般的な)」「だれに(成人、子ども、親など)」といった視点から考えるとやりやすいです。

C)　この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。

D)　引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

E)　参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

F)　また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出)

「第 2 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意:この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)

「『愛する人の死に直面する』体験に直面した人を支援するにはどうしたらよいか、これまでの学習を経て、あなた自身の考えや意見を述べなさい。」

＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

注意:この回はご自身の考えや意見を論述することが主題なので、資料集や文献のまとめをリフレインするのはやめてください。

【学習方法③スクーリング・レポート(SR)を選択した場合】

第1回課題(出題範囲:資料集第2章、第4章)

1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)

「グリーフケアの実践について、資料集の該当する章を参考に、①その回復像はどのようなものか、②実践としてどんなことがされているかについて、考察しなさい。また参考文献や著作・論文の中から少なくとも 2 編を読み, その内容について言及しながら, 論じなさい。」

注意:

G) 資料集の引用に終わるのではなく、自分で文献を複数読んで論述しましょう。

H) 実践、の範囲は「誰が(例えば隣人、専門職、宗教者など)」「どのように(専門的な、一般的な)」「だれに(成人、子ども、親など)」といった視点から考えるとやりやすいです。

I) ①②の両方についてバランスよく書きましょう。

J) この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。

K) 引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

L) 参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

M) また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出)

「第 1 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意:この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)

「『愛する人の死に直面する』体験に直面した人を支援するにはどうしたらよいか、これまでの学習を経て、あなた自身の考えや意見を述べなさい。」

＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

注意:この回はご自身の考えや意見を論述することが主題なので、資料集や文献のまとめをリフレインするのはやめてください。

【レポート作成上の諸注意】

(1) 下記の例をもとにレポートの1行目にタイトルを書いて下さい。

- 第 1 課題　悲嘆のプロセス　1 回目のレポート
- 第 1 課題　悲嘆のプロセス　2回目のレポート
- 第2課題　グリーフケアの実践　1 回目のレポート
- 第2課題　グリーフケアの実践　2回目のレポート
- 単位認定申請レポート　愛着対象の死別体験とグリーフケアに関する考察

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や引用文献からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。引用文献は資料集を除いて 2 本以上です。

(5)本文の最後に、引用文献（資料集を含む）の著者名、書名、出版年、出版社名、引用箇所（ページ）を明記して下さい（番号を付ける）。（総字数に含めない。）よく著者名を間違って記している人がおられますので、よく確認してください。

(6)文中での引用箇所は「　　」の中に入れて、文末の引用文献欄の番号と符合するように番号をつけて下さい。なお、概略を引用した場合は、概略部分の最後に番号をつけて下さい。

(7)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。

(8)レポートには見出しをつけ、適宜改行して、論旨を明確にして下さい。

(9)添付ファイルを提出する必要はありません。

(10)第1課題と第2課題のレポートに自分の考えを書くことは求めていません。資料集や参考文献に書かれている内容に基づいて説明して下さい。自分の考えは最後の「単位認定申請レポート」で書いて下さい。

＊＊＊＊＊《例》＊＊＊＊＊

●●●●●●●●●（タイトルを記載）

●●●●　●●●●●（学籍番号と氏名を記載）

1. ●●●●●●●（見出しを記載）

●●。「●●●●●●●●●」(1)。

●●(2)。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●。（●●●字）

引用文献

(1)●●●：●●●●、●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●-●）

(2)●●●：●●●●、●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●-●）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【レポートの最終成績】

レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。

	レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。 【学習方法③スクーリング・レポートを選択した場合】 第 1 回:悲嘆の概念と愛着理論 第2回:通常の悲嘆反応の特徴 第3回:悲嘆のプロセスの諸理論 第4回:通常の悲嘆の疫学 第5回:通常ではない悲嘆の概念 第6回:複雑性悲嘆の概念と変遷 第7回:複雑性悲嘆の疫学 第8回:犯罪被害者遺族 第9回:自死遺族・災害遺族 第 10 回:子どもの悲嘆 第 11 回:通常の悲嘆のケア・介入・カウンセリング 第 12 回:複雑性悲嘆の治療 第 13 回:あいまいな喪失 第 14 回:試験・まとめ ＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください。 ＜留意事項および備考＞ ①参加者の積極性、経験、目標などによって内容が変更することがある。②またこの授業は個人カウンセリングの時間ではない。自身グリーフの体験を持っていることは、むしろ歓迎すべきことだが、今グリーフにより生活に問題があると感じる人は、もっと臨床的な場面にアクセスすべき(たとえばカウンセリングを受けるべき)であり、この授業はその代替とはならない。③講義中にグループのディスカッションやプレゼンテーションを行う。④これらの予定については授業開始時に説明する。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	臨床心理士、公認心理師、医科学博士 駿河台大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修了 (2011) 山梨大学大学院 医学工学教育総合部博士課程修了 (2015) 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター (2013-2017) 国立精神・神経医療研究センター 脳神経内科 (2018-2020) TCBT カウンセリングオフィス(2018ー)
	授業内容との関連性	心理臨床、研究に従事する教員が、本領域における知見を提供する。

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	グリーフケア特講(R)
担当教員	新明 一星
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。 喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。受講者は学習経験や自らの生活体験や宗教観などをもとに考え、研究的関心を持って先人の宗教的教えや心理学的先行研究を理解しようとすることが基本的態度として要求される。またグリーフケアに関する心理学・精神医学論文の多くは英語文献・実証研究であり、英語購読・心理学統計の知識が求められる。さらに仏教等の宗教に関する専門的知識や実践経験があることも望ましい。
授業計画	まず資料集をじっくり読み、概念的な部分と臨床的な部分の区別と共通するところを理解できるようにしてほしい。引用文献や抄録は訳者や著者が異なるので少し読みにくいかもしれないので注意しながら進めるようにしてほしい。最初から読むのが難しい方は4章のケアの実践のところから読んでイメージをふくらませてみてもよいだろう。全体を読んだら、自分の関心の分野についてさらに読み進めてほしい。本書で字数の都合上触れられなかったところとしては、子どもやきょうだいの死別、離婚や難民など死別以外のグリーフ、宗教におけるグリーフ、などである。これらについては、自分で検索エンジンや図書館などを用いて文献を探してみてほしい。また、周囲で死別体験を持っている人と話しあうことも有益だろう。資料集に挙げた参考文献は、臨床心理学や精神医学関係が多いが、宗教学や文化人類学、社会学、死生学などからも良書を探してほしい。外国語に強い方は英語などのホームページにもチャレンジしていただくとよいだろう。今回の改訂で資料集への翻訳著作の引用箇所が削減されているので、該当文献を取り寄せて読んでほしい。 学習方法 本科目には、①レポート、②スクーリング・レポートの2つの学習方法があり、選択することができます。 ①「レポート」を選択した場合、4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 ②「スクーリング・レポート」を選択した場合、スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される100分の講義を14コマ受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート(1つの課題に対して2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 レポートの出題範囲と課題

学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。

【学習方法①レポート(R)を選択した場合】

第1課題(出題範囲:資料集第1章、第2章、3章)

1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)

「悲嘆のプロセスについて, 具体的にひとつの遺族を取り上げ、以下の①～③に沿って、考察する」

① 自分で様々な死因、対象による遺族(例:病死、突然死、暴力的な死別(犯罪、災害、事故等)、子ども、親、きょうだいなど)を一つ選択して、「このレポートでは〇〇による死別遺族について考察する。」と最初に始めてください。

② その遺族がどのような悲嘆のプロセスをたどるか、その遺族の特徴をとらえて述べましょう。

③ またその悲嘆のプロセスがうまく進まない場合は、どのような状態が生じるか、何がリスクファクター(危険因子)になるのか、についても説明しましょう。

資料集は読むことが前提なので、資料集は引用文献には入れないでください。

引用文献、参考文献は、資料集巻末またはスタディガイド、またはご自身で検索された著作物、学術論文から最低2 本以上読みましょう。」

注意:

A) この課題では自分の体験談や知人の話などは書かないでください。

B) 資料集や文献の引用でなく、選んだ遺族の内容に沿った形に当てはめて考察しましょう。

C) 引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

D) 参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

E) また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

F) 箇条書きはやめ、論理的展開に留意しましょう。上記の①～③に沿った形で字数をバランスよく配置しましょう。

字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出)

「第 1 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。」(具体的には、添削で指示する。)

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意:この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

第2課題(出題範囲:資料集 第4章)

1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出)

「グリーフケアの実践について、資料集の該当する章を参考に、①その回復像はどのようなものか、②実践としてどんなことがされているかについて、考察しなさい。また参考文献や著作・論文の中から少なくとも 2 編を読み，その内容について言及しながら，論じなさい。」

注意:

A) 資料集の引用に終わるのではなく、自分で文献を複数読んで論述しましょう。

B) 実践、の範囲は「誰が(例えば隣人、専門職、宗教者など)」「どのように(専門的な、一般的な)」「だれに(成人、子ども、親など)」といった視点から考えるとやりやすいです。

C) この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。

D) 引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

E) 参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

F) また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出)

「第 2 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意:この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し(文献リストは文字数には含みません)、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)

「『愛する人の死に直面する』体験に直面した人を支援するにはどうしたらよいか、これまでの学習を経て、あなた自身の考えや意見を述べなさい。」

＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)本文が終わったところで字数を記入してください。

注意:この回はご自身の考えや意見を論述することが主題なので、資料集や文献のまとめをリフレインするのはやめてください。

【学習方法③スクーリング・レポート(SR)を選択した場合】

第1回課題（出題範囲：資料集第2章、第4章）

1回目のレポート（WBTの No.1 区分「レポート」に提出）

「グリーフケアの実践について、資料集の該当する章を参考に、①その回復像はどのようなものか、②実践としてどんなことがされているかについて、考察しなさい。また参考文献や著作・論文の中から少なくとも 2 編を読み，その内容について言及しながら，論じなさい。」

注意：

G) 資料集の引用に終わるのではなく、自分で文献を複数読んで論述しましょう。

H) 実践、の範囲は「誰が（例えば隣人、専門職、宗教者など）」「どのように（専門的な、一般的な）」「だれに（成人、子ども、親など）」といった視点から考えるとやりやすいです。

I) ①②の両方についてバランスよく書きましょう。

J) この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。

K) 引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し（文献リストは文字数には含みません）、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。

L) 参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。

M) また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）本文が終わったところで字数を記入してください。

2回目のレポート（WBTの No.2 区分「レポート」に提出）

「第 1 課題第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。（具体的には、添削で指示する。）」

＊この回は、各自のレポートの添削者のコメント内容をもとに、発展的に再学習し、レポートを再構成あるいは加筆していただくものです。前回レポートと同じ内容ではなく、添削時に指示された表題に沿って書くようにしてください。

注意：この課題では自分の体験談や知人の話などを書く必要はありません。引用した文献や著作はリストをレポート本文の後に記載し（文献リストは文字数には含みません）、本文中の該当箇所にはリストの番号にて示してください。参考文献の書き方は資料集内の参考文献のページを参照してください。また本文中に文献引用した文章をそのまま挿入する場合は 500 字までとし、要約して挿入する場合でも全字数の 2 分の 1 を超えないよう注意して下さい。

＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）本文が終わったところで字数を記入してください。

単位認定申請レポート課題（WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出）

「『愛する人の死に直面する』体験に直面した人を支援するにはどうしたらよいか、これまでの学習を経て、あなた自身の考えや意見を述べなさい。」

＊字数：1,600 字程度（1,400 字から 1,800 字まで）本文が終わったところで字数を記入してください。

注意：この回はご自身の考えや意見を論述することが主題なので、資料集や文献のまとめをリフレインするのはやめてください。

【レポート作成上の諸注意】

（1）下記の例をもとにレポートの1行目にタイトルを書いて下さい。

・ 第 1 課題　悲嘆のプロセス　1 回目のレポート
・ 第 1 課題　悲嘆のプロセス　2回目のレポート
・ 第2課題　グリーフケアの実践　1 回目のレポート
・ 第2課題　グリーフケアの実践　2回目のレポート
・ 単位認定申請レポート　愛着対象の死別体験とグリーフケアに関する考察

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や引用文献からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。引用文献は資料集を除いて 2 本以上です。

(5)本文の最後に、引用文献（資料集を含む）の著者名、書名、出版年、出版社名、引用箇所（ページ）を明記して下さい（番号を付ける）。（総字数に含めない。）よく著者名を間違って記している人がおられますので、よく確認してください。

(6)文中での引用箇所は「　　」の中に入れて、文末の引用文献欄の番号と符合するように番号をつけて下さい。なお、概略を引用した場合は、概略部分の最後に番号をつけて下さい。

(7)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。

(8)レポートには見出しをつけ、適宜改行して、論旨を明確にして下さい。

(9)添付ファイルを提出する必要はありません。

(10)第1課題と第2課題のレポートに自分の考えを書くことは求めていません。資料集や参考文献に書かれている内容に基づいて説明して下さい。自分の考えは最後の「単位認定申請レポート」で書いて下さい。

＊＊＊＊＊《例》＊＊＊＊＊

●●●●●●●●●（タイトルを記載）

●●●●　●●●●●（学籍番号と氏名を記載）

1．●●●●●●●（見出しを記載）

●●。「●●●●●●●●●」(1)。
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●(2)。
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●。（●●●字）

引用文献

(1)●●●：●●●●、●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●－●）

(2)●●●：●●●●、●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●－●）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【レポートの最終成績】

レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。

レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。

【学習方法③スクーリング・レポートを選択した場合】

第 1 回:悲嘆の概念と愛着理論

第2回:通常の悲嘆反応の特徴

第3回:悲嘆のプロセスの諸理論

第4回:通常の悲嘆の疫学

第5回:通常ではない悲嘆の概念

第6回:複雑性悲嘆の概念と変遷

第7回:複雑性悲嘆の疫学

第8回:犯罪被害者遺族

第9回:自死遺族・災害遺族

第 10 回:子どもの悲嘆

第 11 回:通常の悲嘆のケア・介入・カウンセリング

第 12 回:複雑性悲嘆の治療

第 13 回:あいまいな喪失

第 14 回:試験・まとめ

＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください。

＜留意事項および備考＞

①参加者の積極性、経験、目標などによって内容が変更することがある。②またこの授業は個人カウンセリングの時間ではない。自身グリーフの体験を持っていることは、むしろ歓迎すべきことだが、今グリーフにより生活に問題があると感じる人は、もっと臨床的な場面にアクセスすべき(たとえばカウンセリングを受けるべき)であり、この授業はその代替とはならない。③講義中にグループのディスカッションやプレゼンテーションを行う。④これらの予定については授業開始時に説明する。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	臨床心理士、公認心理師、医科学博士 駿河台大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修了 (2011) 山梨大学大学院 医学工学教育総合部博士課程修了 (2015) 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター (2013-2017) 国立精神・神経医療研究センター 脳神経内科 (2018-2020) TCBT カウンセリングオフィス(2018ー)
	授業内容との関連性	心理臨床、研究に従事する教員が、本領域における知見を提供する。
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	カウンセリング特講(R)
担当教員	野口　普子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	臨床心理学において，欧米では 1990 年代ごろよりエビデンス・ベースト・カウンセリング（実証に基づくカウンセリング　Evidence-based Counseling: EBC）という治療効果の明確な技法を用いようとする理念が広がっており，これは日本の心理臨床においても重要な考え方です。 エビデンス・ベースト・カウンセリングとしては，認知行動療法がよく知られていますが，認知行動療法といっても，各疾患に対する心理学的理論的に基づいて開発されているので，疾患に対するアプローチが異なります。つまり，カウンセリングの基礎となる心理学的理論を検証し知見を蓄積することも重要です。 本科目では，エビデンス・ベースト・カウンセリングの考え方について学び，日本から発信された認知行動療法に関する知見について紹介します。 また，自然災害や犯罪などのトラウマ体験によって引き起こされる外傷後ストレス障害（PTSD）を例に，心理学的基礎理論に基づくカウンセリング技法を紹介し，その基礎となる心理学モデルの検証に関する知見の紹介，臨床場面におけるカウンセリングの実際について学び，エビデンス・ベースト・カウンセリングに対する理解を深めることを目標とします。
授業計画	カウンセリングについて学ぶときには，技法やスキルを学ぶとイメージする人も多いと思います。しかし，カウンセリングの技法やスキルは演習や実践で学ぶ必要があるので，通信教育では限界があります。また，一般的にカウンセリングという用語は広く知られるようになりましたが，カウンセリングのどのように評価や有効性についてかんがえているのかは良く知られていないのが現状といえます。 　そこで，この科目ではカウンセリングの評価の 1 つであるエビデンス・ベーストという考え方を学びます。エビデンス・ベーストとは実証に基づくと訳され，多くの研究結果を客観的に評価するというものです。したがって，研究データを解析するためには，統計用語なども出てきます。みなさんが統計解析を実際行うことはありませんので，計算式を使いこなす必要はありませんが，統計の意味については，各自で調べて見てください。 まず，資料集を読んでください。資料集は，大きく分けて 2 つの部分から成り立っています。 一つ目は，エビデンス・ベースト・カウンセリングについて紹介します（資料 1-5）。 まず，エビデンス・ベースト・カウンセリングの理論的基礎について学び（資料 1），うつ病の認知行動療法（資料 2）について概観します。そして，うつ病に対する認知行動療法に対するエビデンスの検討方法について多角的に学べるように，日本において臨床心理士が認知行動療法を実施することについての有効性を検討した研究（資料 3），日本におけるうつ病に対する認知行動療法の有効性を検討した研究（資料 4），うつ病に対する認知行動療法のなかでも老年期や不眠といった対象や症状について言及した研究（資料 5）を所収しています。 　二つ目は，PTSD を軸に論文（資料 6-9，補足 1，2）を所収しています。 　まず，PTSD の病態について理解し（補足 1），PTSD に対する認知行動療法の理論的背景について概観します（資料 6）。そして，日本における治療法のエビデンスについて（資料 7），理論的背景に関する基礎調査研究（資料 8），臨床現場の実際（資料 9）について説明しています。また，資料 8 を補うものとして臨床心理学的視点から見た PTSD の認知的モデルについて（補足 2）があります。

	また，外国語に強い方は，各資料の引用文献の原著や英語のホームページに当たると，それぞれの論文や研究の良さ，最新の国際的な情報に触れることができ，知見を深めることができると思われます。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	○
	b その他	
	レポートの最終成績は，課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に，単位認定申請レポートの内容によって，加点・減点した点数になります。なお，課題レポートの再提出によって合格した場合，不合格のレポートがあることになり，不合格のレポートを含めると，平均点が 60 点未満になることもありますが，この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は，課題レポートを基礎にした成績になるため，課題レポートの全てに合格していれば，単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	公認心理師・臨床心理士としての臨床経験
	授業内容との関連性	公認心理師・臨床心理士としての実務経験や、カウンセリングについての知見をもとに授業を行なっていく。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教史特講(S)
担当教員	長尾 重輝
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	本科目では、紀元前5世紀にインドに生まれた仏教が、インド国内はもとより、アジア各地へ広く展開した歴史を学びます。各地に伝播した仏教は、その土地の宗教や文化全般に多大な影響を与えたことは言うまでもありませんが、同時に、仏教自体もその土地の信仰や習俗から様々な影響を受け、変容してきたことも重要な事実です。本科目では、2500 年に及ぶ仏教の歴史を、インド、中国、日本、そして東南アジアの四地域に分けて概観することにより、仏教に対する総合的、大局的な見方を養うことを到達目標とします。
授業計画	本科目には、①レポート、②スクーリングの2つの学習方法があり、選択することができます。 ①レポートを選択した場合、4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 ②スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で毎週開催される原則100分の講義を28時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 レポートの出題範囲と課題 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 第1課題(出題範囲:資料集 第1章と第4章) ○1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「インド、スリランカ、及び、東南アジアの仏教の歴史において、仏教教団と政治権力(たとえば、王権)との関係について、少なくとも二ヶ国の事例に言及しながら、論じなさい。論述の際、以下の諸点に留意すること」 留意点: ①事例として取り上げる国のなかに、インドは必ず含めること。 ②論述の際、一つの国全体の仏教史として考察してもよいし、一つの国のどこか特定の時期に絞って論述してもよい。(たとえば、インドのマウリヤ王朝とか、タイのラタナコーシン朝、など) ③資料集本文の他に参考文献を少なくとも二編は読み、その内容を論述に反映させること。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 添削で文字数の指示があった場合には、それに従うこと。 ○2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

第2課題（出題範囲：資料集　第2章と第3章）

○1回目のレポート（WBTの No.3 区分「レポート」に提出）

「インド仏教と比較した場合の中国仏教の独自性、及び、中国仏教と比較した場合の日本仏教の独自性について、それぞれ何か一つのテーマを選んで論じなさい。なお、それぞれのテーマとして、思想的な面での独自性を一つ、教団や僧侶のあり方という面での独自性を一つを選ぶこと。（「思想面」，「教団や僧侶のあり方という面」のどちらを中国仏教，日本仏教に配当するかは自由）。」

留意点：

①課題文で求めていることを具体例で示せば、たとえば、中国仏教の独自性については、「空」の思想についてインド仏教と対比しながら中国仏教の独自性を論じ、日本仏教の独自性については、僧侶の戒律という問題について中国仏教と対比しながら日本仏教の独自性を論じる、といったようなことである。

思想面のテーマを何にするかは悩むところかと思うが、適切なテーマを選ぶ、ということ自体も評価の対象とするので、慎重に考えて欲しい。以下はあくまでも参考例であるが、たとえば、何か一つの経典をテーマにインドと中国での位置づけの相違を論ずる、仏をどのようなものと捉えるかについて相違を論ずる、死後の世界の考え方について相違を論ずる、等々、自由に興味深いテーマを考えて欲しい。

②中国仏教の独自性と日本仏教の独自性とで、それぞれ一つのテーマを選ぶ際に、両方のテーマ相互の関連性については、必ずしもこだわる必要はない。

③資料集本文の他に参考文献を少なくとも二編は読み、その内容を論述に反映させること。

＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）

○2回目のレポート（WBTの No.4 区分「レポート」に提出）

「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。（具体的には、添削で指示する。）」

＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）

単位認定申請レポート課題（WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出）

「仏教はアジア各地で多様な展開を遂げてきたが、いかなる時代、いかなる地域においても「仏教」という名のもとに、最低限、共有されていたものは何であったのか、この点について自由に論じなさい。」

＊字数：1,600 字程度（1,400 字から 1,800 字まで）

その他詳細（レポート作成上の注意点など）についてはスタディガイドをよく確認すること。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教史特講(R)
担当教員	長尾　重輝
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	本科目では、紀元前5世紀にインドに生まれた仏教が、インド国内はもとより、アジア各地へ広く展開した歴史を学びます。各地に伝播した仏教は、その土地の宗教や文化全般に多大な影響を与えたことは言うまでもありませんが、同時に、仏教自体もその土地の信仰や習俗から様々な影響を受け、変容してきたことも重要な事実です。本科目では、2500 年に及ぶ仏教の歴史を、インド、中国、日本、そして東南アジアの四地域に分けて概観することにより、仏教に対する総合的、大局的な見方を養うことを到達目標とします。
授業計画	本科目には、①レポート、②スクーリングの2つの学習方法があり、選択することができます。 ①レポートを選択した場合、4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 ②スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で毎週開催される原則100分の講義を28時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 レポートの出題範囲と課題 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 第1課題(出題範囲:資料集　第1章と第4章) ○1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「インド、スリランカ、及び、東南アジアの仏教の歴史において、仏教教団と政治権力(たとえば、王権)との関係について、少なくとも二ヶ国の事例に言及しながら、論じなさい。論述の際、以下の諸点に留意すること」 留意点: ①事例として取り上げる国のなかに、インドは必ず含めること。 ②論述の際、一つの国全体の仏教史として考察してもよいし、一つの国のどこか特定の時期に絞って論述してもよい。(たとえば、インドのマウリヤ王朝とか、タイのラタナコーシン朝、など) ③資料集本文の他に参考文献を少なくとも二編は読み、その内容を論述に反映させること。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 添削で文字数の指示があった場合には、それに従うこと。 ○2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

	第2課題（出題範囲：資料集　第2章と第3章） ○1回目のレポート（WBTの No.3 区分「レポート」に提出） 「インド仏教と比較した場合の中国仏教の独自性、及び、中国仏教と比較した場合の日本仏教の独自性について、それぞれ何か一つのテーマを選んで論じなさい。なお、それぞれのテーマとして、思想的な面での独自性を一つ、教団や僧侶のあり方という面での独自性を一つを選ぶこと。（「思想面」，「教団や僧侶のあり方という面」のどちらを中国仏教，日本仏教に配当するかは自由）。」 留意点： ①課題文で求めていることを具体例で示せば、たとえば、中国仏教の独自性については、「空」の思想についてインド仏教と対比しながら中国仏教の独自性を論じ、日本仏教の独自性については、僧侶の戒律という問題について中国仏教と対比しながら日本仏教の独自性を論じる、といったようなことである。 思想面のテーマを何にするかは悩むところかと思うが、適切なテーマを選ぶ、ということ自体も評価の対象とするので、慎重に考えて欲しい。以下はあくまでも参考例であるが、たとえば、何か一つの経典をテーマにインドと中国での位置づけの相違を論ずる、仏をどのようなものと捉えるかについて相違を論ずる、死後の世界の考え方について相違を論ずる、等々、自由に興味深いテーマを考えて欲しい。 ②中国仏教の独自性と日本仏教の独自性とで、それぞれ一つのテーマを選ぶ際に、両方のテーマ相互の関連性については、必ずしもこだわる必要はない。 ③資料集本文の他に参考文献を少なくとも二編は読み、その内容を論述に反映させること。 ＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで） ○2回目のレポート（WBTの No.4 区分「レポート」に提出） 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。（具体的には、添削で指示する。）」 ＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで） 単位認定申請レポート課題（WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出） 「仏教はアジア各地で多様な展開を遂げてきたが、いかなる時代、いかなる地域においても「仏教」という名のもとに、最低限、共有されていたものは何であったのか、この点について自由に論じなさい。」 ＊字数：1,600 字程度（1,400 字から 1,800 字まで） その他詳細（レポート作成上の注意点など）についてはスタディガイドをよく確認すること。
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」
	b その他
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教学特論(S)	
担当教員	新作 慶明	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献(翻訳を含む)に基づいて理解し、考察することができるようになることです。 具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『倶舎論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乗の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を拡げます。	
授業計画	1. 原始仏典の思想 2. アビダルマ仏教の思想 3. 戒律文献 4. 空思想 5. 唯識思想 6. 如来蔵思想	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教学特論(R)	
担当教員	新作 慶明	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献(翻訳を含む)に基づいて理解し、考察することができるようになることです。 具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『倶舎論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乗の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を拡げます。	
授業計画	1. 原始仏典の思想 2. アビダルマ仏教の思想 3. 戒律文献 4. 空思想 5. 唯識思想 6. 如来蔵思想	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	現代仏教特殊研究	
担当教員	石上 和敬・松本 紹圭	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	＜知識専門性の到達目標＞ 現代社会において仏教者（僧侶と在家信者）や寺院が果たしうる役割を考察する際，その前提となる知識を習得し，それを応用する能力を身につけることを到達目標とする． ＜関心・態度・人格の到達目標＞ 現代社会が直面する諸課題に対して仏教者や寺院がその知見に基づいて貢献できる可能性を積極的に模索することができるようになることを到達目標とする． ＜思考・判断の到達目標＞ 古典文献である仏典の思想を現代社会のテーマにどのように繋げ，活かしていくのか，という視点から思考できるようになることを到達目標とする． ＜実践的スキル・表現の到達目標＞ 古典文献の読解から得られる知見と，現代社会の諸課題を社会科学的な視点を加味しつつ分析することから得られる知見とを関連づけながら考察し，その成果をわかりやすく表現できるようになることを到達目標とする	
授業計画	前半の14回は松本紹圭が担当する．前半においては，1日2～4コマの連続授業を計4日行い（合計14コマ），各日にディスカッションやワーク、事例研究を取り入れ，テーマに関して主体的に学びを深める．講師自身の僧侶としての来歴を題材化して仏教者や寺院について議論，宗教と日本仏教を取り巻く現代の環境，「二階建て論」から見る先祖教としての日本仏教，現代仏教僧の可能性，などをテーマとする． 後半の14回は石上和敬がコーディネーターを務める．後半においては，仏教者の社会貢献，メディアから見た仏教者，現代の葬送問題，寺院の新たな挑戦，宗教法人の社会的責任，世界（特に英語圏）の仏教事情，ヨーロッパにおける仏教という7つのテー 現代仏教特殊研究-2 マの専門家を招き，1日2コマの連続授業を行い（合計14コマ），最後にそれらの学びを通して受講生各自が何らかの現代社会の課題に仏教をベースに取り組む具体案を発表し，議論する．	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	
	各講師による評価（授業態度，課題提出等）を総合して全体評価とする	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	インド思想特講（SR）	
担当教員	佐藤 裕之	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング・レポート	
単位数	4	
到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。	
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（1） 第3回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（2） 第4回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（1） 第5回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（2） 第6回：ウパニシャッドの思想 第7回：ビデオ「シャンカラの生涯（抄）」 第8回：インド思想における解脱観（1） 第9回：インド思想における解脱観（2） 第 10 回：インド思想における解脱観（3） 第 11 回：ビデオ「ガンジスの大祭：クンブ・メーラ」 第 12 回：『バガヴァット・ギーター』の思想（1） 第 13 回：『バガヴァット・ギーター』の思想（1） 第 14 回：ビデオ「生と死を見つめる聖地：ベナレス」	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	
	v レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	インド思想特講(R)	
担当教員	佐藤 裕之	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学(六派哲学)を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。	
授業計画	第1課題(出題範囲:資料集第2章、第4章) 第2課題(出題範囲:資料集第3章、第4章) 単位認定申請レポート	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	100
	b その他	
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	インド仏教特講（S）
担当教員	日野　慧運
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乗仏教の興起の問題、そして、大乗経典の研究方法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。
授業計画	〈スクーリングの概要〉 スクーリングは通学制との合同授業となります。 スクーリングでは、資料集とは別に、必要な資料を配布して講義を行います。 なお、講義内容は予定であり、受講生が関心のあるテーマを可能な限り取り上げるようにします。 〈スクーリングの講義予定〉 第1回：イントロダクション 第2回：釈尊の生涯（1） 第3回：釈尊の生涯（2） 第4回：釈尊の生涯（3） 第5回：初期・部派仏教の仏典（1） 第6回：初期・部派仏教の仏典（2） 第7回：初期・部派仏教の仏典（3） 第8回：フォローアップ 第9回：大乗仏教の興起（1） 第 10 回：大乗仏教の興起（2） 第 11 回：大乗仏教の興起（3） 第 12 回：大乗経典の研究(1) 第 13 回：大乗経典の研究(2) 第 14 回：大乗経典の研究(3) 第 15 回：フォローアップ 第 16 回：初期仏典を読む（1） 第 17 回：初期仏典を読む（2） 第 18 回：初期仏典を読む（3） 第 19 回：初期仏典を読む（4） 第 20 回：初期仏典を読む（5） 第 21 回：フォローアップ 第 22 回：大乗経典を読む（1） 第 23 回：大乗経典を読む（2）

	第 24 回:大乘経典を読む (3) 第 25 回:大乘経典を読む (4) 第 26 回:大乘経典を読む (5) 第 27 回:期末試験 第 28 回:(予備日) ＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	インド仏教特講(R)
担当教員	日野 慧運
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乗仏教の興起の問題、そして、大乗経典の研究方法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。
授業計画	〈レポートの出題範囲と課題〉 レポートは、資料集にもとづいて各自執筆・提出します。 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。第1回は課題についてのレポートであり、第2回は第1回レポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートとします。したがって、第1回レポートの課題は全学生に共通ですが、第2回レポートの課題は学生によって異なります。 第1課題(出題範囲:資料集第 1 章・第 2 章) 第1回レポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「仏伝のなかから一つのテーマを取り上げ、当該テーマに関連する複数の原典資料と近現代の研究に触れながら、論述しなさい。」 ＊字数:2,200 字以上 2,600 字以内 ＊留意点: 1. 「一つのテーマ」とは、たとえば資料集論文 1-4 でいう「誕生」、「若き日の釈尊」くらいのまとまりと考えること。 2. 「複数の原典資料(…)に触れながら」とあるが、原典資料は現代語訳されたものでも構わない。ただし資料の特徴や仏教資料全体の中での位置付けなどを理解し、必要があれば説明すること。(資料集第 1 章論文 1-2、第 2 章論文 2 を参照するほか辞典類で調べること) 3. 「近現代の研究に触れながら」とは、たとえば資料集に挙げる参考文献などを複数参照し、これらを引用・言及などの形で論述に取り入れる、ということである。 第2回レポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートを、添削内容に基づいて書き直し、完成させなさい。」 ＊字数:2,200 字以上 2,600 字以内 第2課題(出題範囲:資料集第 3 章・第 4 章) 第1回レポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出) 「大乗仏教の興起に関するこれまでの主要な学説を整理し、論述しなさい。」

＊字数:2,200 字以上 2,600 字以内

＊留意点:

1. 大乗経典がどのように出現したと考えられているか、というテーマには必ず触れること。
2. 資料集に挙げる参考文献を、必ず複数、参照・紹介すること。

第2回レポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出)

「第1回レポートを、添削内容に基づいて書き直し、完成させなさい。」

＊字数:2,200 字以上 2,600 字以内

単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)

「主要な大乗経典(資料集 81～86 頁)の中から一つを選び、その経典に説かれる思想内容が、現代社会が直面する諸課題の解決に資する可能性について自由に論じなさい。」

＊字数:1,400 字以上 1,800 字以内

〈レポート作成上の諸注意〉

(1)レポートの1行目に適切なタイトルを書いて下さい。

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や参考文献からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。

(5)資料集以外の参考文献を調べた場合には、本文の最後に、その書名、出版社名、出版年を必ず明記して下さい。(字数に含めない。)

(6)資料集や参考文献から引用する場合には、必ず引用文を「 」に入れて下さい。自分の言葉で要約する場合は「 」は必要ありません。いずれの場合も、引用元の書名とページ数を明記して下さい。

(7)レポートは論旨を明確にし、パラグラフ毎に小見出しをつけたり、適宜改行するなどして読みやすさを心がけて下さい。

(8)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。

(9)添付ファイルを提出する必要はありません。

(10)第1課題と第2課題のレポートに自分の考えを書くことは求めません。資料集や参考文献に書かれている内容に基づいて説明して下さい。自分の考えは最後の「単位認定申請レポート」で書いて下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊《例》＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●●●●●●●●●●●●(タイトル)

△△△△△△△　□□□□(学籍番号と氏名)

1. ○○○○○○○○○○(小見出し)

・・・・・・・・・・・・・・・(引用の場合)「▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲」(1)。・・・・・・

・・(自分の言葉で要約する場合)●●●●●●●●●●●(2)。・・・・・・・・・・・・・・。

注

(1)(著編者)『書名』出版社名、出版年、p.xx(複数頁の場合、pp.yy-zz)

(2)(著編者)『書名』出版社名、出版年、p.xx

(▲▲▲▲字)

	＊＊＊ 〈レポートの最終成績〉 レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」		○
	b その他		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	インド語仏教文献講読
担当教員	下田　正弘
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	＜知識の専門性の到達目標＞ 西洋思想の根幹を形成したインド・ヨーロッパ語の代表的存在であるサンスクリット語の特性を学び、サンスクリット語で記されたインド仏教文献を読解するに必要な工具書（文法書、辞書、構文書）を用い、自力で解読することのできる基礎知識を身につける。仏教の中心となる諸概念についてインド言語にもとづいた理解を習得する。 ＜関心・態度・人格の到達目標＞ いかに読めないもの、読みにくいものであっても、対象となる過去の文献に向かいつづけてゆくことは、古来、人格形成のための基盤とされてきた。聖典を原語で読む行為は、倫理的態度育成に重要な役割を果たす。聖典を読解するという、ただ一つの行為を通して、ひとは、自分自身が、いかに世界に、他者に、自己に、過去に、現在に、未来に関わっているかを経験する。その先に、さらに自己を超えた地平が遥々と開けていることを実感するだろう。 ＜思考・判断の到達目標＞ インド・ヨーロッパの精神世界を構成した言語による思想構築の営為を辿りなおすことで、漢語や和語を通してある意味で日常化し曖昧化された仏教の概念を明瞭にとらえ直す。同時に、きわめて精密な論理で組み立てられつつ、それが論理の限界点に達して廃棄され、あらたな存在へと変じてゆく思想の運動を追跡することのできる思考力、認識力を育成する。 ＜実践的スキル・表現の到達目標＞ 原語聖典の読解を通しつつ、その解読の成果がどのような経緯を経れば、学術論文に結実してゆくかという方法を学習し、読解準備→読解→課題の析出→参考知識の総合→読解結果の表現、という一連のプロトコルを学ぶ。 ＜「響学スパイラル」取り組み方法＞ 仏教の聖典の読解は、教師と学生の双方向からなる共同的な行為として進むことを経験し、「響学スパイラル」の理念が実現される場となる。それを実現するため、受講生はつねに事前の準備をし、自身の理解をまとめて講義に臨むことが必要である。
授業計画	インド大乗仏教の原典を解読し、その思想に直接触れることを最終の目的とする。そのため、前期に文法知識全体を押さえ、それを踏まえて、後期に大乗経典（阿弥陀経、法華経等）あるいは論書（中観、唯識、仏性・如来蔵思想関係等）の中から、その思想の核心が窺える部分を、適宜抜粋して講読する。 第01回　サンスクリット語文法（1）全体の概要 第02回　サンスクリット語文法（2）名詞の曲用 第03回　サンスクリット語文法（3）名詞の曲用 第04回　サンスクリット語文法（4）代名詞と数詞 第05回　サンスクリット語文法（5）動詞概観，現在語幹 第06回　サンスクリット語文法（6）動詞，現在形，未来形

	第07回 サンスクリット語文法(7)動詞, 過去形, 使役形, 受動態 第08回 サンスクリット語文法(8)複合語 第09回 サンスクリット語文法(9)構文論 第10回 サンスクリット語文法(10)構文論 第11回 仏教文献講読(1)(『法華経』「方便品」(1)) 第12回 仏教文献講読(2)(『法華経』「方便品」(2)) 第13回 仏教文献講読(3)(『法華経』「方便品」(3)) 第14回 仏教文献講読(4)(『法華経』「方便品」(4)) 第15回 仏教文献講読(5)(『法華経』「方便品」(5)) 第16回 仏教文献講読(6)(『法華経』「方便品」(6)) 第17回 仏教文献講読(7)(『法華経』「方便品」(7)) 第18回 仏教文献講読(8)(『法華経』「方便品」(8)) 第19回 仏教文献講読(9)(『宝性論』(1)) 第20回 仏教文献講読(10)(『宝性論』(2)) 第21回 仏教文献講読(11)(『宝性論』(3)) 第22回 仏教文献講読(12)(『宝性論』(4)) 第23回 仏教文献講読(13)(『宝性論』(5)) 第24回 仏教文献講読(14)(『宝性論』(6)) 第25回 仏教文献講読(15)(『宝性論』(7)) 第26回 仏教文献講読(16)(『宝性論』(8)) 第27回 仏教文献講読(17)(『宝性論』(9)) 第28回 仏教文献講読(18)(『宝性論』(10))

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	中国思想特講	
担当教員	遠藤 祐介	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	儒家や道家をはじめとする代表的な中国思想の概要を理解する。 また諸子百家の思想に基づいて、各時代の思想家たちが独自の理論を構築し、哲学的あるいは宗教的な方法で真理の把捉を目指した様子や、彼らが目指した理想社会とは何かを理解し、中国思想と現代日本との接点をリアルに感じられるようになることを目指す。	
授業計画	本科目では、中国における中国思想専攻の大学院生にとって必読の書とされる任継愈主編『中国哲学史』の原書講読をおこなう。 これに付随して、『中国哲学史』の理解を深めるために、入手しやすく読みやすい中国の古典を紹介する。 なお、中国語学習歴が無くても、インターネットで無料公開している中日辞典等を活用して、専門用語を事前に調べる作業をいとわないのであれば、授業に参加することが可能である。 必要に応じて現代中国語のレクチャーもおこなう予定である。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	担当箇所の翻訳文と口頭説明を総合した出来具合（100%）に基づいて成績評価をおこなう。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	中国仏教特講(S)	
担当教員	西本 照真	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。スクーリング(S)は、前半の授業では中国仏教の展開を理解する上で重要な諸論文を読み、中国仏教の特質について討論します。後半は、履修者の希望に応じて内容を相談しながら進めていきたいと思いますが、特に希望がなければ、隋唐代に広く読まれた仏教文献、あるいは隋唐代に成立した仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読します。もし、特に希望がなければ、令和4年度は、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顗が著わした『法界次第初門』(大正新修大蔵経 46 巻 664 頁～698 頁)の輪読を行う予定です。仏教の基本的なターム、たとえば四弘誓願、六波羅蜜などに関して、天台教学に基づいてどのように説明がなされているかを学びます。	
授業計画	第1回～第14回 中国仏教の展開を理解する上で重要な諸論文を読み、中国仏教の特質について討論します。 第15回～第28回 履修者の希望に応じてご相談しながら内容を決めたいと思います。特にご希望がない場合には、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顗が著わした『法界次第初門』(大正新修大蔵経 46 巻 664 頁～698 頁)の輪読を行う予定です。仏教の基本的なターム、たとえば四弘誓願、六波羅蜜などに関して、天台教学に基づいてどのように説明がなされているかを学びます。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	毎週開催される100分の講義を28時限受講し,輪読の担当、授業における討論への積極的参加などを総合して評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	中国仏教特講(R)
担当教員	西本 照真
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。レポート(R)では、中国仏教史の展開を押さえた上で、隋唐の実践的仏教の一宗派である三階教の思想と活動に焦点を当てて学んでいきます。
授業計画	レポート課題は、第1課題と第 2 課題の2つです。1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 4つのレポート課題を終了したら、最後に、単位認定申請レポート課題を提出してください。 第1課題(出題範囲:テキスト第1章・第2章) ★1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「隋唐代までの中国仏教の歴史を通観した上で、仏教が中国化したのか、中国が仏教化したのかという点に関して、論じなさい」 ＊資料集の最後に付した参考文献の中から、各章ごとに最低2文献を読んだ上で、そこで紹介されていた具体的な事例をふまえて論じること。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ★2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 第2課題(出題範囲:テキスト第3章・第4章) ★1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出) 「第3章と第4章を参考として三階教の人間観の特質についてまとめ、その現代的意義について論じなさい。」 ＊それぞれの資料の思想を自分なりの表現に置き換えて述べ、それがさらにどのような現代的な意義をもっているかを述べていくとよい。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ★2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出) 「中国の仏教思想の人間観、実践観が現代社会の諸問題を解決する上でいかなる意義を持ちうるか、あなたの考えを述べなさい。」

	＊現代社会の諸問題について具体的にどう捉えているか明らかにした上で、中国仏教の思想や実践がいかなる点でその問題の解決に寄与しうるかについて、論述してください。 ＊字数：1,600 字程度（1,400 字から 1,800 字まで）	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、各レポート25%として、合計100%とした上で評価する。すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	近代仏教特講	
担当教員	碧海 寿広	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	近代世界における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想、そして現代へと連なる新しい仏教文化の広がりを学ぶ。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。 ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。	
授業計画	はじめに、近代仏教の基本的な性格や、その研究方法について、近代における仏教と国家（社会）とのかかわりや戦争との関係に注目しながら概要を学ぶ。その上で、日本の近代仏教を「思想」「文化」「国際化」という3つの観点から、それぞれ詳しく学習していく。 「思想」については、清沢満之や近角常観といった真宗系の仏教者たちを中心にしつつ、宗派を超えた仏教を目指した「通仏教」の思想や日蓮主義運動の意義を学ぶ。「文化」については、近現代において葬祭儀礼や巡礼・遍路といった民俗文化がいかに変容したのかを知るとともに、古寺・仏像や仏教文学の近代的な展開に関しても理解を得る。「国際化」については、明治以降の日本仏教の国際交流や海外進出、近現代のスピリチュアリティ現象との関係を学びつつ、大谷光瑞による探検隊などの事業や、鈴木大拙の「禅（Zen）」に代表される仏教の欧米化の流れ、そして本学の学祖である高楠順次郎の活動や思想について学習する。 最後に、現代の日本仏教がいかなる状況にあるのかを具体的に理解した上で、これまでの学習で得られた知識を応用しつつ、現代に生きる私たちが仏教の可能性を探るための方法について考える。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	授業参加時の平常点のみで評価する	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	近代仏教特講(R)	
担当教員	碧海 寿広	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	近代世界における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想、そして現代へと連なる新しい仏教文化の広がりを学ぶ。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。 ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。	
授業計画	はじめに、近代仏教の基本的な性格や、その研究方法について、近代における仏教と国家(社会)とのかかわりや戦争との関係に注目しながら概要を学ぶ。その上で、日本の近代仏教を「思想」「文化」「国際化」という3つの観点から、それぞれ詳しく学習していく。 「思想」については、清沢満之や近角常観といった真宗系の仏教者たちを中心にしつつ、宗派を超えた仏教を目指した「通仏教」の思想や日蓮主義運動の意義を学ぶ。「文化」については、近現代において葬祭儀礼や巡礼・遍路といった民俗文化がいかに変容したのかを知るとともに、古寺・仏像や仏教文学の近代的な展開に関しても理解を得る。「国際化」については、明治以降の日本仏教の国際交流や海外進出、近現代のスピリチュアリティ現象との関係を学びつつ、大谷光瑞による探検隊などの事業や、鈴木大拙の「禅(Zen)」に代表される仏教の欧米化の流れ、そして本学の学祖である高楠順次郎の活動や思想について学習する。 最後に、現代の日本仏教がいかなる状況にあるのかを具体的に理解した上で、これまでの学習で得られた知識を応用しつつ、現代に生きる私たちが仏教の可能性を探るための方法について考える。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートの点数に基づき評価する	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	東南アジア仏教特講
担当教員	山田 均
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	東南アジアおよびスリランカに行われている上座部仏教を歴史的、教義的、民俗学的に概観し、その概要を把握する。 東南アジア以外にも沖縄、台湾、韓国についてもその仏教信仰について概要を把握し、仏教理解を深める一助とする。
授業計画	(前期) 第 1 回:イントロダクション 第 2 回:上座部仏教の歴史(インド) 第 3 回:上座部仏教の歴史(スリランカ) 第 4 回:上座部仏教の歴史(ミャンマー) 第 5 回:上座部仏教の歴史(タイ) 第 6 回:上座部仏教の歴史(カンボジア、ラオス、雲南省) 第 7 回:上座部仏教の教団生活 第 8 回:上座部仏教の教団生活 第 9 回:上座部仏教の教団生活 第 10 回:上座部仏教の教団生活 第 11 回:上座部仏教の在家信者生活 第 12 回:上座部仏教の在家信者生活 第 13 回:上座部仏教の在家信者生活 第 14 回:まとめ (後期) 第 15 回:上座部仏教と芸術(仏塔) 第 16 回:上座部仏教と芸術(絵画) 第 17 回:上座部仏教と芸術(仏像) 第 18 回:上座部仏教と芸術(文学・芝居) 第 19 回:上座部仏教と国家・教育 第 20 回:上座部仏教と国家・教育 第 21 回:上座部仏教と国家・教育 第 22 回:上座部仏教と国家・教育 第 23 回:まとめ 第 24 回:上座部仏教と民間信仰(祖霊信仰) 第 25 回:上座部仏教と民間信仰(超能力僧) 第 26 回:上座部仏教と民間信仰(呪術) 第 27 回:上座部仏教と民間信仰(その他) 第 28 回:まとめ

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	授業での応答などで理解度を評価する。折りにふれて口頭試問的に受講者との対話を行う。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	外国語仏教文献講読	
担当教員	A・ チャールズ・ミュラー	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	4	
到達目標	英語で仏教について話せるようになる為、英語の仏教書を読む。	
授業計画	第 1 回 テキスト を決める 第 2 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 3 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 4 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 5 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 6 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 7 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 8 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 9 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 10 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 11 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 12 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 13 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 14 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 15 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 16 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 17 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 18 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 19 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 20 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 21 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 22 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 23 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 24 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 25 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 26 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 27 回 テキスト を読で、内容を議論する 第 28 回 テキスト を読で、内容を議論する	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	
	講師は、学期を通じての授業への参加状況の平均的な成績に基づき、受講者の成績を決定する。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	1993 年 8 月 ニューヨーク州立大学大学院(ストーニブルック校)比較文学科博士課程修了(文学博士) 1987 年 9 月 ニューヨーク州立大学比較文学部・非常勤講師(～1993 年 8 月) 1994 年 4 月 東洋学園大学助教授(～1997 年 3 月) 1997 年 4 月 同 上 教授(～2008 年 8 月) 2005 年 4 月 東京大学教養学部・英語科・非常勤講師(～2007 年 3 月) 2008 年 10 月 東京大学人文社会系研究科・特任教授(～2013 年 9 月) 2013 年 10 月 東京大学人文社会系研究科・教授	
	授業内容との関連性	講師は仏教学の専門家である	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	浄土教特講(S)
担当教員	石上 和敬・前田 壽雄
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、＜無量寿経＞、＜阿弥陀経＞、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。 ①レポート(R)では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。 ②スクーリング(S)では、上記の三経典の講読が講義の中心となる。(詳細は「スクーリングの講義内容」を参照のこと。
授業計画	本講義は，浄土三部経を読解することをその骨子とする．初めに浄土三部経の文献資料と浄土思想の概要について解説を行い，続けて，＜無量寿経＞，＜阿弥陀経＞，そして『観無量寿経』の重要な部分を講読していく．＜無量寿経＞，＜阿弥陀経＞については，インド語原典からの和訳と対応する漢訳とを対照させながら読み進める．なお，出席学生の習熟度等に合わせて，授業の進め方は適宜，判断していくものとする． スクーリングでは、資料集以外の資料を配布して、講義を行います。 第1回 イントロダクション 第2回 ＜無量寿経＞文献資料の概要① 第3回 同② 第4回 ＜阿弥陀経＞文献資料の概要 第5回『観無量寿経』文献資料の概要 第6回 浄土教の基本思想① 阿弥陀仏 第7回 同② 本願 第8回 同③ 浄土 第9回 同④ 往生 第 10 回 同⑤ 念仏 第 11 回 ＜無量寿経＞読解① 第 12 回 同② 第 13 回 同③ 第 14 回 同④ 第 15 回 同⑤ 第 16 回 同⑥ 第 17 回 同⑦ 第 18 回 同⑧ 第 19 回 同⑨ 第 20 回 同⑩

	第 21 回 同⑪ 第 22 回 同⑫ 第 23 回 ＜阿弥陀経＞読解① 第 24 回 同② 第 25 回 同③ 第 26 回『観無量寿経』読解① 第 27 回 同② 第 28 回 同③ ＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	スクーリングを選択した場合、スクーリングは、本学で開催される講義（100分の講義を計27時限）を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	浄土教特講(R)
担当教員	石上 和敬・前田 壽雄
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、＜無量寿経＞、＜阿弥陀経＞、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。 レポート(R)では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。
授業計画	○資料集解説 前田壽雄編『資料集(浄土教特講)』 資料1 藤田宏達「浄土三部経の思想と解釈」(『浄土三部経の研究』、岩波書店、2007 年) ＜この資料のねらい＞ 「第一節 阿弥陀仏の思想」では、阿弥陀仏の原語とその由来、大乗思想としての阿弥陀仏について理解した上で、浄土三部経においてそれぞれどのように阿弥陀仏の思想が説かれているのかを把握する。 「第二節 本願の思想」では、＜無量寿経＞の本願説について、本願の原語や＜無量寿経＞諸異本における本願の比較対照を踏まえ、四十八願の考察を行う。 ＜学習のポイント・ヒント＞ (1)第一節 阿弥陀仏の思想 阿弥陀仏の原語は、サンスクリット語でアミターユスとアミターバという二つの仏名で表される。まず、これらの原語がどのような意味であるのか、その由来は何かを把握する。また、この二つの原語が漢訳されると、「無量光」よりも「無量寿」の方が圧倒的に多く使用されるようになる。その理由は何か、「無量寿」と「無量清浄」という訳語から考える。 次に阿弥陀仏が大乗思想のどのような基盤に立脚して成立したものであるのかを考え、大乗仏教を奉ずる人々にとって、阿弥陀仏とは救済仏として望まれたところに出現した仏であったことを導き出す。そして、阿弥陀仏の思想を生み出した大乗仏教がどのような起源を持つのか、といった問題についてその学説を整理する。 さらに、＜無量寿経＞、＜阿弥陀経＞、『観無量寿経』の三経典に阿弥陀仏がどのように説示されているのかを把握する。 (2)第二節 本願の思想

阿弥陀仏が大乗菩薩道の完成者であることを示す法蔵説話の中に誓われている本願とは、＜無量寿経＞の根幹をなす重要な教説である。まず、本願の原語とその意味を明確にする。

次に諸異本によって、本願文の数の異同があることを把握し、それぞれの本願を比較してどのように対照されるのかを確認する。諸異本のうち現存する完本は、五種の漢訳、サンスクリット本、チベット訳の計七種の異本があげられる。これら七種の異本の中で、訳経年代から「初期無量寿経」と「後期無量寿経」に分けられることに注目し、それぞれの形態の特徴と本願文の数によって系統づけられることに着目する。

その上で四十八願を「仏に関する願」「国土に関する願」「衆生に関する願」の三つに分類して、その内容を理解する。さらに、本願文の諸問題として、第十八願、第二十二願、第三十五願の思想内容に着目する。

＜キーワード＞

アミターユス、アミターバ、無量寿仏、無量光仏、無量清浄、外来起源説、インド内部起源説、劫、光明、大乗、菩薩思想、救済、慈悲、自利利他、法蔵菩薩、仏塔崇拝、アミターバ仏立像台座銘、現在西方、凡歴十劫、十二光仏、阿弥陀三尊、十劫成仏、六方段、真身観、雑想観、華座観、

本願、四十八願、漢訳異本、プールヴァ・プラニダーナ、誓願、二十四願、初期無量寿経、大阿弥陀経、平等覚経、三十六願、後期無量寿経、荘厳経、四十八願系、無量寿経、如来会、生因願、

伝康僧鎧訳、浄影寺慧遠、摂法身願、摂浄土願、摂衆生願、法然、親鸞、第十八願（念仏往生願）、第十七願、第二十二願（必至補処願）、還相廻向の願、第三十五願（女人往生願）、転女成男

＜その他の参考文献＞

中村元・早島鏡正・紀野一義（訳註）『浄土三部経（上）』、岩波文庫、1963 年
中村元・早島鏡正・紀野一義（訳註）『浄土三部経（下）』、岩波文庫、1964 年
藤田宏達『原始浄土思想の研究』、岩波書店、1970 年
藤田宏達『梵文和訳無量寿経・阿弥陀経』、法蔵館、1975 年
藤田宏達・桜部建『浄土仏教の思想 第一巻 無量寿経 阿弥陀経』、講談社、1994 年
末木文美士・梶山雄一『浄土仏教の思想 第二巻 観無量寿経 般舟三昧経』、講談社、1992 年
大田利生『無量寿経の研究―思想とその展開―』、永田文昌堂、1990 年
香川孝雄『浄土教の成立史的研究』、山喜房仏書林、1993 年

資料2

村上速水「三部経の教え」（『親鸞教義とその背景』、永田文昌堂、1987 年）

＜この資料のねらい＞

浄土三部経に説示されている教えの概要を把握し、『無量寿経』、『観無量寿経』、『阿弥陀経』それぞれがどのような経典であるのかを理解する。

＜学習のポイント・ヒント＞

まず、＜無量寿経＞現存の五種の漢訳を、法然や親鸞によって「正依の大経」と「異訳の大経」とに分類されることを押さえる。その上で「正依の大経」にしたがって、『無量寿経』が出世本懐の経典であることを説いていること、そして、その内容が弥陀成仏の因果と衆生往生の因果に大別されることを把握する。弥陀成仏の因果では、阿弥陀仏の四十八願が誓われていること、特に第十八願がどのような性格を有した誓願であるのかを

理解する。衆生往生の因果では、第十一願・第十七願・第十八願の成就文に注目する。そして、親鸞における四十八願観の特色を把握するにあたっては、第十八願・第十九願・第二十願の生因三願の関係性と、第十八願の内容を開いて説示された「五願開示の法門」の二つの特色があることを整理しながら理解する。

つづいて『観無量寿経』の概要を把握するために、その序文に説かれている「王舎城の悲劇」を通して、この経が説かれた意義を考察する。また、定善観法と散善の行とは何かを理解し、『観無量寿経』の主要を流通分から考える。そして、親鸞における顕彰隠密の解釈を通して、『観無量寿経』を位置づける。

次に『阿弥陀経』の経典の性質を知り、本論の正宗分の内容を、弥陀依正分、衆生往生分、諸仏証誠分との三つに分けて把握する。そして、親鸞には『阿弥陀経』における独自の見解があることを理解する。

最後に三部経の関連性について、三経一致門と三経差別門の分類や衆生救済の観点から考察する。

＜キーワード＞

正依、異訳、序分、正宗分、流通分、五徳瑞現、釈尊出世の本懐、弥陀成仏の因果、法蔵菩薩、世自在王仏、讃仏偈、兆載永劫、十劫、四十八願、第十八願、本願、選択本願、往生、正覚、衆生往生の因果、第十八願成就文、親鸞、真実、方便、生因三願、五願開示、

王舎城の悲劇、頻婆沙羅王、阿闍世、韋提希、苦悩の除かれる法、微笑、定善十三観、散善、九品、行福、戒福、世福、無量寿仏の名を持つ、顕彰隠密、住立空中尊、凡夫、

無問自説の経、弥陀依正分、光明無量、寿命無量、衆生往生分、少善根、執持名号、一心不乱、諸仏証誠分、六方、難信の法、自力念仏、他力念仏、顕説、隠彰、胎生、化生、三経一致門、差別門、機の真実、十方衆生、逆謗闡提、難化の三機、難治の三病

＜その他の参考文献＞

稲城選恵『聖典セミナー 浄土三部経Ⅰ 無量寿経』、本願寺出版社、1999 年
梯實圓『聖典セミナー 浄土三部経Ⅱ 観無量寿経』、本願寺出版社、2003 年
瓜生津隆真『聖典セミナー 浄土三部経Ⅲ 阿弥陀経』、本願寺出版社、1997 年
浄土真宗本願寺派勧学寮『浄土三部経と七祖の教え』、本願寺出版社、2008 年

資料3

浅井成海「教文類」解説（『教行信証』の研究 第一巻『『顕浄土真実教行証文類』解説論集』、浄土真宗本願寺派総合研究所監修、2012 年）

＜この資料のねらい＞

親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）「教文類」の真意を問い、浄土三部経がわれわれに何を示しているのかを考える。親鸞がなぜ、『大無量寿経』を「真実の教 浄土真宗」と位置づけたのかを理解する。

＜学習のポイント・ヒント＞

まず、「教文類」の思想背景として、中国浄土教の曇鸞、道綽、善導、そして日本の法然における浄土三部経観の概要を把握する。

その上で「教文類」の思想を、その構成にしたがって理解していく。具体的には、標挙の文、題号、『教行信証』の大綱、「教文類」の大意、宗体論、五徳瑞現、結嘆のそれぞれの内容を整理しつつ、『大無量寿経』を浄

土真宗とあらわす意義について考える。その際なぜ、「教文類」の引用が五徳瑞現のみであり、これをもって「真実の教」であるとするのか、その理由について考究する。

＜キーワード＞

阿弥陀仏、本願、救いの教法、大無量寿経、教行信証、教文類、浄土真宗、真実の教、信心、七祖、往相・還相の二種回向、本願為宗、名号為体、釈尊、五徳瑞現、融本の釈迦、無蓋の大悲、苦悩の群萌、曇鸞大師、往生論註、修多羅、道綽禅師、安楽集、観仏三昧、念仏三昧、善導大師、観経疏、念観廃立、法然聖人、選択集、大経釈、逆修説法、浄土三部経、三経一論、選択本願、標挙、細註、大乗のなかの至極、題号、四法、利他教化地の益、往生即成仏、第二十二願、権化の仁、
弥陀・釈迦二尊一致、大悲心、智慧、阿難、大寂定、真実之利、優曇華、一切群生海、出世本懐

＜その他の参考文献＞

山辺習学・赤沼智善『教行信証講読 教行の巻』法藏館、1941 年
桐溪順忍『教行信証に聞く 上巻』教育新潮社、1966 年
星野元豊『講解教行信証 教行の巻』、法藏館、1977 年
金子大栄『教行信証講読 教行巻（金子大栄著作集第六巻）』春秋社、1981 年
岡亮二『教行信証 口述 50 講 第一巻 教・行の巻』教育新潮社、1993 年
信楽峻麿『教行証文類講義 第一巻 総序・教巻』法藏館、1999 年
梯實圓『聖典セミナー教行信証［教行の巻］』本願寺出版社、2004 年

資料4

前田壽雄「親鸞における法蔵菩薩の修行とその現代的意義」（『慈光法喜 武田龍精先生喜寿記念』法喜会編、2017 年）

＜この資料のねらい＞

『大無量寿経』の説示内容のどこに肝要があり、また親鸞はどのようにこれを領解し、法蔵菩薩の修行の内実を明らかにしているのか、そしてその現代的意義を考察する。

＜学習のポイント・ヒント＞

「帰命無量寿如来 南無不可思議光」から始まる「正信念仏偈」は、浄土真宗の念仏者にとって馴染み深い句の一つである。「正信念仏偈」は、親鸞の主著である『教行信証』「行巻」末に説かれ、真宗教義の肝要が示されている。帰敬序と呼ばれる前の二句を受けて、『大無量寿経』に依拠しながら、「法蔵菩薩因位時 在世自在王仏所」とつづいている。

親鸞が『教行信証』「教巻」の標挙に「真実の教 浄土真宗」と規定している『大無量寿経』には、法蔵菩薩が四十八の誓願を発願し、不可思議兆載永劫の修行によって本願を成就して、阿弥陀仏と成った経緯が説かれている。

このような法蔵菩薩の発願とその修行の内実が自明となってこそはじめて、「法蔵菩薩が五劫思惟された」「法蔵菩薩が不可思議兆載永劫にわたって修行された」「その修行の果報として成仏し、十劫の昔に阿弥陀仏と成られた」ことがリアリティをもって立ち上がり、現実に生成化されてくる。このことは、親鸞が「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」と語った境地を意味しているのであり、その事態に

	心が開顕され、十方衆生と共有化される営みを獲信というのではないかと考える。これによって、法蔵菩薩の菩薩行とその願心そのもののうちに衆生救済の事実が成就されると考えることができる。 ところが、現代ほど法蔵菩薩の存在を受け入れ難い時代はない。その代表的な意見として、法蔵菩薩は実在した存在ではないから神話にすぎず、非現実的で信じることができないという主張が挙げられる。このような見解に対し、法蔵菩薩の修行の意義を如何に考え、如何に表現し伝えていくべきか、について考える。 ＜キーワード＞ 法蔵菩薩、正信念仏偈、世自在王仏、大無量寿経、真実の教、浄土真宗、誓願、不可思議兆載永劫、十劫、五劫思惟、親鸞一人がためなりけり、十方衆生、救済、説法者、聞法者、無上正真道意、 讃仏偈、大乗菩薩道、重誓偈、誓不成正覚、少欲知足、和顔愛語、先意承問、清白の法、至心、 信楽、欲生、煩悩具足の凡夫、至心釈、至徳の尊号、三一問答、字訓釈、真実誠種の心、疑蓋無雑、仏意測り難し、穢悪汚染、虚仮諂偽、一切苦悩の衆生海、悲憫、群生海、回施、利他の真心、 無常、親鸞におきては、よきひと、願心、本願力 ＜その他の参考文献＞ 前掲と同じ

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	○
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	龍谷大学文学部真宗学科非常勤講師 駒澤大学仏教学部仏教学科非常勤講師 東京仏教学院研究科講師
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	東南アジア仏教特講(R)
担当教員	山田 均
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	東南アジアおよびスリランカに行われている上座部仏教を歴史的、教義的、民俗学的に概観し、その概要を把握する。 東南アジア以外にも沖縄、台湾、韓国についてもその仏教信仰について概要を把握し、仏教理解を深める一助とする。
授業計画	(前期) 第 1 回:イントロダクション 第 2 回:上座部仏教の歴史(インド) 第 3 回:上座部仏教の歴史(スリランカ) 第 4 回:上座部仏教の歴史(ミャンマー) 第 5 回:上座部仏教の歴史(タイ) 第 6 回:上座部仏教の歴史(カンボジア、ラオス、雲南省) 第 7 回:上座部仏教の教団生活 第 8 回:上座部仏教の教団生活 第 9 回:上座部仏教の教団生活 第 10 回:上座部仏教の教団生活 第 11 回:上座部仏教の在家信者生活 第 12 回:上座部仏教の在家信者生活 第 13 回:上座部仏教の在家信者生活 第 14 回:まとめ (後期) 第 15 回:上座部仏教と芸術(仏塔) 第 16 回:上座部仏教と芸術(絵画) 第 17 回:上座部仏教と芸術(仏像) 第 18 回:上座部仏教と芸術(文学・芝居) 第 19 回:上座部仏教と国家・教育 第 20 回:上座部仏教と国家・教育 第 21 回:上座部仏教と国家・教育 第 22 回:上座部仏教と国家・教育 第 23 回:まとめ 第 24 回:上座部仏教と民間信仰(祖霊信仰) 第 25 回:上座部仏教と民間信仰(超能力僧) 第 26 回:上座部仏教と民間信仰(呪術) 第 27 回:上座部仏教と民間信仰(その他) 第 28 回:まとめ

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	授業での応答などで理解度を評価する。折りにふれて口頭試問的に受講者との対話を行う。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	浄土教理史（隔年休講）
担当教員	梯 信暁
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	浄土教教理学の立場から、インド・中国における阿弥陀仏信仰の展開と浄土教教理の形成に関する知識ならびに漢文資料の解読に必要な能力を身につけます。 まず浄土三部経や龍樹・世親の論書から大乗仏教としての浄土教の特徴を見出し、次に中国における浄土教教理の形成過程をたどり、さらに曇鸞・道綽・善導の著述に顕わされた思想の特徴を把握します。
授業計画	1. インド・中国の浄土教概観 2. 浄土教経典概観 3.『無量寿経』概観 4.『阿弥陀経』『般舟三昧経』概観 5.『観無量寿経』概観 6.『無量寿経』要文講読 7.『無量寿経』要文講読 8.『無量寿経』要文講読 9.『阿弥陀経』要文講読 10.『観無量寿経』要文講読 11. 龍樹・世親の浄土教論書概観 12.「易行品」要文講読 13.『浄土論』要文講読 14. 中国南北朝時代の浄土教概観 15. 盧山慧遠の浄土教概観 16. 曇鸞の生涯と著述概観 17.『往生論註』要文講読 18.『往生論註』要文講読 19.『往生論註』要文講読 20.『往生論註』要文講読 21. 天台・三論の浄土教概観 22. 浄影寺慧遠の浄土教概観 23. 摂論・法相の浄土教概観 24. 道綽の生涯と著述概観 25.『安楽集』要文講読 26. 善導の生涯と著述概観 27.『観経疏』要文講読 28.『観経疏』要文講読
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」

	b その他		○
	スクーリングにおいて提示する課題1～3(50%)、課題 2～6(50%)として評価する。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	真宗概論(S)
担当教員	前田 壽雄
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	親鸞が開顕した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』、『教行証文類』)に組織体系化されている。 『教行信証』とは、浄土三部経(『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』)や七高僧(龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空)の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。 本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。
授業計画	○スクーリングの講義内容(講義内容は変更されることがあります。) 第 01 回 浄土真宗 第 02 回 『教行信証』の概要 第 03 回 真実の願と方便の願 第 04 回 ＜無量寿経＞と親鸞 第 05 回 正信念仏偈(依経段) 第 06 回 正信念仏偈(依釈段) 第 07 回 龍樹と親鸞―難易二道 第 08 回 天親と親鸞―宣布一心 第 09 回 曇鸞と親鸞―顕示他力① 第 10 回 曇鸞と親鸞―顕示他力② 第 11 回 曇鸞と親鸞―顕示他力③ 第 12 回 曇鸞と道綽―念仏思想の展開 第 13 回 道綽と親鸞―聖浄二門 第 14 回 善導と親鸞―古今楷定① 第 15 回 善導と親鸞―古今楷定② 第 16 回 善導と親鸞―古今楷定③ 第 17 回 源信と親鸞―報化二土 第 18 回 源空と親鸞―選択本願① 第 19 回 源空と親鸞―選択本願② 第 20 回 『教行信証』「信巻」の意義 第 21 回 「信巻」＜無量寿経＞引文・曇鸞引文(二不知三不信・讃阿弥陀仏偈)

	第 22 回 至誠心釈、深心釈 第 23 回 回向発願心釈、二河譬 第 24 回 三一問答（字訓釈と法義釈） 第 25 回 至心釈 第 26 回 信楽釈 第 27 回 欲生釈 第 28 回 正定聚の機、まとめ		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」		○
	b その他		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等	龍谷大学文学部真宗学科非常勤講師 駒澤大学仏教学部仏教学科非常勤講師 東京仏教学院研究科講師	
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	真宗概論(R)
担当教員	前田 壽雄
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	親鸞が開顕した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』、『教行証文類』)に組織体系化されている。 『教行信証』とは、浄土三部経(『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』)や七高僧(龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空)の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。 本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。
授業計画	○資料集解説 前田壽雄編『資料集(真宗概論)』 資料1 桐溪順忍『親鸞はなにを説いたか』(教育新潮社、1964 年)第四章 親鸞の仏教観―教相判釈― ＜この資料のねらい＞ 親鸞の教相判釈(教判論)によって、釈尊が説いた仏教全体の中で、浄土真宗の教義の位置づけを明らかにする。 ＜学習のポイント・ヒント＞ まず親鸞の教判論に至る背景として、龍樹の難易二道、曇鸞の自力他力判、道綽の聖浄二門判の相承を理解する。そのうえで親鸞の教判論が二双四重判と真・仮・偽判によって表すことができることを押さえる。 二双四重とは、横・竪、超・出を組み合わせて用いることにより、横超・横出・竪超・竪出の四種に分類していることから呼ばれているものである。それぞれ分類した四種の教えとは何かを学び、浄土真宗とはこのうち横超であり、阿弥陀仏の本願力によって往生し、すぐさま仏のさとりを開く弘願他力の教法であることを理解する。 また親鸞は、あらゆる宗教を真・仮・偽の三分類法でみる教判も説いている。真・仮・偽とはそれぞれ何を意味しているのかを学ぶ。『教行信証』では教・行・信・証・真仏土の五巻を真実、「化身土巻」の前半では仮である方便、後半では偽である邪義の宗教について述べていることも踏まえておく。 ＜キーワード＞ 難行道、易行道、自力、他力、聖道門、浄土門、二双四重判、横超、真仮偽の三判

＜参考文献＞

前掲

資料2

浅井成海『法然とその門弟の教義研究―法然の基本教義の継承と展開―』(永田文昌堂、2004 年)

第二章 法然とその門弟の本願論 第四節 親鸞の本願論

＜この資料のねらい＞

法然の選択本願思想を継承する親鸞の本願論を明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞

『無量寿経』には、法蔵菩薩が世自在王仏のもとで二百一十億の諸仏の浄土の中より、粗悪なものを選び捨て、善妙なものを選び取り、四十八願を建立したことが説かれている。四十八願は第十八願を根本とすることを、親鸞は誓願一仏乗によって論理づけている。この第十八願を、親鸞はどのように解釈しているのかを学ぶ。特に本願力回向や三心即一心の信心について注目し、第十八願成就文もあわせて理解する。

また親鸞は、第十八願に誓われている行(＝十念)、信(＝至心・信楽・欲生)、証(＝衆生の往生)、真仏土(＝阿弥陀仏の成仏)をそれぞれ、第十七願・第十八願・第十一願・第十二願・第十三願に配当していることに注目して、真実五願と方便の願とに分けた意義についてたずねる。

＜キーワード＞

誓願一仏乗、本願力回向、第十八願、至心、信楽、欲生、第十八願成就文、聞其名号、仏願の生起本末を聞く、真実の願、方便の願

＜参考文献＞

前掲

資料3

梯 實圓『教行信証の宗教構造―真宗教義体系―』(法藏館、2001 年)第四章 真実の行

＜この資料のねらい＞

『教行信証』「行巻」の読解を通して、親鸞が説いた真実の行とは何かを明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞

まず『教行信証』「行巻」が説かれた教学的背景を、念仏停止や一念多念の諍論によって理解する。

『教行信証』「行巻」には、「無碍光如来の名を称する」ことを「大行」といい、この行とは「もろもろの善法を摂し、もろもろの徳本を具せり」といわれている。また「極速円満す」という勝れた徳や、「真如一実の功徳宝海なり」という広大無辺な真如にかなう徳を顕している。これらより大行とは、真如にかない、無量の徳を有し、衆生をすみやかに涅槃に至らしめるすぐれた行業であるから、真実行といわれることについて学ぶ。また、善導が「南無阿弥陀仏」の六字を解釈した六字釈を受け継ぎ、展開させた親鸞の六字釈から念仏観を理解する。

＜キーワード＞
往相回向、諸仏称名の願（第十七願）、大行、尽十方無碍光如来、讃嘆門、六字釈、南無、帰命、発願回向、願行具足、不回向、本願招喚の勅命

＜参考文献＞
前掲

資料4
梯 實圓『教行信証の宗教構造―真宗教義体系―』（法藏館、2001 年）第六章 真実の信

＜この資料のねらい＞
『教行信証』「信巻」の読解を通して、親鸞が説いた真実の信とは何かを明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞
親鸞は、阿弥陀仏よりたまわる信心とは真如にかない、無量の徳があり、衆生を涅槃のさとりに至らしめるすぐれた徳があることから「大信」と顕している。信心とは信楽ともいい、無疑心のことであり、疑心なく本願の名号を領受した心をいう。このような親鸞が説く信心の意味を把握することで、阿弥陀仏の本願の名号が衆生にまさしく至り届いたすがたが信心であることについて学ぶ。
また、そこから聞即信、至心・信楽・欲生の三心の解釈や三心と一心との関係について考え、信心とは、阿弥陀仏の本願招喚の勅命に帰順する心であることを理解する。

＜キーワード＞
真実の信心、至心信楽の願（第十八願）、無疑心、聞即信、三一問答、字訓釈、信心正因、至心釈、真実心、信楽釈、欲生釈

＜参考文献＞
前掲

資料5
前田壽雄「親鸞における智慧」（ケネス田中編、『智慧の潮―親鸞の智慧・主体性・社会性 Shinshu Theology から見えてくる新しい水平線』、武蔵野大学出版会、2017 年）

＜この資料のねらい＞
親鸞における智慧とは何かを明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞
親鸞における智慧とは、仏土、行、信心によって概念づけることができる。親鸞は真仏真土を、一切苦悩の衆生に活動しつづける光明であるとし、その光明を智慧であるといい、無礙と遍満によって規定している。微塵

世界に活動する無礙の光明とは、一切衆生の心に阿弥陀仏の誓願を信楽するよう現れた「智慧のかたち」である。それはあらゆる虚妄の滅尽をもって、真実と顕している。
真実とは、阿弥陀仏自身のみをいうのではなく、阿弥陀仏が一切衆生に回向する本願力によって成立する。衆生に回施される念仏と信心はいずれも智慧に基づいているが、その根柢には法蔵菩薩の発願と菩薩行が示されている。そのため法蔵菩薩が如何なる境地において至徳の尊号を成就したのか、如何なる理由によって衆生に回向するのか、そして回向された衆生のうちに、回向とは如何なる意味があり、衆生を如何に転換せしめるのかを考える。

＜キーワード＞
智慧のかたち、智慧の念仏、転成、信心の智慧、不断煩悩得涅槃、如来とひとし、智慧を習い学ぶ

＜参考文献＞
前掲

資料6
浅井成海『法然とその門弟の教義研究―法然の基本教義の継承と展開―』(永田文昌堂、2004 年)
第三章 法然とその門弟の菩提心論 第四節 親鸞の菩提心論

＜この資料のねらい＞
法然が菩提心を廃捨したことによって問われた課題を、親鸞がどのように解釈していったのかを明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞
親鸞が空性・無我の原理に基づいて菩提心を解釈していることや、菩提心を「横超の大菩提心」であると位置づけた意義について考える。そのうえで、親鸞の菩提心論は『教行信証』「信巻」のみにとどまらず、「証巻」においても述べられていることに着目する。それは還相の菩薩の自利即利他の妙楽勝真心であり、浄土の最勝の真実の徳にかなう菩提心のことである。
また、親鸞の晩年に著した『正像末和讃』には、末法における念仏者こそ浄土の菩提心に生きる人であることが讃えられていることに注目する。

＜キーワード＞
横超、大菩提心、金剛心、願作仏心、度衆生心、大慈悲、自利即利他、往相回向、還相回向、
『往生論註』、妙楽勝真心、末法

＜参考文献＞
前掲

資料7
前田壽雄「親鸞における正定聚論」(『人間学研究論集』第 2 号、武蔵野大学通信教育部、2012 年)

＜この資料のねらい＞
親鸞が正定聚を現生で語ることができた根拠を明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞
親鸞の正定聚論は、『教行信証』の「行巻」「信巻」「証巻」で展開している。「行巻」では、龍樹の「即時入必定」と曇鸞の「入正定聚之数」の教説を継承し、真実の行信に帰命することで、衆生は阿弥陀仏に摂取不捨されることを説いている。
「信巻」では、正定聚が成立する基盤として信楽一念の解釈を設けている。親鸞は法然との出遇いを通して信心を獲得するに至った。その値遇経験を『無量寿経』第十八願成就文に探り当て、聞名に着眼することで、本願力回向の信心を導き出している。また信心が定まるとき、往生もまた定まると説くことで、正定聚が現生に成立する理由が摂取不捨にあることについて理解を深める。
さらに「証巻」では、煩悩成就の凡夫が往相回向の心行を獲得することによって正定聚に住して、必ず滅度に至ることが明かされている。そして阿弥陀仏の本願力は、浄土往生者も信心獲得者も平等にはたらいていることを示すことで、正定聚のもつ意味が明確になることについて考える。

＜キーワード＞
正定聚、邪定聚、不定聚、生如来家、必定、信方便易行、信仏因縁、信一念、横超断四流、
摂取不捨、必至滅度、往相回向、還相回向

＜参考文献＞
前掲

資料8
前田壽雄「親鸞聖人における来迎の問題」(『宗学院論集』第 78 号、浄土真宗本願寺派宗学院、2002 年)

＜この資料のねらい＞
親鸞における来迎について、法然教義をどのように継承しているのか、また他の門弟との違いからその特色を明らかにする。

＜学習のポイント・ヒント＞
親鸞は、信心獲得による摂取不捨に基づいて、来迎を問題としていることを理解する。阿弥陀仏によって回施された念仏には、魔が全く問題とはならないことを説くとともに、来迎は臨終によって語られるものではなく、平生において明示されていることを踏まえることで、臨終来迎を説く必要がない理由について学ぶ。
また、親鸞の消息おいて、臨終来迎の否定を述べた背景について、なぜ平生の摂取不捨による来迎を明確に示す必要があったのかを考える。

＜キーワード＞
来迎、摂取不捨、第十九願、来迎引接、臨終現前、修諸功徳、方便、対治魔事、真実信心、正念

	＜参考文献＞ 前掲	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	龍谷大学文学部真宗学科非常勤講師 駒澤大学仏教学部仏教学科非常勤講師 東京仏教学院研究科講師
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	比較宗教特論
担当教員	寺田 喜朗
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	・宗教学の基礎的な概念および理論について概要を学び、それを自ら説明することができる。 ・メソポタミア～エジプト～カナンの宗教の基本的な特性を説明することができる。 ・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基本的な考え方と聖書・コーランに記された内容の概要を説明することができる。 ・古代～近現代までの日本宗教史について、政教関係および教団や運動の掲げる教えや実践について自らの言葉で説明することができる。 ・伝統宗教と新宗教の違いを説明することができる。 ・様々な宗教の成立・展開の過程を社会・文化的観点から捉え、それぞれの宗教の特性と共通性を自らの言葉で説明することができる。
授業計画	第1回　ガイダンスー比較宗教の考え方についてー （準備学習：宗教の定義について考え、調べてみる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第2回　宗教の定義について　原始仏教 （準備学習：原始仏教について調べる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第3回　宗教の原初形態　アニミズムとシャーマニズム （準備学習：アニミズムとシャーマニズムという言葉について調べる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第4回　古代社会と宗教　メソポタミアとエジプト （準備学習：古代文明における宗教について調べる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第5回　ユダヤ教　出エジプトと十戒 （準備学習：旧約聖書について調べる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第6回　ユダヤ教　バビロン捕囚と様々な禁忌 （準備学習：旧約聖書について調べる） （事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる） 第7回　ユダヤ教とキリスト教　契約と預言者

（準備学習：新約聖書について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第8回 キリスト教 福音書の成立と記載の差異

（準備学習：新約聖書について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第9回 キリスト教 イエスの説教と磔刑

（準備学習：キリスト教の歴史について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 10 回 キリスト教 パウロの教えとその後の展開

（準備学習：キリスト教の歴史について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 11 回 イスラーム メッカと血の掟

（準備学習：コーランについて調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 12 回 イスラーム メディナ憲章とガズワ

（準備学習：イスラームの歴史的な展開について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 13 回 古代の日本宗教① 日本神話とその起源

（準備学習：日本神話について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 14 回 古代の日本宗教② 神祇祭祀と神道

（準備学習：神道について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 1 回 古代の仏教 仏教公伝と飛鳥～奈良の官寺仏教

（準備学習：鎮護国家の思想について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 2 回 古代の仏教と陰陽道 鎮護国家の思想と技術

（準備学習：陰陽道について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 3 回 最澄と天台教学について

（準備学習：最澄について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 4 回　空海と密教について

（準備学習：空海について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 5 回　末法思想と浄土教

（準備学習：末法思想について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 6 回　鎌倉新仏教①　法然と親鸞について

（準備学習：法然・親鸞について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 7 回　鎌倉新仏教②　栄西と道元について

（準備学習：栄西・道元について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 8 回　鎌倉新仏教③　日蓮と一遍について

（準備学習：日蓮・一遍について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 9 回　寺社勢力の失墜　中世から近世へ

（準備学習：権門体制と顕密体制について調べる）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 10 回　近世の宗教　ーイエの宗教とムラの宗教・流行神とおかげ参りー

（準備学習：イエ・同族団・自然村という概念に関する研究、および流行神とおかげ参りについて調べる。）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 11 回　近代国家と宗教①　ー神道国教化政策と政教分離ー

（準備学習：明治初年の宗教政策について調べる。）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 12 回　近代国家と宗教②　ー信教の自由と民衆宗教ー

（準備学習：明治国家のキリスト教政策と大教院について調べる。）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

第 13 回　近代化と民衆の宗教　ー天理教と創価学会ー

（準備学習：天理教・創価学会について調べる。）

（事後学習：学んだことをノートにまとめる。関心を頂いたトピックを自分なりに調べてみる）

	第 14 回 学修のまとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	
	スクーリングの試験結果（80%）と授業中の学習態度（20%）（口頭で質問したり、質問を募ったりします）	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	人間倫理特論
担当教員	一ノ瀬 正樹・高橋 晃一
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	授業前半(一ノ瀬担当)は、西洋哲学の文脈での倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもらう。倫理学上の学説的見解を押さえた上で、多くの実例を素材として挙げて、議論と理解を深めていきたい。 授業後半(高橋担当)は、仏教学における人間観について、初期仏教から大乗仏教まで俯瞰し、執着の対象としての「我」を否定する無我の思想と、他者を教導する利他の実践の関係について理解し、仏教における倫理的実践の意義について考えてもらう。
授業計画	1. 基本的前提として、「哲学」とは何か、について序論的な仕方で解説する。とくに、英米哲学に依拠しながら、形而上学、認識論、倫理学の区別について論じる。 2. 前回を承けて、とくに倫理学について、西洋倫理学の基本学説である義務論と功利主義(大福主義)の対比について解説する。 3. 教科書『病災害の中のしあわせ』に即して、まずはいま世界を騒がせているコロナパンデミックについての事実を確認する。 4. 次に、事実を注意深く確認して認識し、意思決定していくことを重視し、それに反する不注意な信念の形成を倫理的に問題とする「信念の倫理」の問題を取り上げる。 5. コロナパンデミックに関わって発生している倫理的コンフリクトについて考える。 6. コロナパンデミックに際して、自粛要請をすることや、治療をすることが、刑罰とのアナロジーで捉えられる可能性について考察する。 7. コロナパンデミックに際して発生が危惧されている「トリアージ」について論じる。この辺りで、出席者によるミニプレゼンテーションの機会を設ける。 8. 「トリアージ」の問題に絡めて、人権や人間の尊厳についての理論的考察を行う。 9. 前回に続けて、人権や人間の尊厳について、日本での受容についての考察まで踏み込んで、議論を展開する。 10. 医療従事者のリスク暴露について論じる。 11. 腸チフスのメアリーといった歴史的事例に則しながら、健康保菌者の処遇について論じる。 12. 感染症倫理を突き詰めていったときに至るであろう一つの立場、「物体性を伴う倫理」について解説する。 13. 死後の幸福という、歴史的かつ宗教的な話題について、死後再審のような実社会での現実の実践に照らして理論的に考察していく。 14. 出席者によるミニプレゼンテーションを行う。適宜、時間を取って、試験も行う。 15. 仏教の全体像を俯瞰するため、仏教通史を概説する。 16. 仏教の基本的な知識を確認するため、四法印を手掛かりに初期の仏教思想を概説する。 17. 初期仏教における人間観について、『阿含』などの初期仏典を中心に概観する。 18. 初期仏教からアビダルマへの思想的な発展について概説する。 19. 前回に引き続き、アビダルマ思想に関する理解を深める。

	20. アビダルマ思想における人間観に関わる内容について理解を深める。 21. 大乗仏教を理解するための前提として、その成立について概説する。 22. 大乗経典における仏教思想の展開について、概観する。 23. 前回に引き続き、大乗経典の思想を概観する。特に代表的な大乗経典である般若経の空思想とその解説である『大智度論』に見られる倫理観について概説する。 24. 大乗仏教の哲学思想の出発点とされる龍樹の『中論』の思想と、そこに見られる人間観を概説する。 25. 『中論』の思想を批判的に継承した瑜伽行派における人間観を概説する。 26. 『中論』の思想と瑜伽行派の思想の相違点について理解を深めながら、大乗仏教における倫理観について考察する。 27. 仏教思想の中核をなす「無我」「空」「無自性」の概念に対する解釈の歴史的変遷を確認し、倫理的実践に照らして、その意義について理解を深める。 28. 密教における仏教の思想展開を概観する。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	
	途中で、リアクションペーパーを課したり、若干のプレゼンテーションをしてもらう。それらを「小テスト」として扱う。 最後に試験を行う。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	西洋思想特講(SR)
担当教員	富山 豊
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	トピックごとに西洋哲学の議論や学説を学びながら、哲学的に考えるとはどのようなことかを体験してもらう授業ですが、「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのかなかなかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。
授業計画	1 意味 (1) 意味とは何か:素朴な発想と使用説 (2) 真理条件意味論と検証主義的意味論 (3) 検証主義の先へ:外在主義と自然主義的意味論 2 知識 (1) 知識とは何か:古典的定義とデカルトの方法的懐疑 (2) ゲティア反例と外在主義的知識論 3 倫理 (1) 我々の従うべき倫理とは何か:法・道徳・素朴な功利主義 (2) 功利主義 (3) カント倫理学:普遍化可能性の倫理 (4) 様々な功利主義、社会契約とロールズ、その他の倫理学説 4 心と自己 (1) 我々の心や自己とは何か (2) 心身問題 (3) 哲学的自己論 スクーリング 第 1 回: 言葉の意味とは何か:指示対象説・観念説・辞書説 第 2 回: 使用説と真理条件意味論 第 3 回: 検証主義的意味論 第 4 回: 自然主義的意味論 第 5 回: 知識とは何か:デカルトの方法的懐疑 第 6 回: 知識の古典的定義とゲティア反例 第 7 回: 因果説・信頼性主義・ドレツキの知識論 第 8 回: ノージックの知識論 第 9 回: 倫理とは何か:功利主義 第 10 回: カント倫理学 第 11 回: 規則功利主義・社会契約説

	第 12 回: 心と自己:心身二元論と心身因果 第 13 回: ハイデガーの自己理論 第 14 回: まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	スクーリングの試験結果(50%)に、第一課題(20%)、第二課題(20%)の成績に単位認定申請レポート(10%)の成績を加味した結果を合計して評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	西洋思想特講(R)	
担当教員	富山 豊	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	トピックごとに西洋哲学の議論や学説を学びながら、哲学的に考えるとはどのようなことかを体験してもらう授業ですが、「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのかなかなかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。	
授業計画	1 意味 (1) 意味とは何か:素朴な発想と使用説 (2) 真理条件意味論と検証主義的意味論 (3) 検証主義の先へ:外在主義と自然主義的意味論 2 知識 (1) 知識とは何か:古典的定義とデカルトの方法的懐疑 (2) ゲティア反例と外在主義的知識論 3 倫理 (1) 我々の従うべき倫理とは何か:法・道徳・素朴な功利主義 (2) 功利主義 (3) カント倫理学:普遍化可能性の倫理 (4) 様々な功利主義、社会契約とロールズ、その他の倫理学説 4 心と自己 (1) 我々の心や自己とは何か (2) 心身問題 (3) 哲学的自己論	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	第一課題(40%)、第二課題(40%)の成績に単位認定申請レポート(20%)の成績を加味した結果を合計して評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教文化特講(SR)
担当教員	下野 玲子・種村 隆元
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習してくことになります。 第1部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。 第2部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。
授業計画	スクーリング授業計画(講義内容は変更されることがあります。) 第1回:仏教儀礼1 インド密教について 第2回:仏教儀礼2 インド密教におけるプラティシュター儀礼について(1) 第3回:仏教儀礼3 インド密教におけるプラティシュター儀礼について(2) 第4回:仏教儀礼4 『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む 第5回:仏教儀礼5 『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む 第6回:仏教儀礼6 『所作集註』プラティシュター章を読む 第7回:仏教儀礼分野試験および解説 第8回:仏教美術1 『七大寺日記』と関連資料について 第9回:仏教美術2 『七大寺日記』前文と東大寺条を読む 第 10 回:仏教美術3 『七大寺日記』前文と東大寺条を読む 第 11 回:仏教美術4 『七大寺日記』東大寺条を読む 第 12 回:仏教美術5 『七大寺日記』東大寺条を読む 第 13 回:仏教美術6 『七大寺日記』東大寺条と美術の復原的考察 第 14 回:仏教美術分野試験および解説 資料集の内容 第 1 部 仏教儀礼 第1章 密教儀礼の資料 第2章 尊像奉納儀礼の概要 第3章 (特論1)『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について

	第4章 （特論 2）インド密教における尊蔵奉納儀礼の意味ー9 種類の灌頂に関するアバヤーカラグプタの議論ー 第2部 仏教美術 第1章『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究 第2章 東大寺美術の研究史	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教文化特講(R)
担当教員	下野 玲子・種村 隆元
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習してくことになります。 第1部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。 第2部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。
授業計画	資料集の内容 第１部 仏教儀礼 第1章 密教儀礼の資料 第1節 密教とは 第2節 密教儀礼の文献資料 第2章 尊像奉納儀礼の概要 第1節 尊像奉納儀礼とは？ 第1項 尊像奉納儀礼の定義 第2項 尊像奉納儀礼の語義解釈 第3項 尊像奉納儀礼の対象となるもの 第4項 尊像奉納儀礼の基本構造 第2節 『ヴァジラーヴァリー』の規定する尊像奉納儀礼 第3章 (特論1)『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について 第1節 イントロダクション 第2節 『所作集註』に規定される尊像奉納儀礼 第1項 構成 第2項 内容 第3節 分析 第1項 『所作集註』の説く尊像奉納儀礼の性格 第2項 『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られるいくつかの内容の不一致について 第3項 『所作集註』の内容上の矛盾の背景にあるものとは？ 第4節 結論 第4章 (特論 2)インド密教における尊像奉納儀礼の意味

	―9 種類の灌頂に関するアバヤーカラグプタの議論― 第1節 はじめに 第2節 『ヴァジラーヴァリー』が議論するプラティシュター儀礼における高位の灌頂の必要性 第3節 プラティシュター儀礼とマンダラ 第4節 プラティシュター儀礼と生起次第 第5節 むすびにかえて 第1部参考文献・略記表 第2部 仏教美術 第1章 『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究 第1節 『七大寺日記』について 第1項 はじめに 第2項 同時に参照すべき文献資料 第2節 『七大寺日記』東大寺条抜粋 第1項 はじめに 第2項 『七大寺日記』東大寺条抜粋(訓読文) 第3項 『七大寺日記』東大寺条抜粋の解釈 第3節 関連資料から読み解く東大寺の美術 第1項 はじめに 第2項 盧舎那仏像の造営に関する資料 第3項 大仏蓮弁線刻画の須弥山世界図 第4項 不空羂索観音像に関する経典および図像 第2章 東大寺美術の研究史 第1節 盧舎那佛像(中野聰) 第2節 大仏蓮弁線刻画(齋藤理恵子) 第3節 法華堂と不空羂索観音像の成立(片岡直樹) 第2部参考文献
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」 ○ b その他
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等) 授業内容との関連性 b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	真宗史(S)(院)
担当教員	岡村 喜史
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	① 真宗史に関する専門的知識を修得する。 ② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。
授業計画	1. 学習の進め方 『資料集』第1章は「親鸞の生涯」、第2章は「本願寺の成立」、第3章は「蓮如と本願寺教団」、第4章は「戦国期以降の本願寺教団」で構成されています。 第1章では、浄土真宗を開いた親鸞がどのような生涯を送ったのか、そしてその生涯の歩みの中から念仏によって民衆を救済する念仏の教えに至った過程を考えるということです。親鸞は、天台僧として 20 年間の修行を経て法然の専修念仏に帰入しますが、朝廷の念仏弾圧によって流罪となります。しかしその後関東に移って念仏を広め京都に帰って没します。親鸞の布教活動の中心は関東でしたが、そこで門弟となった人々がその後の新宗教団にどのような影響をお呼びしたのかを視野に入れておく必要があります。 第2章では、親鸞の墓所が寺院化して「本願寺」となった経緯について、覚信尼から覚如についての歴史的経緯について見ていきましょう。また覚如の時に行われるようになった「報恩講」成立の背景も考えていきましょう。 第3章では、本願寺教団が第8代蓮如の時に全国的教団へと発展していきますが、その蓮如の活動について、「名号」「御文」「正信偈和讃」という具体的な方法がどのように民衆に受け入れられていったのかという、受け手の側についても視野に入れておく必要があります。ない、ここでは特に、その後の本願寺教団を特徴付ける「御文」について見ていきましょう。 第4章では、戦国期以降の本願寺教団がどのような立場にあったのかについて考えていきます。戦国期では加賀や畿内で起こった一向一揆や、織田信長との石山戦争を経て東西に分派する経緯をしっかり理解しましょう。また、戦国期という時代性の中で、本願寺やその末寺を中心に形成された「地内町」についてもその特徴を理解しましょう。さらに、江戸時代以降西本願寺教団がどのような変遷をたどったのかについて、現代までを概観しておきましょう。 スクーリング授業で真宗史についての最新の研究などを紹介しつつ進めていきます。 2. 学習方法 スクーリングを選択した場合は、スクーリングは本学で開催される集中講義(100分の講義を計28時限)を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。 3. スクーリングの講義内容(講義内容は変更されることがあります。)

	スクーリングでは、資料等を配布して講義を行います。 第1回:オリエンテーション　講義の概要と進め方 第2回:親鸞伝の基礎　史料と研究 第3回:日本仏教の変遷　既成教団の概要 第4回:親鸞の出自と系譜　親鸞誕生の背景 第5回:親鸞の出家　出家の状況 第6回:天台僧としての親鸞　比叡山での親鸞 第7回:専修念仏への帰入　六角堂参籠について 第8回:法然門下の親鸞　専修念仏を修す 第9回:流罪　念仏弾圧と越後流罪 第 10 回:親鸞の結婚　僧侶の結婚の意義 第 11 回:親鸞の関東移住　越後から関東へ 第 12 回:関東での親鸞　門弟の誕生と広がり 第 13 回:帰洛　親鸞の帰洛と帰洛後の生活 第 14 回:描かれた親鸞像　親鸞像の分析 第 15 回:親鸞廟堂　親鸞の廟所とその整備 第 16 回:留主職　廟堂留主職の成立と継承 第 17 回:覚如　覚如の事績と廟堂の寺院化 第 18 回:蓮如の誕生　覚如以降の本願寺と蓮如 第 19 回:蓮如の活動　本願寺継職と吉崎御坊 第 20 回:晩年の蓮如　山科本願寺の再興と大坂坊 第 21 回:大坂本願寺　大坂本願寺の実情と寺内町 第 22 回:「石山合戦」 織田信長と戦国大名 第 23 回:豊臣秀吉と本願寺　本願寺の移転 第 24 回:本願寺の東西分派　徳川家康と教如 第 25 回:江戸時代の西本願寺教団　教団の展開と三代法論 第 26 回:近代以降の西本願寺教団　宗議会の成立と戦後の歩み 第 27 回:真宗美術　初期真宗美術の意義 第 28 回:講義のまとめ(試験)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	真宗史(R)(院)
担当教員	岡村 喜史
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	① 真宗史に関する専門的知識を修得する。 ② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。
授業計画	1. 学習の進め方 『資料集』第1章は「親鸞の生涯」、第2章は「本願寺の成立」、第3章は「蓮如と本願寺教団」、第4章は「戦国期以降の本願寺教団」で構成されています。 第1章では、浄土真宗を開いた親鸞がどのような生涯を送ったのか、そしてその生涯の歩みの中から念仏によって民衆を救済する念仏の教えに至った過程を考えるということです。親鸞は、天台僧として 20 年間の修行を経て法然の専修念仏に帰入しますが、朝廷の念仏弾圧によって流罪となります。しかしその後関東に移って念仏を広め京都に帰って没します。親鸞の布教活動の中心は関東でしたが、そこで門弟となった人々がその後の新宗教団にどのような影響をお呼びしたのかを視野に入れておく必要があります。 第2章では、親鸞の墓所が寺院化して「本願寺」となった経緯について、覚信尼から覚如についての歴史的経緯について見ていきましょう。また覚如の時に行われるようになった「報恩講」成立の背景も考えていきましょう。 第3章では、本願寺教団が第8代蓮如の時に全国的教団へと発展していきますが、その蓮如の活動について、「名号」「御文」「正信偈和讃」という具体的な方法がどのように民衆に受け入れられていったのかという、受け手の側についても視野に入れておく必要があります。ない、ここでは特に、その後の本願寺教団を特徴付ける「御文」について見ていきましょう。 第4章では、戦国期以降の本願寺教団がどのような立場にあったのかについて考えていきます。戦国期では加賀や畿内で起こった一向一揆や、織田信長との石山戦争を経て東西に分派する経緯をしっかり理解しましょう。また、戦国期という時代性の中で、本願寺やその末寺を中心に形成された「地内町」についてもその特徴を理解しましょう。さらに、江戸時代以降西本願寺教団がどのような変遷をたどったのかについて、現代までを概観しておきましょう。 『資料集』を通読し、その中から興味が持てた部分について、末尾の＜参考文献＞などを参考にしながら学習をすすめてください。 2. 学習方法 4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格して単位認定申請のレポートを提出することで4単位を修得します。 3. レポートの出題範囲と課題 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は『資料集』の各章をもとに自身で選択してください。ただ、異なる2つの章を選ぶ必要があるます。

（1）第1課題（出題範囲は、1・2・3・4章です）

1回目のレポート（WBT の No.1区分「レポート」に提出）

『資料集』1章・2章・3章・4章を読んで、その中から興味を持った内容を選択し、それについてさらに参考文献などをもとに詳しく書いてください。

＊字数：3，000字程度（2，800字から3，200字まで）

（2）2回目のレポート（WBT の No.2区分「レポート」に提出）

「1回目レポート」の添削内容を参考にし、さらにそこで提示された参考文献を読んで、さらに深くレポートにまとめてください。

＊字数：2，600字程度（2，400字から2，800字まで）

（3）第2課題（出題範囲は、1・2・3・4章です）

1回目のレポート（WBT の No.3区分「レポート」に提出）

第1課題に取り上げた以外の章について、『資料集』を読んで、その中から興味を持った内容を選択し、それについてさらに参考文献などをもとに詳しく書いてください。

＊字数：2，400字程度（2，200字から2，600字まで）

（4）2回目のレポート（WBT の No.4区分「レポート」に提出）

「1回目レポート」の添削内容を参考にし、さらにそこで提示された参考文献を読んで、さらに深くレポートにまとめてください。

＊字数：2，800字程度（2，600字から3，000字まで）

（5）単位認定申請レポート課題（WBT の No.5区分「単位認定試験」に提出）

本科目「真宗史」で学んだことをふまえて、総合的に真宗史を視野に入れて、自身で課題を設定して、自由に書いてください。

＊字数：2，600字程度（2，400字から2，800字まで）

4. レポート作成上の諸注意

(1)レポートの1行目に適切なタイトルを書いて下さい。

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や参考文献からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。

(5)資料集以外の参考文献を調べた場合には、本文の最後に、その書名、出版社名、出版年を必ず明記して下さい。（字数に含めない。）

(6)資料集や参考文献から引用する場合には、必ず「」の中に入れて、書名とページを明示して下さい。

(7)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。

(8)レポートには見出しをつけるか、適宜改行して、論旨を明確にして下さい。

(9)添付ファイルを提出する必要はありません。

5. レポートの最終成績

レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。

	レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	真宗文献講読
担当教員	前田　壽雄
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』(以下、『教行信証』)には、師である法然の『選択本願念仏集』(以下、『選択集』)を、「真宗の簡要、念仏の奥義、これに摂在せり」と論定し、「希有最勝の華文、無上甚深の宝典」と讃歎している。なぜ、親鸞はこのように記しているのかを、まず『選択集』の中心となる章を読み、その意味を明らかにする。次に親鸞の生涯のうち自ら述べた出来事を、『教行信証』「後序」より学修する。そのうえで『教行信証』「総序」より順次講読していくことで、親鸞が何を顕かにしているのかを学んでいく。 漢文の原文テキストを読み進めていく。読み下し文の『選択集』や『教行信証』を参照するとともに、併せて『選択集』『教行信証』の解説書も参照して、理解を深めていく。 ・知識・専門性の到達目標 漢文のテキストを読めるようになること。解説書を参考にして、文献を縦横に検討する視点を修得すること。親鸞浄土教の特徴について明確な見解を持てるようになること。テキストに引用された様々な文献についても原文にあたって、検討することが出来るようになること。 ・関心・態度・人格の到達目標 真宗文献をはじめ、広く仏教文献に興味をもち、それらを深く探求して課題点を見つけ出し、みずからの宗教の実践的課題を解決に導けるようになること。 ・思考・判断の到達目標 文献の意味するところを深く掘り下げて理解することが出来るようになること。文献の書かれた時代背景や他の文献との関連も併せて意味を探求できるようになること。 ・実践的スキル・表現の到達目標 漢文の原文テキストを自由に読める力を付け、かつ、それを現代の表現に置き換えることが出来るようになること。 ・「響学スパイラル」取り組み方法 宗教の社会的な意義について、深い見識を備えることが出来るようになること。
授業計画	【スクーリングの講義内容】(※講義内容は変更されることがあります。) 第 1 回　真宗文献 第 2 回 『選択集』第一章「二門章」(1) 第 3 回 『選択集』第一章「二門章」(2) 第 4 回 『選択集』第一章「二門章」(3) 第 5 回 『選択集』第一章「二門章」(4)

	第 6 回 『選択集』第二章「二行章」(1) 第 7 回 『選択集』第二章「二行章」(2) 第 8 回 『選択集』第二章「二行章」(3) 第 9 回 『選択集』第二章「二行章」(4) 第 10 回 『選択集』第三章「本願章」(1) 第 11 回 『選択集』第三章「本願章」(2) 第 12 回 『選択集』第三章「本願章」(3) 第 13 回 『選択集』第三章「本願章」(4) 第 14 回 『選択集』三選の文、『選択集』から『教行信証』へ 第 15 回 『教行信証』「後序」(1) 第 16 回 『教行信証』「後序」(2) 第 17 回 『教行信証』「後序」(3) 第 18 回 『教行信証』「後序」(4) 第 19 回 『教行信証』「総序」(1) 第 20 回 『教行信証』「総序」(2) 第 21 回 『教行信証』「総序」(3) 第 22 回 『教行信証』「総序」(4) 第 23 回 『教行信証』「総序」(5) 第 24 回 『教行信証』「教巻」(1) 第 25 回 『教行信証』「教巻」(2) 第 26 回 『教行信証』「教巻」(3) 第 27 回 『教行信証』「教巻」(4) 第 28 回 『教行信証』「教巻」(5)、まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	龍谷大学文学部真宗学科非常勤講師 駒澤大学仏教学部仏教学科非常勤講師 東京仏教学院研究科講師
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、	

	研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	発達心理学特講(R)	
担当教員	今福 理博	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標		
授業計画		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	認知心理学特講（SR）
担当教員	栗山 直子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	ヒトは周囲の状況を瞬時に把握し、適応的な行動をとることができます。私たちを取り巻く世界（外界）の中心には常に「自己身体」が存在するため、身体と外界との相互作用は、認知過程において根源的な役割を果たしています。外界の認知では、感覚情報（視覚、触覚、聴覚など）の処理が行われ、記憶や注意のはたらきによって適切な情報だけが取捨選択されます。こうした処理の後に、イメージや意識が構築されます。言うまでもなく、身体と外界認知は脳内の神経システムを基盤とするため、脳由来の疾患は様々な認知の変容を引き起こします。 本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、認知心理学とその周辺領域の研究を学びます。各自で関心のある論文を読み、ゼミ形式で発表を行い、多角的に理解を深めることを目標とします。
授業計画	資料集での学習内容は以下の通りです。 資料1：認知科学とは何か 資料2：学習心理学の歴史 資料3：注意とは何か 資料4：注意研究の進展 資料5：短期記憶と作動記憶 資料6：読みとワーキングメモリ容量 ―日本語版リーディングスパンテストによる測定― 資料7：物を認識するしくみ：視覚物体認識 資料8：視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響 資料9：新生児の初期視覚認知 資料 10：脳損傷にみる意識 資料 11：子どもの類推の発達 －関係類似性に基づく推論－ 資料 12：類似性と近接性 －人間の認知の特徴について－ ※【資料 11】【資料 12】は WBT「科目資料参照へ」に保存しております。 スクーリングは以下の内容で行う予定です。 スクーリングでは、資料集の他に資料の配布を適宜行い、講義の際関連する文献をご紹介いたします。 第1回 認知とは？ 第2回 記憶 第3回 推論と問題解決 第 4 回 発達と学習 第5回 グループワーク（1） 第6回 視覚情報処理とイメージ 第7回 コミュニケーション 第8回 意思決定

	第9回　個人発表(1) 第 10 回 個人発表(2) 第 11 回 コミュニケーション 第 12 回 様々な領域と認知心理学 第 13 回 グループワーク(2) 第 14 回 試験(レポート) ＊講義内容に変更があった場合はご了承ください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	スクーリングの試験結果(100%)で2単位を習得できる。 レポートは2つのレポート(1つの課題に対して2つのレポート)を提出し、すべてに合格し単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得できる。レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	認知心理学特講(R)	
担当教員	栗山 直子	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	ヒトは周囲の状況を瞬時に把握し、適応的な行動をとることができます。私たちを取り巻く世界(外界)の中心には常に「自己身体」が存在するため、身体と外界との相互作用は、認知過程において根源的な役割を果たしています。外界の認知では、感覚情報(視覚、触覚、聴覚など)の処理が行われ、記憶や注意のはたらきによって適切な情報だけが取捨選択されます。こうした処理の後に、イメージや意識が構築されます 本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、認知心理学の論文を読み理解を深めます。指定課題の理解が到達目標に達している場合は、各自で関心のある論文を読み、さらに多角的に理解を深めていくことろ目標とします。	
授業計画	資料集での学習内容は以下の通りです。 資料1:認知科学とは何か 資料2:学習心理学の歴史 資料3:注意とは何か 資料4:注意研究の進展 資料5:短期記憶と作動記憶 資料6:読みとワーキングメモリ容量 ―日本語版リーディングスパンテストによる測定― 資料7:物を認識するしくみ:視覚物体認識 資料8:視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響 資料9:新生児の初期視覚認知 資料 10:脳損傷にみる意識 資料 11:子どもの類推の発達 -関係類似性に基づく推論- 資料 12:類似性と近接性 -人間の認知の特徴について- ※【資料 11】【資料 12】は WBT「科目資料参照へ」に保存しております。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
	4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	人格心理学特講（SR）
担当教員	高橋 恵理子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	心理学においては、古くから人の性格あるいはパーソナリティとは何か、これをどのように測定し、理解することができるのかについて研究が行われてきた。人格心理学とは、個性、個人差を理論的、実証的に研究する心理学の一分野である。人格は、学術的にはパーソナリティ（personality）という語を用いて表現されることも多い。この personality の語源は、ラテン語のペルソナ（persona）、すなわち、舞台で役を演じるときに着用する「仮面」にある。この解釈については諸説あるが、例えば、パーソナリティには、仮面のように個人の外界に接する表層的な外的構造と、役のように仮面の背後にある内的構造の双方の意味が含まれているといえるのではないだろうか。すなわち、パーソナリティは多層構造を持つ心の働きであると仮定することができ、こうした捉え方は、個人の適応の問題を考えるうえでも有意義である。例えば、パーソナリティを「個人の中である程度時間、空間的に一貫した不変的な特性である」と固定的に捉えるのではなく、「外界や環境の変化に応じて生起する個人の認知や感情、行動をあらわすものである」と流動的な観点からもその構造を捉えることにより、個人の心の問題の改善にむけてもアプローチしやすくなる。 到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
授業計画	＜スクーリングの講義内容＞（講義内容は変更されることがある。） スクーリングでは、資料集の他に資料を配布して、講義を行うことがある。 第 1 日目（第 1 回～第 5 回） ・パーソナリティとは ・パーソナリティのアセスメント法 ・パーソナリティに関する諸理論 ・パーソナリティの自己分析 第 2 日目（第 6 回～第 10 回） ・Cloninger の気質・性格モデル ・Big Five モデル ・認知行動理論 ・パーソナル・コンストラクト理論 第 3 日目（第 11 回～第 15 回） ・パーソナリティ障害とは ・発達障害、うつ、不安とパーソナリティ ・パーソナリティと精神的問題についてのディスカッション ・単位認定試験 別途資料集を読んで、WBT 上で下記のレポートの提出を求める。

	＜レポート課題＞＜出題範囲：資料集 5、6、7＞ 1回目のレポート（WBTの No.3 区分「レポート」に提出） 以下の問題をよく読んで、レポートを作成しなさい。字数は、全体で、2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）とし、レポート末尾には、全体の字数（総字数）を示してください。書式の詳細については、下記の【レポート作成上の諸注意】を参照してください。 ＜問題＞ 「資料集 5、6、7 を読んで、それぞれの論文において、パーソナリティがどのような理論や考え方に基づいて理解されているかについて、少なくとも 2 編の文献の内容を引用しながらまとめなさい。」 2回目のレポート（WBTの No.4 区分「レポート」に提出） 「第2回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。（具体的には、添削で指示する。）」 ＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで） ＜単位認定申請レポート課題＞（WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出） 「精神的健康や適応に関する問題について、パーソナリティとの関連性からアプローチすることには、どのような意義があると考えますか。資料集の中から少なくとも一編の文献を引用しながら、あなた自身の考えを述べなさい。」 ＊字数：1,600 字程度（1,400 字から 1,800 字まで）	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	
	レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になる。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもあるが、この場合は 60 点とする。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはない。 　なお、スクーリングにおいては別途レポート	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	人格心理学特講(R)
担当教員	高橋 恵理子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	心理学においては、古くから人の性格あるいはパーソナリティとは何か、これをどのように測定し、理解することができるのかについて研究が行われてきた。人格心理学とは、個性、個人差を理論的、実証的に研究する心理学の一分野である。人格は、学術的にはパーソナリティ(personality)という語を用いて表現されることも多い。この personality の語源は、ラテン語のペルソナ(persona)、すなわち、舞台で役を演じるときに着用する「仮面」にある。この解釈については諸説あるが、例えば、パーソナリティには、仮面のように個人の外界に接する表層的な外的構造と、役のように仮面の背後にある内的構造の双方の意味が含まれているといえるのではないだろうか。すなわち、パーソナリティは多層構造を持つ心の働きであると仮定することができ、こうした捉え方は、個人の適応の問題を考えるうえでも有意義である。例えば、パーソナリティを「個人の中である程度時間、空間的に一貫した不変的な特性である」と固定的に捉えるのではなく、「外界や環境の変化に応じて生起する個人の認知や感情、行動をあらわすものである」と流動的な観点からもその構造を捉えることにより、個人の心の問題の改善にむけてもアプローチしやすくなる。 到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
授業計画	資料集を読んで、WBT 上で下記のレポートの提出を求める。 第1課題＜出題範囲:資料集 2、3、4＞ 1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 以下の問題をよく読んで、レポートを作成しなさい。字数は、全体で、2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)とし、レポート末尾には、全体の字数(総字数)を示してください。書式の詳細については、下記の【レポート作成上の諸注意】を参照してください。 ＜問題＞ 「資料集 2、3、4 を読んで、心理学におけるパーソナリティの測定法や尺度の標準化の手続きについて、少なくとも 2 編の文献の内容を引用しながらまとめなさい。」 2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 第2課題＜出題範囲:資料集 5、6、7＞

	1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出) 以下の問題をよく読んで、レポートを作成しなさい。字数は、全体で、2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)とし、レポート末尾には、全体の字数(総字数)を示してください。書式の詳細については、下記の【レポート作成上の諸注意】を参照してください。 ＜問題＞ 「資料集 5、6、7 を読んで、それぞれの論文において、パーソナリティがどのような理論や考え方に基づいて理解されているかについて、少なくとも 2 編の文献の内容を引用しながらまとめなさい。」 2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出) 「第2回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出) 「精神的健康や適応に関する問題について、パーソナリティとの関連性からアプローチすることには、どのような意義があると考えますか。資料集の中から少なくとも一編の文献を引用しながら、あなた自身の考えを述べなさい。」 ＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」 b その他 レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入、各 100 点満点)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になる。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもあるが、この場合は 60 点とする。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはない。
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等) 授業内容との関連性 b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等 授業内容 c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、

	研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会心理学特講（SR）
担当教員	福沢 愛
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	社会心理学の研究方法を学んだのち、現代社会心理学の主要トピックを取り上げて解説します。具体的には、社会的影響過程（同調行動、服従、説得的コミュニケーションなど）、自尊心、文化による影響、などです。これらを学ぶことによって、社会心理学に関する基礎的知識を身につけることをめざします。レポート課題については、集団過程（文化を中心に）に関する文献を講読します。 １年間の学習をとおして、人間行動を社会心理学的視点から理解できる知識を獲得することが到達目標となります。
授業計画	学習の進め方： 社会心理学を研究するためには、その研究法（観察、実験、調査など）を理解することが重要です。社会心理学の研究法について講義を行いますので、そこで社会心理学の研究の仕方について十分に理解してもらいます。そのあと、社会心理学に関する主要研究をまとめた資料を配布し、担当教員が解説します。 学習方法： スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される原則100分の講義を14時限受講し、試験（最終日に行われる）に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 レポートの出題範囲と課題： 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 1回目のレポート（WBTの No.1 区分「レポート」に提出） 人間の行動に影響を及ぼす社会的要因の中から、「文化」を取り上げ、以下のことを述べなさい。(1)これまでの日本人論における通説を整理し、これら諸説のどこに問題があるのかを述べる。(2)コミュニケーションにおいてとられる空間行動の文化的違いを述べる。(3)日本人論、もしくは空間行動の文化的違いに関する新たな研究案（この段階では簡単なもので良い）を提案する。 資料3、資料4で記述されているテーマは大きく異なっているので、(1)、(2)を別々に論じてもかまいません。 (1)(2)について、字数の配分は自由です。(3)に関しては、「日本人論」に関する新たな研究案もしくは「空間行動の文化的違い」に関する新たな研究案のどちらかで構いません。 ＊字数：2,400 字程度（2,200 字から 2,600 字まで）

	2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。1回目のレポートで書かれた新たな研究案に関連した文献を、教員が紹介することもある。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題(WBTの No.3 区分「単位認定試験」に提出) 人間の行動に影響を及ぼす社会・文化的要因について、あなたの考えるところを具体的な事例をあげながら述べなさい。 ＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで) スクーリングの講義内容(講義内容は変更されることがあります。): スクーリングでは以下の内容を予定しています。資料集以外の資料を配布して、講義を行うことがあります。 第1回 社会心理学研究法:観察・実験・調査 第2回 社会的影響課程(1)同調行動・服従の心理 第3回 社会的影響課程(2)マスメディアによる影響 第 4 回 社会的影響課程(3)流言・デマについて 第 5 回 説得的コミュニケーション(1):説得とは 第 6 回 説得的コミュニケーション(2):譲歩的要請法・恐怖アピールなど 第 7 回 つながりの心理学(1):社会関係資本とは 第 8 回 つながりの心理学(2):存在脅威管理理論について 第 9 回 社会と自己について(1):自尊心について・自尊心を維持するための方略とは 第 10 回 社会と自己について(2):無意識の自尊心とは? 第 11 回 文化と心理(1):社会心理学の知見は、”WEIRD”だった? 第 12 回 文化と心理(2):心の文化差について 第 13 回 文化と心理(3):文化差はなぜみられるのか・関係流動性について 第 14 回 まとめ「これからの社会心理学が目指すもの」・試験
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」
	b その他
	スクーリング最終日の試験(40%)、レポート(40%)、単位認定申請レポート課題(20%)として評価する。
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会心理学特講(R)
担当教員	福沢 愛
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	社会的影響過程に関する文献、集団過程(文化を中心に)に関する文献を講読することによって、社会心理学に関する基礎知識を身につけ、日常場面で起こる社会的現象の理解と知識の応用が可能になることをめざします。 1 年間の学習をとおして、人間行動を社会心理学的視点から理解できる知識を獲得することが到達目標となります。
授業計画	学習の進め方: 社会心理学を研究するためには、その研究法(観察、実験、調査など)を理解することが重要です。資料集にさまざまな実証的研究(実験を中心に)が紹介されていますので、それらを読むことで社会心理学の研究法を理解して下さい。そのあと、資料集に紹介された個々のテーマについて考えて行くことで、社会心理学の知識を獲得していきます。 学習方法: 4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 レポートの出題範囲と課題: 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。それぞれの課題の内容は以下の通りです。 第1課題(出題範囲:資料集資料1、資料2) 1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 人間の社会的行動について、以下の点を留意して説明しなさい。(1)資料集に紹介されている社会的影響過程の中から、重要だと思われるものをいくつか取り上げ、それについて説明する。(2)同時に、それに関わる研究も紹介する。(3)新たな研究案(この段階では簡単なもので良い)を提案する。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。1回目のレポートで書かれた新たな研究案に関連した文献を、教員が紹介することもある。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 第2課題(出題範囲:資料集資料3、資料4)

	1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出) 人間の行動に影響を及ぼす社会的要因の中から、「文化」を取り上げ、以下のことを述べなさい。(1)これまでの日本人論における通説を整理し、これら諸説のどこに問題があるのかを述べる。(2)コミュニケーションにおいてとられる空間行動の文化的違いを述べる。(3)日本人論、もしくは空間行動の文化的違いに関する新たな研究案(この段階では簡単なもので良い)を提案する。 資料3、資料4で記述されているテーマは大きく異なっているので、(1)、(2)を別々に論じてもかまいません。(1)(2)について、字数の配分は自由です。(3)に関しては、「日本人論」に関する新たな研究案もしくは「空間行動の文化的違い」に関する新たな研究案のどちらかで構いません。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。1回目のレポートで書かれた新たな研究案に関連した文献を、教員が紹介することもある。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出) 人間の行動には個人的特性(その人の性格など)だけではなく、社会的要因(その場の状況など)も大きな影響を与えている。具体的な事例をあげて、個人的要因に視点を当てた場合と、社会的要因に視点を当てた場合で行動の解釈がどのように異なるかを述べなさい。 ＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	第 1 課題(40%)、第 2 課題(40%)、単位認定申請レポート課題(20%)として評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境心理学特講(R)
担当教員	佐野 奈緒子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	【科目概要・到達目標】 主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディシプリンによるアプローチを理解するとともに、環境心理学の視野を把握しその可能性を探索します。現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。
授業計画	【使用する資料集】 村松陸雄編『資料集(環境心理学特講)』武蔵野大学大学院通信教育部. ＊レポート作成のための教材資料であり、市販していません。 【学習の進め方】 この科目は、大学院開講の授業科目であるため、履修する段階で、学部レベルの心理学に関する基礎的な理解が前提となります。出身学部が心理学系統ではない履修者は、この科目の学習と並行して、学部レベルの心理学の学習を主体的に学習することが期待されます。 環境心理学は、他の心理学科目に比べて、学際的、かつ、応用的であることを特徴としており、使用する資料集だけでなく、資料集やスタディガイドで紹介した関係文献などにも貪欲に当たって物事に対する視野を広げるとともに、学術的な理論研究に終始するだけでなく、具体的な現場に応用できるだけの実践科学としての存在意義も理解してください。 わが国の心理学の学界において、環境心理学は成長途上の分野であり、日本語で刊行された文献がそれほど多くなく、英語で記述された文献を避けていては、最先端の環境心理学をフォローすることはできません。この授業の履修を好機として、参考文献等で紹介する英語文献に積極的に慣れ親しむことで、英語文献購読という大学院レベルのリテラシーを併せて獲得してください。 【学習方法】 4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 【レポートの出題範囲と課題】 内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポ ート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 第1課題(出題範囲:資料集第1章、第2章) 1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)

住居と都市は、ともに人の住まう空間として、個人や集団にとって行動上も心理的にも、重要な場である。どちらも日常生活を過ごし、人と関わる場であるが、環境心理学的観点からはどのような共通点や違いが見られるだろうか。この問いについて、具体的な一つの切り口を挙げて論じなさい。例えばどちらも生活の場であるが、在宅勤務に見られるように、住居が私的な場であり、都市が公的な場であるというような、単純な切り分けが現在成り立たなくなりつつある。心理的にも自宅が屋外のように、街なかが住居のように感じられる場合もあるだろう。高齢者施設の入居者にとっては、自宅と施設、どちらが Home だろうか。住居や都市がヒトの心理のどのような側面を投影し、どのような行為を生んでいるか、個人や集団にとって、どのような構造を持っているか、様々な観点から論じることができる。あなたの興味のある観点から、取り組んで欲しい。ただし必ず論拠を示し、引用文献を2つ以上引用すること。

*字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出)

「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

*字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

第2課題(出題範囲:資料集第3章、第4章)

1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出)

「自然環境の管理」と「自然環境の資源としての利用」のいずれかについて、一つの具体的な出来事や現象を挙げて、その構造を環境心理学の観点から分析・考察しなさい。また、その事象が抱える課題を示し、その環境心理学の観点からの解決策を提案しなさい。ただし必ず論拠を示し、引用文献を2つ以上引用すること。

*字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出)

「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

*字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)

現代社会が抱える様々な社会問題のうち、あなた自身が関心を有しているテーマを一つ選択し、その選択したテーマに対して、環境心理学が果たす役割の可能性と限界について論じなさい。ただし、明らかに環境心理学による貢献が全く期待できないテーマは選択から除外する。

*字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

【レポート作成上の諸注意】

(1)レポートの1行目に適切なタイトル(「ネットカフェ難民問題に対する環境心理学的視座からの考察」など)を書いて下さい。

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や参考文献、他の学生のレポート等からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。
丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。

(5)資料集以外の参考文献を調べた場合には、本文の最後に、その書名、出版社名、出版年を必ず明記して下さい。(字数に含めない。)

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">(6)資料集や参考文献から引用する場合には、必ず「　」の中に入れて、書名とページを明示して下さい。
(7)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。
(8)レポートには見出しをつけるか、適宜改行して、論旨を明確にして下さい。
(9)添付ファイルを提出する必要はありません。
(10)資料集や参考文献に書かれている内容を示し、それに基づいて論じて下さい。

＊＊＊＊＊《例》＊＊＊＊＊
●●●●●●●(タイトルを記載)
●●●●　●●●●(学籍番号と氏名を記載)

1. ●●●●●●●(見出しを記載)
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●●●●●●●。「●●●●●●●●●」(1)。●●●●●●●
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●(2)。●●●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●●●●●●。

引用文献
(1)●●●『●●●●』●●年、●●、p.●(複数ページの場合は、pp.●-●)
(2)●●●『●●●●』●●年、●●、p.●(複数ページの場合は、pp.●-●)
(●●●●字)
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊</td></tr>
<tr><td rowspan="3">成績評価の方法</td><td colspan="2">a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">b その他</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">【レポートの最終成績】
レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。
レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはあり</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実践的教育を行う
授業科目の種別</td><td colspan="2">a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
(経歴・資格等)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>学外講師の経歴・資格等</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">メンタルヘルス特論</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">野口　普子</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td>学習方法</td><td colspan="3">スクーリング</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">2</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">メンタルヘルスとは、精神的健康、心の健康、精神保健、精神衛生などと称され、主に精神的な疲労、ストレス、悩みなどの軽減や緩和とそれへのサポート、メンタルヘルス対策、あるいは精神保健医療のように精神障害の予防と回復を目的とした場面で使われる。ここでは、メンタルヘルスについての理解を深めるとともに、心と体の関係について整理しながら、精神健康の維持増進について理解を深める。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">本校で行われる全 14 回のスクーリングに 2/3 以上出席し、最終日に教員より課される単位認定試験に合格することで2単位を認定します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">成績評価の方法</td><td colspan="2">a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">b その他</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">この科目は「単位認定試験（100%）」により評価する</td></tr>
<tr><td rowspan="9">実践的教育を行う
授業科目の種別</td><td colspan="2">a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td>○</td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td colspan="2">公認心理師・臨床心理士、および看護師としての実務経験。</td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td colspan="2">心身相関現象について、看護師や心理職としての実務経験や研究から得られた知見も踏まえて授業を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>学外講師の経歴・資格等</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、
研修を行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>実習先・実習の目的</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースワーク特論(R)(人間__人間)
担当教員	矢野 明宏
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	本講義では、社会福祉援助技術の一つであるケースワークについて、その歴史、基本概念とその技法を習得することによって、社会福祉援助活動についての理解を深めていく。そのことを通して、現代社会の中で適応困難(生活のしづらさ)をきたしている人たちの心理や行動(社会環境との関係も含む)を理解する能力を身につけることを目標とする。 具体的には、ソーシャルワークの体系、ケースワークの歴史、構造、定義、視点・モデルの理解、ソーシャルワークの価値・倫理、対象者の援助・支援に必要なスキル、アセスメント・プランニングなどの展開過程、面接技法を理解し、それらをふまえて社会福祉援助活動についての理解を深めることになる。
授業計画	本科目では、資料集を熟読し、4つのレポート(2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 レポートの出題範囲と課題 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 【第1課題(出題範囲:資料2)】 ①1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)ケースワークの歴史的展開を以下の点に触れながら説明しなさい。①ケースワーク理論の体系化の動向、②日本における動向、③現代の課題。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ②2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 【第2課題(出題範囲:資料2)】 ①1回目のレポート(WBTの No.3 区分「レポート」に提出) 「生活モデル」が登場した背景を説明し、①「医学モデル」との相違、②生活モデルの意義について事例を挙げて説明しなさい。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ②2回目のレポート(WBTの No.4 区分「レポート」に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 【単位認定申請レポート課題(WBTの No.5 区分「単位認定試験」に提出)】◎

	ソーシャルワークの展開過程においてソーシャルワーカーの果たすべき役割について、自らの考えを論述しなさい。 ＊字数:1,600 字程度(1,400 字から 1,800 字まで)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、 単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ターミナルケア特論(S)
担当教員	小西　達也
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	4
到達目標	授業概要 特に以下の4点を焦点を当てる。①ターミナルケアでの患者・家族との関係性およびコミュニケーション、②スピリチュアルケア・グリーフケア(論文購読・発　表あり)、③ターミナルケアで直面する諸問題についての臨床倫理検討、④ケア提供者の死生観。 知識・専門性の到達目標 ①グリーフケアやスピリチュアルケアの専門的な知識を身につけている。【専門的能力】 ②医療者がターミナルケアの現場で直面する諸問題についての専門職レベルでの知識と理解を有し、自らの考えが確立されている。【専門的能力】 関心・態度・人格の到達目標 ターミナルケアの現場で、かけがえのない患者さんの死を看取る上で何が必要か、専門職レベルでの考察を有し、専門職としてふさわしいレベルで明確に提示できるようになる。【人格形成・使命感】 思考・判断の到達目標 ターミナルケアの現場で直面する諸問題について、専門職としての適切な対処に必要な倫理的感性、論理的思考力、バランス感覚を養い、多面的な思考力と適切な判断力を明確に提示できるようになる【創造的思考力】 実践的スキル・表現の到達目標 ターミナルケアの現場で直面する諸課題を、医療者として人間尊重の立場で解決するための応用力を身につける。【課題発見力・発信力・問題解決力】
授業計画	第1回　がんと終末期のリアリティ(小西) 予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第2回　ホスピス・緩和ケア(小西) 予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第3回　チーム医療(小西)

予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第4回　施設ホスピスと在宅ホスピス（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第5回　スピリチュアルケア（1）傾聴の基本（小西）
予習：その日の授業で行われる内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、本授業参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

第6回　スピリチュアルケア（2）スピリチュアルケアの基本（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第7回　医療倫理（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第8回　インフォームド・コンセント（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第9回　尊厳死・安楽死（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 10 回　ALS・胃ろう（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 11 回　告知（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 12 回 告知ロールプレイ（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 13 回 臨床倫理検討（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 14 回 キューブラーロス（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：前期の全授業内容についてよく復習しておくこと。

第 15 回 宗教と医療（戸松）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 16 回 チャプレン／臨床仏教師／臨床宗教師（戸松）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 17 回 グリーフケア（1）（戸松）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 18 回 グリーフケア（2）（戸松）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 19 回 死生観（1）（戸松）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

20. 第 20 回 死生観(2)(戸松)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 21 回 自死と自死に関する仏教者の取り組み(戸松)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 22 回 超高齢社会と日本社会の今後(戸松)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 23 回 ビハーラでの活動(打本)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 24 回 死の瞑想(打本)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 25 回 論文発表(1)(打本)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 26 回 論文発表(2)(打本)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 27 回 論文発表(3)(打本)

予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

	第 28 回 論文発表(4)(打本) 予習:前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習:1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	各講師毎に、基本毎授業ごとに課題を課す 85 % 課題発表 15 %	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	＜小西＞ 2007 年 7 月～2010 年 12 月 医療法人 東札幌病院 チャプレン 2012 年 4 月～2013 年 3 月 医療法人社団 爽秋会 岡部医院 チャプレン
	授業内容との関連性	・授業の主眼である「ターミナルケア」(終末期医療、エンドオブライフケア)の臨床現場にて勤務。 ・授業の主眼の一つである臨床倫理に関して、病院倫理委員として様々な倫理的な問題に担当。 ・授業の主眼の一つである「スピリチュアルケア」の専門職として勤務。
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	○
	学外講師の経歴・資格等	＜戸松義晴＞ 元全日本仏教会理事長 元日本宗教連盟理事長 2022 年 6 月～ 世界宗教者会議日本委員会代表 国際医療福祉大学特任教授 ＜打本弘祐＞ 2012 年 4 月 – 2015 年 3 月、2006 年 10 月 – 2008 年 3 月 慶徳会常清の里 相談員(ビハーラ僧) 2008 年 4 月 – 2009 年 3 月大日本仏教慈善会財団あそかビハーラクリニック 常駐僧侶(ビハーラ僧) 龍谷大学准教授
	授業内容	上記授業内容参照
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ターミナルケア特論（SR）
担当教員	小西　達也
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	授業概要 特に以下の4点を焦点を当てる。①ターミナルケアでの患者・家族との関係性およびコミュニケーション、②スピリチュアルケア・グリーフケア（論文購読・発　表あり）、③ターミナルケアで直面する諸問題についての臨床倫理検討、④ケア提供者の死生観。 知識・専門性の到達目標 ①グリーフケアやスピリチュアルケアの専門的な知識を身につけている。【専門的能力】 ②医療者がターミナルケアの現場で直面する諸問題についての専門職レベルでの知識と理解を有し、自らの考えが確立されている。【専門的能力】 関心・態度・人格の到達目標 ターミナルケアの現場で、かけがえのない患者さんの死を看取る上で何が必要か、専門職レベルでの考察を有し、専門職としてふさわしいレベルで明確に提示できるようになる。【人格形成・使命感】 思考・判断の到達目標 ターミナルケアの現場で直面する諸問題について、専門職としての適切な対処に必要な倫理的感性、論理的思考力、バランス感覚を養い、多面的な思考力と適切な判断力を明確に提示できるようになる【創造的思考力】 実践的スキル・表現の到達目標 ターミナルケアの現場で直面する諸課題を、医療者として人間尊重の立場で解決するための応用力を身につける。【課題発見力・発信力・問題解決力】
授業計画	＜スクーリング（S）＞ 第1回　がんと終末期のリアリティ（小西） 予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第2回　ホスピス・緩和ケア（小西） 予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第3回　チーム医療（小西）

予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第4回　施設ホスピスと在宅ホスピス（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第5回　スピリチュアルケア（1）傾聴の基本（小西）
予習：その日の授業で行われる内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、本授業参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

第6回　スピリチュアルケア（2）スピリチュアルケアの基本（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第7回　医療倫理（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第8回　インフォームド・コンセント（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第9回　尊厳死・安楽死（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 10 回　ALS・胃ろう（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。
復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。

第 11 回　告知（小西）
予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。

	復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第 12 回 告知ロールプレイ（小西） 予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第 13 回 臨床倫理検討（小西） 予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習：1日の授業終了後、授業内容をレビュー、学んだこと、自分の考えをまとめておくこと。 第 14 回 キューブラーロス（小西） 予習：前日までに、授業内容部分の事前配布資料に目を通しておくこと。疑問点については、参考文献などを参照し、理解を深め、更に解決しない疑問を授業に持ち寄ること。 復習：前期の全授業内容についてよく復習しておくこと。 ＜レポート（R）＞ スタディガイド参照

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	スクーリング（S）に関しては基本毎授業ごとの課題で評価する。 レポート（R）に関しては単位認定の申請により、課題1（50％、課題2（50％）として、評価する。スクーリングは「単位認定試験（100％）」により評価する） 。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	＜小西＞ 2007 年 7 月～2010 年 12 月 医療法人 東札幌病院 チャプレン 2012 年 4 月～2013 年 3 月 医療法人社団 爽秋会 岡部医院 チャプレン
	授業内容との関連性	・授業の主眼である「ターミナルケア」（終末期医療、エンドオブライフケア）の臨床現場にて勤務。 ・授業の主眼の一つである臨床倫理に関して、病院倫理委員として様々な倫理的な問題に担当。 ・授業の主眼の一つである「スピリチュアルケア」の専門職として勤務。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	特定課題研究演習（人間＿人間）		
担当教員	淺野 敬子・一ノ瀬 正樹・小西 達也・佐藤 裕之・鈴木 健太・西本 照真・野口 普子・日野 慧運		
授業方法	講義		
学習方法	レポート		
単位数	4		
到達目標			
授業計画			
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」		
	b その他		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	特定課題研究演習（仏教＿仏教）	
担当教員	石上 和敬・遠藤 祐介・碧海 寿広・下田 正弘・長尾 重輝・新作 慶明・前田 壽雄	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標		
授業計画		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	持続可能な発展研究1	
担当教員	明石 修	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	本科目の到達目標は以下の通りです。 ・地域の環境問題から地球規模の環境問題に、さらには社会、経済問題とも密接にかかわる持続可能な発展問題へと広がった現代の環境問題の歴史を理解すること ・持続可能な発展の内容について学び、自分なりの理解を深めること ・日本を含めた現代社会が、持続可能な発展をとげるためには、今後どのような対応が必要かということについての自分なりの考えを持てるようにすること。	
授業計画	地球化時代の現代の環境問題は、公害や自然環境の破壊にとどまらず、雇用問題や格差問題など社会や経済全般に密接に関わるきわめて広い概念のものとなってきています。実際、1992 年のいわゆる地球サミットで 21 世紀における人類の行動計画として採択された「アジェンダ21」では、途上国における貧国や格差問題等を背景に、環境と経済と社会に関する幅広い問題がその対象となりました。その後、国連では途上国を念頭においた 2000 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）を経て、2015 年には、先進国、途上国を含めた持続可能な発展目標（SDGs）が策定されました。これらの問題意識の根底には、人類のこれまでの発展のあり方に対する反省を含めた倫理的な問いかけがあり、いわゆる持続可能な発展とは何かという大きな課題につながっています。 現代の環境問題はこのように、社会、経済における広範な構成要素と深くかかわりあっているため、その解決策も多くの要素を同時に解決していくような難しい対応が求められています。しかしながら、持続可能な発展という言葉は広まったものの、それが具体的にどのような内容であるかの共通理解は十分に確立しているとは言えないのが実情です。本科目では、このような大きな問題について、まずは、①これまでの地域的な環境問題がグローバルな持続可能な発展問題にまで拡大されてきた歴史的な取組を振り返るとともに、持続可能性の基本概念について学びます。次いで、②1972 年に出版された「成長の限界」の著者の1人であるヨルゲン・ランダースが 2012 年に書いた「2052、今後 40 年のグローバル予測」をテキストにして、多様な観点から本問題の理解を深めます。更に、③ケイト・ラワースが 2017 年に書いた「ドーナツ経済学」を参考文献として、問題解決の方向を探り、持続可能な発展という観点を軸とした日本も含めた今後の社会システムの構築について考えます。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、第 1 課題、第 2 課題のレポート、および単位認定申請レポートを総合した評価点になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境経営論	
担当教員	白鳥 和彦	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	今日、温暖化防止や廃棄物対策、生物多様性保全など幅広く地球環境問題への対応が求められている。また同時に企業と社会の持続可能な発展につながることが求められている。そのようななか、企業の環境経営・サステナブル経営（CSR 経営/ESG 経営などとも呼ばれる）として、地球環境問題、さらに近年は社会課題への取り組みを進めている。 国内外の具体的な事例の分析や関連する研究論文の理解を通じ、企業の環境経営・サステナブル経営の意義や取り組み、効果や今後の課題等について学習する。 また、企業の取り組みを学ぶことにより、地球環境問題や社会的課題の状況、および政策などの理解を深めることに繋がる。 本科目における到達目標は以下のとおりです。 ・環境経営/サステナブル経営の考え方や取り組み、目標や達成手法、課題など基本的な諸要素を理解すること ・国内外の環境動向や政策についても理解すること ・環境と経済の両立について理解すること ・環境経営の今後の在り方について、自分なりの考え方や視点を持ち説明できるようにすること	
授業計画	【学習の進め方】 本スタディガイドを参考にしながら、テキストを読みその内容を理解するようにして下さい。企業の環境経営・サステナブル経営は、環境問題や社会課題の進展とともに、企業の取り組みや政策が変わって（進んで）きています。環境テキスト①は、環境経営に関する基本的な考えや取り組みが述べられています。但し 2008 年時点で書かれたものであることに留意し、その後の状況については、テキスト②や関連する情報を自ら収集して情報を補ってください。 以下に提示する「レポートの出題範囲と課題」に対応して、テキストや関連資料を通じて学習を進めてください。「出題範囲」と指定された部分のみを読むのではなく、その他の章についても通読し関連する事項を理解しながら進めてください。 具体的事例は、企業のレポート/Web サイトを参考にし、テキストで述べていることがどのように行われているかを読み解きながら学習を進めてください。 【学習方法】 本科目は、レポート科目です。4つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○

	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境学演習
担当教員	白鳥 和彦・西田 純
授業方法	講義
学習方法	スクーリング・レポート
単位数	4
到達目標	＜科目概要＞ 本科目は、スクーリング及びレポート提出によって学習を進めます。 スクーリングでは、本専攻科大学院において、これからのレポート科目に対応した専門的レポートの作成方法及び研究者倫理を学び、環境問題全般についての基礎的な知識を獲得し、その上で理解と課題発見のために、受講者によるプレゼンテーション、受講者相互のディスカッションを行います。 また、レポート学習では、おもに環境白書（循環型社会白書、生物多様性白書を含む 1 冊本）及びテキスト（資料集）を主たる材料として、さらに進んで必要な文献資料を集め読み、環境問題の本質を理解し、環境政策のあり方について論じます。 ＜到達目標＞ 到達目標は、環境問題の主要なトピックに関して、レポートの作成演習やスクーリングでの討論を通じて、自分自身の考えをまとめ、人に伝えることができる段階まで到達することを目指します。 さらに細目の到達目標としては、 スクーリング授業における到達目標は、 ① 研究者として身につけるべき論文作成技術と研究者倫理を身につける ② 個別的環境テーマに入る前の環境問題を俯瞰する網羅的知識を身につける ③ 多面的視点からのディスカッションができるようになる ④ 自分自身の見解・主張をレポートあるいは討論によって伝える力（コミュニケーション能力）を養う。 ことを目指します。 レポート授業における到達目標は、テキストや資料文献などを参考に自ら学び、 ① 環境問題の全体像を把握する。 ② 環境問題の各トピックを十分に読み込み、今日の環境問題の実相とそれに対する各種の政策・対策を、歴史的な背景とともに理解する。 ③ 環境問題の本質と政策・対策の背後にある考え方について考察し、自分自身の見解や主張を持てるようになる ④ 自分自身の見解・主張を文章や論文よってまとめ表現する力を養う。 ことを期待します。 ディプロマ・ポリシーと本科目の到達目標との関係は、 企業社会・地域社会における環境課題を発見する知識・能力→基礎的科目 となります。

	大学院の専門科目では、制度論的、手続き論的、技術論的なことを学び、それを社会の中で応用する力を養うことが中心になります。しかし、それだけでは単なるテクノクラートにしかなれません。環境白書等に書かれているのは基本的な事柄ですが、よく理解しようとすればするほど、深い問題が潜んでいることがわかってきます。そこで述べられている環境問題や政策・対策などについて理解を深め、また多面的に解釈する過程で、環境に対する自分自身の視座を構築してもらいたいと考えています。
授業計画	【学習の進め方】 ① 4 月からスクーリングが始まります。できるだけ早く、スクーリング授業における到達目標「研究者として身につけるべき論文作成技術と研究者倫理を身につける」ことに専念してください。スクーリングでは、順次、「環境問題を俯瞰し網羅的な知識を身につける」「個別的環境テーマを知りそれに対して自ら考える力を養う」という学修に入っていきます。 ② テキストを通読し、必要に応じて自分の関心あるテーマについて関連する資料や文献も積極的に調査し読んでください。環境白書を通読しておくことも有効です。 ③ スクーリング第Ⅲクールでは、教員からの講義だけでなく、授業内容に沿って、受講生からの発言・発表などを基にしたディスカッションも行います。 他の人の視点や考えを聞き議論を交わすことは多面的に学ぶうえで大変重要な機会です。積極的に発言するようにしてください。 ④ スクーリングの間、スクーリング後には、レポートの作成や、テキスト中心として自分なりの学修を続けてください。関連する文献や資料を自身で探しできるだけ集め読みこんでください。 ⑤ 以上を行い、大学院で学び、論文にいたる学習の基礎となるよう臨んでください。他の科目においてもよいレポートを作成するためには、スクーリングでの作成手引きや学習プロセスが重要です。粘り強く、繰り返し資料や文献を読み、自ら考えるという姿勢が求められます。 【学習方法】 本科目は、スクーリングとレポートと両方に合格することで4単位を修得します。
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」
	b その他 ○
	スクーリングは、本学で開講される100分の講義を28回受講し、かつ、指定した提出物および最終日のプレゼンテーションに合格することで2単位を修得します。 レポートは、2つのレポートを提出して合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 どちらか一方が合格であっても、スクーリングとレポート個別に単位は認定されません。 スクーリングの最終成績評価の条件は、 ①本学で開講される100分の講義を28回受講すること（少なくとも 2/3 の出席があること） ②指定した課題の提出 ③第Ⅳク
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	緑地環境計画論	
担当教員	伊尾木 慶子	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	本科目は、自然風土と人間活動によって形成される緑地生態系とランドスケープを理解するための基礎的能力を養成し、そのモニタリングや保全、創造、維持管理について理解することで、緑地保全の専門的能力やその実践にかかわる問題解決能力を養成することを目的とする。 健全な生態系保全に寄与する都市緑化や都市での緑地計画の総合的な展開事例の基礎的理解を通じて、履修後には環境創成と環境保全に関わる緑地計画の提案ができるようになることを到達目標とする。 最終的な目標として、受講者が自ら関心をもった都市の緑地生態系への理解を通して、現代社会の諸問題を検討していく視座を獲得し、実践的に独自なものを提案できるような思索を深めていくことを期待します。	
授業計画	スタディガイドを参考にしながらテキスト(資料集)および参考文献を丁寧に読み、その内容を正確に理解するようにして下さい。また、学びの幅を広げるためにも、参考図書も読んでみるとともに自分でも関連書を探して、読んでください。自ら図書・文献資料を探すのも重要です。その際、読書ノート(レポートを作成するために役立つメモノート)を作成することをおすすめします。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	都市環境心理学(R)
担当教員	佐野 奈緒子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	【科目概要・到達目標】 主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディシプリンによるアプロ ーチを理解するとともに、環境心理学の視野を把握しその可能性を探索します。現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。
授業計画	【使用する資料集】 レポート:村松陸雄編『資料集(都市環境心理学)』武蔵野大学大学院通信教育部.＊レポート作成のための教材資料であり、市販していません。 【学習の進め方】 この科目は、大学院開講の授業科目であるため、履修する段階で、学部レベルの心理学に関する基礎的な理解が前提となります。出身学部が心理学系統ではない履修者は、この科目の学習と並行して、学部レベルの心理学の学習を主体的に学習することが期待されます。 環境心理学は、他の心理学科目に比べて、学際的、かつ、応用的であることを特徴としています。使用する資料集だけでなく、資料集やスタディガイドで紹介した関係文献などにも貪欲に当たって物事に対する視野を広げるとともに、学術的な理論研究に終始するだけでなく、具体的な現場に応用できるだけの実践科学としての存在意義も理解してください。 わが国の心理学の学界において、環境心理学は成長途上の分野であり、日本語で刊行された文献がそれほど多くなく、英語で記述された文献を避けていては、最先端の環境心理学をフォローすることはできません。この授業の履修を好機として英語文献に慣れ親しむことで、英語文献購読という大学院レベルのリテラシーを併せて獲得してください。 【学習方法】 本科目には、①レポート、②スクーリングの2つの学習方法があり、選択することができます。 このシラバスでは、①レポートについて説明します。 ①レポートを選択した場合、2つのレポート(1つの課題に対して2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 ********** 【レポートの出題範囲と課題】

学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポ ート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。

課題(出題範囲:資料集第1章、第2章)

1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出)

住居と都市は、ともに人の住まう空間として、個人や集団にとって行動上も心理的にも、重要な場である。どちらも日常生活を過ごし、人と関わる場であるが、環境心理学的観点からはどのような共通点や違いが見られるだろうか。この問いについて、具体的な一つの切り口を挙げて論じなさい。例えばどちらも生活の場であるが、在宅勤務に見られるように、住居が私的な場であり、都市が公的な場であるというような、単純な切り分けが現在成り立たなくなりつつある。心理的にも自宅が屋外のように、街なかが住居のように感じられる場合もあるだろう。高齢者施設の入居者にとっては、自宅と施設、どちらが Home だろうか。住居や都市がヒトの心理のどのような側面を投影し、どのような行為を生んでいるか、個人や集団にとって、どのような構造を持っているか、様々な観点から論じることができる。あなたの興味のある観点から、取り組んで欲しい。ただし必ず論拠を示し、引用文献を2つ以上引用すること。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

2回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出)

「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

単位認定申請レポート課題(WBTの「単位認定試験」に提出)

現代社会が抱える様々な社会問題のうち、あなた自身が関心を有しているテーマを一つ選択し、その選択したテーマに対して、環境心理学が果たす役割の可能性と限界について論じなさい。ただし、明らかに環境心理学による貢献が全く期待できないテーマは選択から除外する。

＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

＜レポート作成上の諸注意＞

(1)レポートの1行目に適切なタイトル(「ネットカフェ難民問題に対する環境心理学的視座からの考察」など)を書いて下さい。

(2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。

(3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。

(4)資料集や参考文献、他の学生のレポート等からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。
丸写しのレポートは容赦なく不合格にします。

(5)資料集以外の参考文献を調べた場合には、本文の最後に、その書名、出版社名、出版年を必ず明記して下さい。(字数に含めない。)

(6)資料集や参考文献から引用する場合には、必ず「 」の中に入れて、書名とページを明示して下さい。

(7)提出前に他の人に目を通してもらうか、自分で声を出して読んでみることをお勧めします。

(8)レポートには見出しをつけるか、適宜改行して、論旨を明確にして下さい。

(9)添付ファイルを提出する必要はありません。

	(10)資料集や参考文献に書かれている内容を示し、それに基づいて論じて下さい。 ＊＊＊＊＊《例》＊＊＊＊＊ ●●●●●●●（タイトルを記載） ●●●● ●●●●（学籍番号と氏名を記載） 1. ●●●●●●●（見出しを記載） ●●●。「●●●●●●●●●」(1)。●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●(2)。●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●。 引用文献 (1)●●●『●●●●』●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●-●） (2)●●●『●●●●』●●年、●●、p.●（複数ページの場合は、pp.●-●） (●●●●字) ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 【その他】 ・ 参考文献の役割と書き方 http://sist-jst.jp/pdf/SIST_booklet2009.pdf ・ 学術論文の執筆と構成、科学技術レポートの様式、参照文献の書き方 http://sist-jst.jp/		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」		
	b その他		○
	＜レポートの最終成績＞ レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	都市環境心理学(S)
担当教員	佐野 奈緒子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	【科目概要・到達目標】 現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。都市環境心理学(S)では、各自の問題意識に対し、環境の物理的特性、認知特性の把握と心理評価により、データ分析に基づく考察及び提案ができることを到達目標とします。
授業計画	【使用する資料集】 スクーリング：日本建築学会編，都市・建築デザインのための人間環境学、朝倉書店，2022 ※スクーリングに参加される場合には、各自で上記テキストを準備する必要があります。大学からの配本はありません。 【学習の進め方】 この科目は、大学院開講の授業科目であるため、履修する段階で、学部レベルの心理学に関する基礎的な理解が前提となります。出身学部が心理学系統ではない履修者は、この科目の学習と並行して、学部レベルの心理学の学習を主体的に学習することが期待されます。 環境心理学は、他の心理学科目に比べて、学際的、かつ、応用的であることを特徴としています。物事に対する視野を広げるとともに、学術的な理論研究に終始するだけでなく、具体的な現場に応用できるだけの実践科学としての存在意義も理解してください。 スクーリングでは、環境心理学のうち、都市・住環境のシステム・デザインに関わるより実践的な観点からの学習をその基礎から進めていきます。使用するテキストだけでなく、各人の興味に沿った文献を探し、ぜひ読んでみてください。海外文献も積極的に読んでみることを勧めます。 【学習方法の選択】 本科目には、①レポート、②スクーリングの2つの学習方法があり、選択することができます。 ここでは②スクーリングについて説明します。①レポートを希望の方は、「都市環境心理学(R)」のシラバスをご参照ください。 スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で毎週開催される原則100分の講義を14コマ受講し、試験に合格することで2単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、WBTのガイダンスを確認してください。 【スクーリングの講義内容】(講義内容は変更されることがあります。) スクーリング講義では、都市環境を物理環境と認知特性、心理的応答の対応関係から捉えます。環境心理学において適用事例が多い環境評価手法を理解した上で、ワークショップ実習を通して応用実践力の獲得を目指します。なお、出席学生の習熟度等に合わせて授業の進め方は適宜、判断します。

スクーリング授業の進め方

次の2つを中心にし、純粋な講義形式ではなくゼミナール形式により進めます。履修者数によって授業の進め方は適宜、判断します。

(1)基本文献の輪読

「日本建築学会編，都市・建築デザインのための人間環境学、朝倉書店，2022」の輪読を行います。

＊各自で上記テキストを準備する必要があります。大学からの配本はありません。

(2)その他、環境心理学グループワーク(必要な資料は適宜配布する予定)

人数にもよりますが、可能な場合、参加者の研究テーマに近い内容で構成します。社会人の実践的な問題意識も歓迎します。テーマに従い、授業内シンクタンクのような形で、簡単な調査やそれに基づくディスカッションを行います。

基本文献(教科書)の輪読

・各自担当章の内容をパワーポイントで説明。資料に掲載されていない関連トピックスも適宜、紹介する。

・時間:発表45分間＋質疑応答30分間(受講者数により変化します)

・原則としてパワーポイント等を用いて発表。

論文の見つけ方

・図書館のオンラインデータベース(CiNii、J-STAGE など)を用いて論文情報を検索する。

・学内になければ、他の大学の図書館に行ってコピーするか、本学の図書館のレファレンスカウンター で、「学外に所蔵する文献複写依頼申込」をすると、複写したものを取り寄せてくれる(ただし、有料。)

・全文が PDF で公開されている場合もある。ただし、学内のネットワーク以外からのアクセスの場合、無料で全文 PDF をダウンロードできない場合がある。

・図書館のオンラインデータベース

・雑誌記事検索 CiNii

・J-STAGE

・世界的に定評がある、「環境心理学」関連の学術雑誌

「Environment and behavior」

「Journal of Environmental Psychology」

・Google scalar

■副読本

基本文献のほか、以下について授業で参考にする場合があります。

授業のために購入する必要はありませんが、良書ですのでご一読をお勧めします。

・日本建築学会編:住まいと街をつくるための 調査のデザイン―インタビュー／アンケート／心理実験の手引き，オーム社，2011

・日本建築学会編:心理と環境デザイン ―感覚・知覚の実践―，技法堂出版，2015

・羽生和紀:環境心理学 第 2 版: 人間と環境の調和のために (ライブラリ実践のための心理学 5)、サイエンス社、2019

	・ロバート ギフォード：環境心理学〈上〉原理と実践，北大路書房，2005 ・ロバート ギフォード：環境心理学 〈下〉―原理と実践 ，北大路書房，2007 講義スケジュール 第1回 自己紹介、授業ガイダンス 第2回 基本文献の輪読：第1章 人間環境学の環境デザインにおける意義 第3回 基本文献の輪読：第2章 環境知覚の基礎（諸感覚の特性と役割，視環境，音環境） 第4回 基本文献の輪読：第2章 環境知覚の基礎（温熱環境，空気環境，感覚の複合評価） 第5回 基本文献の輪読：第3章 環境認知と人間行動 第6回 グループワーク① 測定してみよう 第7回 グループワーク① 発表会 第8回 基本文献の輪読：第4章 環境の評価（キャプション評価法） 第9回 基本文献の輪読：第4章 環境の評価（評価グリッド法） 第 10 回 基本文献の輪読：第4章 環境の評価（アンケート評価，POE） 第 11 回 基本文献の輪読：第5章 安心・安全・健康の人間環境学 第 12 回 グループワーク② 調査してみよう 第 13 回 グループワーク② 分析してみよう 第 14 回 グループワーク② 発表会 ＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	輪読の発表内容(40%)、グループワーク(40%)、レポート(20%)により評価します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	地域環境政策論	
担当教員	白井 信雄	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	・地域の環境政策の経緯と将来的な取組課題を理解すること ・目指すべき持続可能な社会に関する規範を理解すること ・持続可能な社会を目指す地方の環境政策の実践事例を知り、そこから学ぶこと ・脱炭素（カーボンゼロ）等をテーマにして、地域の環境政策を具体的に考えること ・地域課題の解決と両立する地域の環境政策を実現していくうえでの課題と克服方法を考えること	
授業計画	【学習の進め方】 まずは本スタディガイドを参考にしながらテキストに掲げたテキストを読み、その内容を正確に理解するようにしてください。もとより環境の状況や環境政策などの状況は常に変わっていきます。そのため、テキストに書かれた情報にとどまらず、自ら情報を収集し、より最新の知識を得るようにしてください。 ただし、それぞれの項目には地域の環境政策に関する普遍的なものの考えかたや課題が指摘されています。学習者は最新のデータも収集しつつ、その問題の本質をつかむことを心がけてください。また、関心のあるその他の関連文献等についても積極的に読まれることをおすすめします。 また、それぞれの項目について、意味の分からない用語や概念があった場合は、常に、ネット上の環境用語集（例えばEIC環境用語）などを参照して理解を深めてください。 【学習方法】 本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して 2 回の提出を求めます。1 回目は課題についてのレ レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	民間シンクタンクに勤務し、環境省等の中央省庁や地方自治体の環境政策関連の調査や計画作成支援等を行ってきた。（民間シンクタンク勤務歴 22 年）

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境コミュニケーション論
担当教員	北見　幸一
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	【科目概要・到達目標】 企業や地域社会における持続可能な環境マネジメントの実践を円滑に進めるためには、主体を取り巻くステークホルダーを十分に理解し、その状況に応じたアプローチが必要となります。本授業では、そのアプローチの1つである「環境コミュニケーション」の意義と手法を学び、既存の環境コミュニケーションの事例の分析を通じて、自らが抱えるテーマに環境コミュニケーション手法の適用をするための能力を身につけることを目的とします。 　環境コミュニケーションを実践するためには、人びとの価値観の変化、環境リスクの認知、サステナビリティへの意識・態度変容、行動変容の実践、さらにはメディアリテラシーなどの側面を理解する必要があります。本科目では、持続可能な社会を目指した「環境やサステナビリティ」の中で、社会における「環境コミュニケーション」を「広報・PR」の一部として捉えて学習を進めます。 前半では、ステークホルダーを十分に理解し、その上で、その状況に沿った環境コミュニケーションについて手法や効果検証の方法などを学びます。後半では、様々な主体が行っている環境コミュニケーションの事例をとりあげ、分析・評価を行うことにより、「環境コミュニケーション」実践に向けた知識を得ることを目指します。
授業計画	【使用する教科書・資料】 ◆関谷直也、薗部靖史、北見幸一他著(2022)『広報・PR 論－パブリックリレーションズの理論と実際－(改訂版)』有斐閣 ◆株式会社電通(2022)『サステナビリティ・コミュニケーションガイド』＊ https://www.dentsu.co.jp/sustainability/sdgs_action/pdf/sustainability_communication_guide.pdf 　＊インターネットでダウンロードしてください(無料)。 【学習の進め方】 まず、教科書『広報・PR 論－パブリックリレーションズの理論と実際－(改訂版)』および、資料『サステナビリティ・コミュニケーションガイド』を読み、内容を理解して下さい。巻末にある参考文献なども適宜読み進めてみて下さい。最新の情報を知るために、インターネット、マスメディアなどで環境コミュニケーションにかかわる情報に敏感になって下さい。 　その上で、下記の「レポートの出題範囲と課題」に基づきレポートを作成して下さい。どのレポートも、自ら調べ、自らの意見をもって執筆することが求められます。 【学習方法】

本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートの評価と合わせて合格点を得ることで、2単位を修得します。

【レポートの出題範囲と課題】

第1課題

現在、社会で行われているサステナビリティ・コミュニケーションの事例を数例とりあげ、コミュニケーションの主体や対象は誰なのか、何を目指しどのような効果をあげているか、その前提となっている人びとの認識をどのように反映しているか等の側面から、コミュニケーションを評価しなさい。効果については、可能であれば、言葉で定性的に記述するだけでなく、数値をあげて定量的に記述することを心掛けて下さい。また、事例はテキストの中からではなく、社会で行われているものを自ら探してみて下さい。

＊レポートタイトル：サステナビリティ・コミュニケーションの現状
＊字数：2000 字～3000 字程度
＊合格点に達していない場合は、適宜アドバイス後、再提出とします。

第2課題

環境コミュニケーションにおいて広報・PR手法が使われている具体的な事例をあげながら、パブリックリレーションズの本質をまとめなさい。事例は、テキストの中からだけではなく、社会で行われているものを取り上げて下さい。

＊レポートタイトル：環境コミュニケーションにおけるパブリックリレーションズの本質
＊字数：2000 字～3000 字程度
＊合格点に達していない場合は、適宜アドバイス後、再提出とします。

単位認定申請レポート課題

関心のある環境問題を一つ取り上げ、それに対して現在行われているコミュニケーション手法の可能性と限界をまとめなさい。（内容としては、何が期待されどのような広報・コミュニケーションが行われているのか、それは効果を上げているのか、効果が上がっている場合／いない場合の要因は何か、「コミュニケーション」だけで解決しうるのか等を含めてください）
なお、レポートの序章で、なぜその環境問題・環境コミュニケーション手法に関するレポートにしようとしたのかを述べ、問題意識を明らかにした上でまとめてください。

＊レポートタイトル：環境コミュニケーションの可能性と限界
＊字数:2000 字～3000 字
＊合格点に達していない場合は、適宜アドバイス後、再提出とします。

	＜レポート作成上の諸注意＞ (1) レポートの 1 行目には各課題で示したタイトルを書き、必要であれば副題を付けて下さい。 (2) タイトルの次の行には、学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。 (3) レポートの末尾に総字数を書いて下さい。 (4) レポートは章立てを明確にし、各章の中では小見出しをつける、改行するなどして、論旨が明確になるようにして下さい。特に最初の章(「はじめに」等)では、レポートの趣旨を簡潔に記述して下さい。 (5) テキストや参考文献、あるいはインターネットなど既存資料からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。丸写ししたレポートは不合格とします。 (6) テキスト以外の資料を参照した場合は、本文の最後に著者、書名、出版社名、出版年を明記して下さい。 (7) レポート中にテキストや参考文献から引用する場合には、必ず「 」の中に入れて、出典を明記して下さい。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	＜レポートの最終成績＞ レポートの最終成績は、課題レポートの平均点(四捨五入)と単位認定申請レポートの点数をもとに決められます(課題レポートの平均点を 50%、単位認定申請レポートの点数を 50%として最終成績を決めます)。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	博士(経営学)。MBA(経営学修士)。 北海道大学大学院メディアコミュニケーション研究院准教授、株式会社電通パブリックリレーションズ コーポレートコミュニケーション戦略部部長を経て、2017 年 4 月より現職。 現在、 東京都市大学都市生活学部准教授／大学院環境情報学研究科准教授(東京都市大学＝旧武蔵工業大学)。 社会構想大学院大学コミュニケーションデザイン研究科客員教授。(社会人大学院)。
	授業内容との関連性	電通パブリックリレーションズにおける「環境コミュニケーション」分野での広報・PR 戦略およびコミュニケーション戦略策定・実施の実務。
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	システム・ダイナミックス論
担当教員	田辺 直行
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	【科目概要】 環境問題への対応や環境マネジメントにおいて、対象のダイナミックス(時間的な振舞い)を 単なる 原因―結果の因果関係 で予測することは難しい。 対象のダイナミックス を理解するには、対象としている環境をシステムとみなし 、 システム 内に どのような因果関係の連鎖があるのかをとらえる視点が必要にな ってくる 。システム全体を見渡すことにより、 要素どうしの 因果関係の連鎖がシステム内を 巡って 、再び その要素に戻ってくる「フィードバック・ループ」が存在すること が分かる。 このような ループが存在すると、 今の結果が次の原因 となりシステム全体を巡って、再び 元の要素 に戻ってくる ことになる 。このよう な効果が存在することで、システムの振舞いは予測することが困難となる。 これが、環境問題が難しい理由となっている。逆に、このようなフィードバックの効果は大きいので、この効果を利用することで、システムを望ましい方向に変更することも可能 と なってくる。 対象を システム とし て の振舞い として 把握 することにより、環境問題への対応においてより適 切な 予測 ができるようになるだけでなく、 環境マネジメントにおいても、より効果的に環境をマネジメントすることができるであろう。 【到達目標】 到達目標は、(1)環境をシステムとして捉え、 フィードバック構造を表現した「ループ図」 による理解の仕方を習得すること 、 (2)そのフィードバック構造 によって、システムの 振舞いを定性的 あるいは 定量的に解析することができるようになることである。
授業計画	【使用テキスト】 (1)湊宣明『実践システム・シンキング』(講談社、2016) (2)ドネラ・M・メドウズ『世界はシステムで動く』(英治出版、2015) 【学習の進め方】 まず、テキスト[1]でシステムの基本的な概念や考え方を習得し、テキスト[2]で環境や社会の課題をシステムとしてとらえて分析する方法を具体例を使って学びます。最後には、受講生の興味のある問題に対して、これらの手法を使って分析することにより、その問題に対する対策を提案していただきたいと考えています。 テキスト[1]を読むにあたって、対象をシステムとしてとらえるとはどういうことなのかを、その概念を表す用語に注意しながら読むように心がけてください。テキストに例題として出てくるループ図は典型的なものですから、そのループ図をノートに描いてみると理解が深まるでしょう。特に、要素を表すことばの選択の仕方や、因果関係、相関関係を表す矢印の向きに注意しながら描いて、その図を基にしながらテキストを読み進めてください。ループ図を描くことで、テキストの文章がより具体的に理解でき、システムの振る舞いもよりイメージできるようになると思います。

	テキスト[2]には、システムの振舞いを理解し易くするために、いくつかの具体例が出てきます。これらの具体例を読みながら、自分の知っていることに対応づけて、自分の頭で再構成するようにしてください。また、ループ図を使って、システムの振舞いを自分のことばで文章にして表現すると良いと思います。 このループ図を使って分析するときに最も重要なことは、ループ図の中に「フィードバック・ループ」を見つけて、そのループが正のフィードバック(自己強化型フィードバック)なのか、負のフィードバック(バランス型フィードバック)なのかを判別することです。このフィードバックループを理解することが、システムの振舞いを解析するときに、重要な視点を与えてくれます。マネジメントでよく出てくる PDCA サイクルとは異なり、正・負の違いがシステム全体の振る舞いに根本的な違いを生み出します。このことが分かれば、本科目の目的の半分以上は理解できたと思えるほど重要です。 最終的に、環境や社会のような複雑なものをシステムとしてとらえることができ、システムのダイナミックス(時間的な振舞い)を文章にして表現できるようになることを目指してください。 【第1課題レポート】 テキスト[1]を読んで、まず、システムを構成する要素を示す用語(「時間遅れ」「フィードバック」)について、具体例を使って説明してください。次に、日本の人口、過疎化のどちらか1つを選び、ループ図を使って分析し、システム全体の振る舞いを説明してください。 【第2課題レポート】 テキスト[2]を読んで、自分の興味のある対象をシステムとしてとらえてループ図を描き、そのシステムの振る舞いを説明してください。 【単位認定レポート】 地域資源を対象として、システム・ダイナミックスの方法で分析を行い、その対象について論じてください。 必須事項:ループ図、参考文献(具体例として2−3例をリサーチして、参考文献として挙げること) (各レポートは、3000字程度) 詳しくは、スタディガイドをご覧になってください。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	CSR論
担当教員	杉浦 正吾
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	【科目概要・到達目標】 環境・社会・経済側面からCSR活動の歴史変遷を踏まえたうえで、近年の企業サイドにおける、SDGs/ESG 対応を中心としたCSR活動をリサーチし、投資家や生活者サイドの「信頼」や「新しい価値観」に応えると視点のベースづくりを目標とします。 ※以下の、②③に該当 ①企業社会・地域社会における環境課題を発見する知識・能力→基礎的科目 ②専門的かつ具体的な改善策を立案し、企画提案や改善提案を行う知識・能力→応用的科目 ③企業社会・地域社会において専門的な知識・能力を実践する→実践的科目
授業計画	【学習方法】 本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出してすべてに合格し、最後に単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 【レポートの出題範囲と課題】 ●第1課題（出題範囲：資料集 序章～第4章、第9章・10章） （WBTの No.1区分「レポート」に提出） 「社会課題の変遷と今日に至るCSRの歴史的背景・潮流をまとめ、 さらに、未来に向けた日本におけるCSR活動のあり方についてあなたの主体的な意見を論じなさい。」 ＊字数：1,800～2,400 字 ＊合格点に達していない者は、適宜アドバイス後、再提出となる。 ●第2課題（出題範囲：資料集 第5章・6章、企業のCSR活動） （WBTの No.2区分「レポート」に提出） 「同一業種内における、複数企業のCSR活動を SDGs/ESG 対応の視点を中心に比較・論じなさい。」 ＊字数：1,800 字以内 ＊WEBサイトにてリサーチすること。 ＊2社以上でも構わないが、3社以上が望ましい。

	＊同一業種内における、複数企業の…とは、例えば、自動車業界における、トヨタ、日産、ホンダ…等を指す。 ＊対象はCSR報告書であり、環境側面のみを取り上げる「環境報告書」ではない。 CSR報告書（Corporate Social Responsibility Report）とは、企業が、環境や社会問題などに対して倫理的責任を果たすべきとするCSR（企業の社会的信頼・責任）の理念に従い、社会的な取り組みをまとめた報告書。統合報告書、サステナビリティ報告書、社会・環境報告書、持続可能性報告書など様々な名称がある。 ＊合格点に達していない者は、適宜アドバイス後、再提出となる。 ●単位認定申請レポート課題 （WBTの No.3区分「単位認定試験」に提出） 「第2課題でとりあげた企業から1社を選び、第1課題の意見もまじえて、あなたの考える「提言、未来に向けた～～社のCSR活動」を論じなさい。」 ＊字数：1,200～1,800 字 ＜レポート作成上の諸注意＞ (1)レポートの1行目に適切なタイトルを書いて下さい。 (2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。 (3)レポートの末尾に総字数を必ず書いて下さい。 (4)資料集や参考文献からの丸写しは避け、自分の文章で書いて下さい。 (5)資料集以外の参考文献を調べた場合には、本文の最後に書名、出版社名、出版年を必ず明記して下さい。（字数に含めない。） (6)資料集や参考文献から引用する場合には、必ず「　」の中に入れて、書名とページを明示して下さい。 (7)添付ファイルを提出する必要はありません。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポートの平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境マネジメントシステム論	
担当教員	白鳥 和彦	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	本科目は、環境マネジメントシステムを組織のマネジメントシステムの一つとして捉え、環境マネジメントシステムを組織経営に有効に活用する視点を育てることを狙いとしています。 環境マネジメントシステム（EMS：Environmental management systems）は、ISO14001 規格が制定された 1996 年以降、多くの組織が認証登録しています。一方、ISO14001 を基に認証登録対象を限定、規格の要求事項を対象組織に分かりやすくするなどの工夫をした環境マネジメントシステムが考案され、それぞれが特徴ある認証登録の仕組みを構築運用しています。例えば、環境省による「エコアクション 21 などがあります。いずれの環境マネジメントシステムにおいても、ISO14001 が基礎としている PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルによる環境パフォーマンスの改善が柱となっています。 ISO14001 は、従来の基本原則を維持しつつ「組織をとりまく環境課題の変化」及び「ISO マネジメントシステム規格の共通化」に対応し 2015 年に大幅に改訂されました。 環境マネジメントシステムを理解するためには、規格要求事項を読み解くだけではなく実際に手を動かす（マネジメントシステムの文書や関連資料を作成する）経験が必要であると考えます。 本科目では、ISO14001（JIS Q 14001:2015)をもとに作成したテキストを参考にし、受講生が設定した仮想組織の ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムを経営者の立場になって、構築、運用し、PDCA サイクルを 1 回経験します。これにより、実際的な環境マネジメントシステムの理解を深めることを狙います。 さらに、その学修を踏まえ、企業の環境マネジメントシステムの構築・運用状況を調べ、考察することを行い、環境マネジメントシステムの意味、特徴、課題などの理解を深めます。	
授業計画	【学習の進め方】 まずは、スタディガイドを参考にしながらテキストおよび JIS Q 14001:2015 規格を丁寧に読み、その内容を精確に理解するようにして下さい。また、環境報告書、CSR 報告書、サステナビリティレポート等の名前で多くの組織が環境に関する取組みを公開し、環境マネジメントシステムに関する記載があります。学びの幅を広げるためにも、これらの情報を探索し、内容を理解することも大切です。 その上で、以下の「レポートの出題範囲と課題」に従いレポートを作成します。 市販のノウハウ本や Web 上の情報を参考にしてもかまいません。 【学習方法】 本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポートの平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	持続可能な発展研究2	
担当教員	磯部 孝行	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	【到達目標】 本授業での到達目標は、特定の分野において資源循環の考え方に基づき、材料の代替、省資源化、リサイクルなど資源を有効活用する方策を考え提案することができ能力を身に付けることを目標としています。具体的には、以下の 3 点を到達目標としています。 ・環境問題、主として資源循環を考える上での基本原則、原理を理解する。 ・持続可能な概念などを理解した上で、特定の分野における資源循環の在り方を思考することができる。 ・特定の分野において、多様な視点から資源を有効活用するための方策を提案できる。	
授業計画	本講座では、リサイクル、資源循環に関連する学習内容を深めるためにレポートについて 2 回の提出を求めています。下記、課題のテーマに沿ってレポートを作成し、 教員が添削、フィードバックすることで専門知識の定着を図ります。 第1課題(出題範囲:テキストの 1 章) 1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「日本の廃棄物処理・リサイクルに関する社会状況、法律、制度の変遷について整理することに加え、資源を有効活用する上で、考慮すべき原則・原理などについて論じなさい。」 ＊字数:2000 字程度(目安 1,800～2,200 字) 第2課題(出題範囲:テキストの 2 章・3 章) 1回目のレポート(WBTの No.1 区分「レポート」に提出) 「特定の分野もしくは製品を選定した上で、資源循環の現状(資源消費量、リサイクル量、最終処分量など)を整理し、持続可能な社会構築に向けた新たな概念を参考に、今後の資源消費の在り方について論じなさい。」(テキストでは建築分野を中心に紹介しているが、選定する分野もしくは製品については、建築分野以外でも可。) ＊字数:2,000 字程度(目安 1,800～2,200 字) 単位認定申請レポート課題 「持続可能な社会構築に貢献するための資源活用の在り方を提示した上で、特定の分野もしくは製品を選定した上で、今後の資源活用の方法を提案しなさい。」 ＊字数:2,000 字程度(目安 1,800～2,200 字)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○

	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)	磯部孝行(職歴) ・愛知県庁建設部 技師(建設リサイクル法などを担当)	
	授業内容との関連性	建築分野を中心に廃棄物施策の実務経験のある教員より、実務的な経験を踏まえた情報提供などを行い、理解力の向上を図る。	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ライフサイクルアセスメント論
担当教員	髙橋 和枝
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	本科目は、国際的に標準化されている環境負荷、環境影響の定量的評価手法であるライフサイクルアセスメント(LCA)について学んでいきます。 ライフサイクルアセスメントの基本となるライフサイクル思考とは単に目の前にあるモノやサービスについて考えるだけではなく、製造から廃棄までのライフサイクルで考えることです。例えば皆さんのパソコンは、電気エネルギーを消費することでその機能を発現することができます。しかしパソコンの環境負荷とは、単に電気エネルギーを消費することだけでしょうか？そのパソコンが皆さんの手元に届くまでにはトラックでの輸送があり、ガソリンなどのエネルギーを消費しています。また製造段階では多数の金属資源材が必要ですが、その多くは海外で採掘され、素材として日本に輸入されたものです。そして廃棄する時にも環境への排出があります。このように見えていない環境影響にも配慮することにより、真の意味での環境配慮ができると言えます。 そこで、LCA は、製品の環境価値を測るだけではなく、近年では、企業など組織の環境施策の決定にも活用されています。このように様々なシーンで期待されている LCA ですが、実際に実施するためにはいくつかの手順を学び、また、使用するデータベースの選び方やデータの集め方などを知ることが必要です。 『改訂版 演習で学ぶ LCA』をテキストとして使用します。テキストを各章毎に読み込んでいき、LCA の四つのフェーズである目的と調査範囲の設定、インベントリ分析、ライフサイクル影響評価、ライフサイクル解釈の意義と手順を理解していきます。またテキストのやかんのケーススタディーを自ら実施しながら、実践方法について理解していきます。 後半では LCA 事例研究とし学会の論文誌から自分の興味のある研究論文(ケーススタディ)を 1 つ選定し、テキストの勉強で得られた LCA 手法の理解をもとに論文のレビューを行っていただきます。このことにより LCA 専門家が具体的な物やサービスについて LCA 調査をどのように実践しているか、そして LCA 研究の最新動向を理解します。 本授業の到達目標は、ライフサイクルアセスメントを実際に行える能力を身につけることです。
授業計画	スタディガイドを参考にしながらテキストを読み込み、その内容を精確に理解するようにして下さい。また後半には LCA 事例研究として「日本 LCA 学会論文誌」から自分の興味のある LCA 事例研究の論文を選定し、テキストの勉強で得られた LCA 手法の理解をもとに論文のレビューを行っていただきます。様々な分野の研究論文にも目を通すようにして出来るだけ多くの LCA の実践例にふれるようにしてください。なお、課題提出時の対象とする論文に総論や解説記事は対象外としてください。 日本 LCA 学会誌に掲載されている論文の検索方法は以下の通りです。 ・ J-STAGE トップ (https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja)にアクセス ・上部の検索欄に「日本 LCA 学会誌」を入力し、検索ボタンをクリック ・表示された日本 LCA 学会誌をクリックすると左側の巻号一覧が表示される。 ・この中から抄録等をみて興味ある論文を選択し、本文 PDF をダウンロードする。 (無料でダウンロードできます) 学習の進め方の詳細については、後の項の「資料集解説」を参照して下さい。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」		
	b その他		○
	レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	日本電信電話株式会社において研究開発に従事（1988 年～2016 年）その間に国内外での学会活動、論文を投稿し、掲載された。 資格： 中学・高等学校教諭一級普通免許（理科）、 危険物取扱者（甲種）	
	授業内容との関連性	企業内で LCA のケーススタディを多数行い、学会発表の他、論文発表を行った。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	サステナビリティ会計論（持ち越し）	
担当教員	白鳥 和彦	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	環境会計は、企業という公的なかかわりを持つ事業体が、環境に関する社会的責任を果たしつつ、環境保全の活動を効果的・効率的に推進するため、環境負荷削減に関わる費用と効果を可能な限り定量的（貨幣単位または物量単位）に把握し、企業の内部管理に資するとともに、外部へ伝達する仕組みであり、環境活動と経済活動を連係する環境経営手法として重要な役割を担っています。 本科目では、環境省の環境会計ガイドライン、および環境会計の二つの機能（外部機能と内部機能）について理解し、企業の環境報告書や CSR 報告書における環境会計の記載事例を調査し考察することにより、環境会計に関する理解を深めます。さらに、環境管理会計、マテリアルフローコスト会計、ライフサイクルコスティング、CSR 会計、環境効率、環境税、排出権取引、国際標準化の動向等について学び、今後の環境会計の課題についても学ぶこととします。 本科目の到達目標は以下の通りです。 ・企業経営と環境問題の関係を知り、環境会計の役割を理解すること。 ・環境省の環境会計ガイドラインについて理解すること。 ・複数の先進的企業の環境報告書や CSR 報告書における具体的記載事例を収集し分析すること。 ・上記の分析等により、環境会計に関して一定レベルの専門的見解を持てること。	
授業計画	学習の進め方】 本スタディガイドに従い、テキストや「環境会計ガイドライン」を読み、それらの内容を理解するとともに、環境会計の意味や課題をつかんで下さい。国内外の環境政策や企業の環境対応が社会状況に応じて変わるなか、テキストに書かれた情報にとどまらず、自ら情報を収集し、企業の環境対応に関する最新の知識を得るようにして心がけて下さい。 その他、関心のある関連文献等についても積極的に読むことをすすめます。 【学習方法】 本科目は、2つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	省資源・省エネルギー論	
担当教員	明石 修	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	世界では今、気候変動への対策として脱炭素化（二酸化炭素を実質ゼロにすること）が、大きな課題となっており、中でも二酸化炭素排出の大部分を占めるエネルギーの脱炭素化が急務である。本科目では、エネルギー需給の現状や課題、政策や技術などについて学ぶことにより、下記の能力を身につけることを目的とする。 ・日本におけるエネルギー需給の現状や課題ついて理解する ・エネルギーに関する制度や省エネ技術についての知識を得る ・日本のエネルギーのあるべき方向について自分なりの考えを形成する	
授業計画	世界では現在、気候変動への対策として脱炭素化（二酸化炭素を実質ゼロにすること）が大きな課題となっている。エネルギー消費による化石燃料の燃焼は、二酸化炭素の最大の排出源であり、再生可能エネルギーの普及やエネルギー効率の改善などによるエネルギーシステムの脱炭素化が求められている。本科目では、日本のエネルギー需給の現状や課題、エネルギーに関する制度や利用可能な技術など、エネルギー・環境問題を考える上での基礎的知識を身につける。そのうえで、政府の現行のエネルギー政策を批判的に考察しつつ、持続可能な社会を形成するにあたっての日本のエネルギーのあるべき方向について考える。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、第 1 課題レポート、第 2 課題レポート、単位認定申請の総合で評価します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境化学物質論
担当教員	真名垣 聡
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	本科目は、我々の生活に必需となっている化学物質の性質や環境での動態の理解と、化学物質規制や管理制度の最新動向の把握が主な内容です。そして、講義を受けることで最終的には化学製品に関連する専門的な改善策の立案、企画提案や改善提案を行う知識・能力の向上と、企業社会において専門的な知識・能力を実践できるようになることを目標とします。 生活者の日常行動が環境問題に大きな影響を及ぼしている今日においては、利用する側の目線や気持ちで製品や技術の特性を考えることが重要となっています。例えば化学物質は身の回りの製品や技術に広く使われ、私たちが生活する上で欠かせないものですが、一方で安全性に関する社会問題が生じていることも事実です。安全で安心できる社会生活の実現のためには、化学物質のリスクを適切に管理、削減するとともに、生活者の理解を進める必要がありますが、ではどのような製品・技術を選択すべきなのでしょうか？またその際にはどのようなことを考える必要があるのでしょうか？本科目はこれらの問いに少しでも答えることを目的とした講義を進めていきたいと考えています。 具体的には、化学物質の環境リスクについて講義をし、環境対策への理解と活用方法の能力を養います。さらにリスクトレードオフやリスク評価といった考え方を学び、リスク管理をおこなうためのより適切な情報の入手方法、評価方法の習得を目指します。
授業計画	【使用するテキスト】 真名垣 聡【編】「テキスト 環境化学物質論」(武蔵野大学大学院通信教育部、2022 年) ＊ レポート作成のための教材資料であり、市販していません。 【学習の進め方】 スタディガイドを参考にテキストを勉強することで、その内容を理解するようにしてください。さらにテキストに記載された専門用語や文章について発展的に文献資料を探索し、読み進めることで体系的な知識の習得が可能となります。 レポートの提出は「レポートの出題範囲と課題」を熟読し、作成して頂きます。 この科目は大学院における開講授業となるため、学部レベルの化学に関する基礎的な知識を前提としております。基礎知識に関しては必要に応じて独自に進めていただければと思います。一方で基礎知識を習得できれば、時々刻々と変化する化学物質管理の現状を体系的に理解し、さらに今後の課題や進展についても論じることができるようになると考えます。これらの知識の一部は公害防止管理者や危険物取扱者等の資格試験にも適用できると考えます。 【学習方法】

	本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出し、チェックを受けた上で必要に応じて加筆・修正し再提出します。全てに合格し、単位認定申請レポートを提出することで 2 単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">環境材料工学</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">髙橋 和枝</td></tr>
<tr><td>授業方法</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>学習方法</td><td colspan="2">レポート</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="2">本科目は、持続可能な社会の実現をめざし、様々な材料について学んでいきます。材料を適切に使うためには、材料の基本的な特性を理解するとともに、材料と人、自然、社会との関わりについても理解することが必要です。金属、高分子、無機の各材料工学について、環境、社会、経済といった多角的な視点から学習します。
本授業の主な到達目標は以下です。
・様々な材料について性能と機能について学び、限りある資源を有効利用するために必要な基礎知識を習得する。
・各種材料の劣化機構および新規材料の開発状況について理解すること
・持続可能な社会を実現するために必要な材料技術について理解を深めること

最終的な目標は、持続可能な社会を支える材料に求められる課題を理解し、課題解決型の材料技術について、提案できるようになることです。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="2">スタディガイドを参考にしながらテキストを読み込み、その内容を精確に理解するようにしてください。また、自分が興味ある材料の事例を選択し、調査研究を行います。技術革新には目覚ましいものがあります。常に新たな材料開発の動向を把握することも大切です。論文や新聞等の情報も活用して把握するように心がけて下さい。
環境材料に関するレポートを作成することを意識しながら、重要なことはノートにまとめるなどして内容を整理し、自分なりの問題意識を持って調査を行うように努めてください。
その上で、以下の「レポートの出題範囲と課題」を熟読し、レポートを作成していただきます。学習の進め方の詳細については、以下の「テキスト解説」を参照して下さい。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">成績評価の方法</td><td>a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」</td><td></td></tr>
<tr><td>b その他</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">レポートの最終成績は、課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実践的教育を行う授業科目の種別</td><td>a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td>○</td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td>日本電信電話株式会社において研究開発に従事（1988 年～2016 年）その間に国内外での学会活動、論文を投稿し、掲載された。
資格： 中学・高等学校教諭一級普通免許（理科）、
危険物取扱者（甲種）</td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td>環境材料に関する研究を行い、学会発表の他、論文を投稿し掲載された。</td></tr>
</table>

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境デザイン論(院)
担当教員	林田　和人
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	環境(空間「住宅、学校、公園、駅、街、都市など」やモノ)をデザインする場合、デザイナーの思い込みが先行し、使う側の人間に対する配慮が欠けていることがあります。それにより、使い辛い、また不安で危険な環境が作られることがあります。このようなことを回避するためには、人間の行動や心理の特性を把握し、それを十分に考慮して環境をデザインすることの重要性を知る必要があります。 そこで、人と人、人とモノ、人と空間との場面における、人間の行動や心理の特性を伝え、皆さんが素敵な未来を描いてくれるための手助けをします。 そして、知識をインプットするだけではなく、授業の内容、自分で観察したこと、自分の経験などを駆使し、新しい、自分にしかできないオリジナリティのある環境(空間やモノ)を発想します。 人間の行動特性を生かした、自分にしかできないオリジナリティのある環境(空間やモノ)を発想することを到達目標とします。 また、立案したアイデアを人に理解してもらい、感動してもらうためには、わかりやすく説明することが必要です。文章ではなく、ダイアグラム(図)でわかりやすく表現するプレゼンテーションを作成することを到達目標とします。 皆さんが能動的、積極的に授業に関わっていただけるよう、アクティブラーニングのスタイルで授業を進めます。
授業計画	【学習の進め方】 授業の基本的な流れは、以下のとおりです。 人間の特性についての講義 ↓ 画像や映像を見ながら、その人間の特性について自分なりに事例を探す ↓ 自分なりに見つけた事例を写真や映像で撮影し、実験、調査のプレゼンテーションを作る ↓ 人間の特性を考えながら、新しい環境(空間やモノ)を発想する よって、特に予習や復習は必要なく、授業で伝えたことや、ご自身の経験などを駆使し、環境(空間やモノ)についての、新しい、オリジナリティあふれるアイデアを発想してください。 そして、ダイアグラム(図)を使ったプレゼンテーションを作り、わかりやすくプレゼンしてください。 なお発想するアイデアは、電気仕掛けなどを使わない空間やモノに限定します。その理由は、電気や情報システムを使用するアイデアを考えると、何でもできてしまい、面白い画期的なアイデアが発想できないためです。 【学習方法】

・実験や調査内容についてのプレゼンテーション：実験や調査の視点、考察など、またプレゼンテーションのわかりやすさから評価します。
・環境（空間やモノ）の発想についてのプレゼンテーション：発想のオリジナリティ性や、アイデアの斬新性から評価します。

【スクーリングの学習範囲・学習内容】
〇人体寸法との関わりからデザインする
キーワード：仮説、実験、計測、定量的
第 01 講
【テーマ】講義「人体寸法とモノとの関係」
【内容】スイッチやドアの高さと人体寸法との関係などを通して、人体寸法とモノのデザインとの関係をお話します。

第 02 講
【テーマ】講義「関係を測ることを知る」
【内容】2 つの事象の関係の強さを示す相関係数と、2 つの事象の関係を表す回帰分析についてお話します。また、複数の変数を用いる重回帰分析についても解説します。
表計算ソフトの Excel を使って説明しますが、説明のために使うだけですので、受講前に Excel を学習しておく必要はありません。

第 03 講
【テーマ】グループワーク「仮説を立てて実験を行い計測する」
【内容】「人体寸法とモノとの関係」を内容とした、寸法を測る簡単な実験を行い、取得した数値データをもとにして、定量的に物事を捉えることを体験します。
「人体寸法とモノとの関係」についての仮説をたて、グループで具体的な実験内容を検討し、私と議論して決めていきます。
ウェブサイトのサービスを使い、計測データを入力し、相関係数を計算し、回帰分析を実行してみましょう。

第 04 講
【テーマ】グループワーク「人体寸法との関係からモノのアイデアを発想する」
【内容】過去に先輩たちが行った実験やアイデアの事例を紹介します。それを参考にしながら、私も加わりグループで、「人体寸法とモノとの関係」の実験結果をもとにして「新しいモノ」のアイデアを発想し、それをクラスの皆さんに伝えるためのプレゼンテーションを作成します。そして、クラスで発表し、時間が許す限り議論しましょう。

〇身の回りの観察からデザインする
キーワード：仮説、観察、アフォーダンス、パーソナルスペース
第 05 講
【テーマ】講義「モノと人-アフォーダンス」、講義「人と人-パーソナルスペース」
【内容】行動を観察することの重要性を、アフォーダンスやパーソナルスペースの視点からお伝えします。

まず、モノが人間に対して情報をアフォードしているアフォーダンスの実例を画像で示しながら解説し、通常の機能とは異なる情報をアフォードしている例を伝えます。
次に、留まっていても動いていても、人と人とは距離を空けているなどのパーソナルスペースの実例を画像で示しながら紹介します。
そして後半では、各自の生活の中でアフォーダンスだと思う実例をあげ、また各自が思いつくパーソナルスペースの実例をあげ発表します。

第 06 講
【テーマ】グループワーク「アフォーダンスやパーソナルスペースに関する事例紹介」
【内容】アフォーダンスやパーソナルスペースに関する仮説を立て、校内、自宅、街で見つかる行為について観察し、具体的な事例を報告しましょう。

第 07 講
【テーマ】個人ワーク「アフォーダンスやパーソナルスペースから空間やモノを発想する」
【内容】生活の中で発見したアフォーダンスの実例、またパーソナルスペースの実例を通して、空間やモノのアイデアを発想し、プレゼンテーションを作成します。そして、発表し、議論しましょう。アイデアは、個人で発想してもらいます。

〇俯瞰での観察からデザインする
キーワード：仮説、観察、群集流動、滞留
第 08 講
【テーマ】講義「群集流動と滞留の特性」、講義「空間と人−歩行特性と行動のモデル」
【内容】不特定多数の、群集と滞留に見られる行動特性について、また行動の調査方法や分析方法についてお話します。そして行動に関する研究を、映像を交えながら紹介し、空間における人間行動を、空間や時間と対応づけることで行動をモデル化する手法を伝えます。

第 09 講
【テーマ】グループワーク「仮説を立て、映像の群集を観察して行動特性を発見する」
【内容】「どのような行動特性がありそうか」という仮説を立て、私が用意する膨大な映像を見ながら、グループや私と話し合いながら行動特性を発見しましょう。天候によっては、校外に出て観察するかもしれません。

第 10 講
【テーマ】グループワーク「行動特性の発見」
【内容】引き続き、行動特性を発見しましょう。過去に先輩たちが発見した行動特性や、そこから発想したアイデアの事例を紹介します。
そして、発見した行動特性をクラスの皆さんに紹介するためにプレゼンテーションを作成し発表し、みんなが見つけた行動特性をクラスで共有します。

第 11 講
【テーマ】個人ワーク「行動特性からアイデアを発想する」

	【内容】共有した行動特性から発想できる空間やモノのアイデアを発想し、それをクラスに伝えるためにプレゼンテーションを作成し発表しましょう。アイデアは、個人で発想してもらいます。 〇問題を発見しそれを解決するアイデアを考える キーワード：仮説、問題、発見、未来 第 12 講 【テーマ】講義「未来の技術、行動シミュレーション、私の研究紹介」 【内容】アイデアはデジタルや電気仕掛けはダメと伝えていますが、せっかくですので、今後生活に必要となってくる技術である、拡張現実（AR）、センサ技術などの事例を紹介します。コンピュータ上に人間の行動を再現し、人間の行動をシミュレーションし、空間を変更していく手順を伝え、これまでやってきた私の研究を紹介します。 第 13 講 【テーマ】個人ワーク「自分が思う、解決したい世の中の問題を考える」 【内容】各個人が気になっていたり、抱えていたりする問題、社会問題でも構わないので、その問題を具体的に発見します。そして、それを解決できるアイデアを考えます。この課題は個人で、私と議論しながら進めましょう。 第 14 講 【テーマ】個人ワーク「自分が思う、解決したい世の中の問題を解決するアイデアを発想する」 【内容】発見した問題に関する写真、映像などを駆使し、その問題点について説明し、それを解決するアイデアを伝えるプレゼンテーションを作成し、発表し、議論しましょう。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	〇
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	環境配慮設計・プロセス論	
担当教員	鶴田 祥一郎	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	サステナブルな社会の実現に不可欠な「ものづくりと消費・サービスに関わる環境負荷の低減」を実現するために必要な環境配慮設計（エコデザイン）の考え方を理解することを目標とします。	
授業計画	環境経営手法の一つである環境配慮設計（エコデザイン）の考え方を理解した上で SDGs への対応を含む戦略的な環境経営への活用について理解します。 まず、環境配慮設計（エコデザイン）に必要な各種手法について理解した上で、国内外における環境配慮設計（エコデザイン）の活用事例について調査します。プロセス計算や LCA を活用し環境配慮設計の効果を定量的に理解します。最後に地球環境問題解決のために有効と思われる「環境配慮設計の在り方」について検討します。 指定するテキスト【書籍名：エコデザイン,浅井他,2010】を読み、その内容をできるだけ精確に理解するとともに、その課題や対策の本質をつかむことを心がけてください。そのため、テキストに書かれた情報以外に、自ら情報を収集し、より最新の知識を得るようにしてください。 本科目は、レポート科目です。2つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	レポートについて、課題1（33%）、課題2（33%）、単位認定申請レポート（34%）の3回のレポート提出で評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	地域活性化デザイン論
担当教員	橘 たか
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	【知識・専門性の到達目標】 多様化する社会での地域課題の解決に必須となる「協働のまちづくり」を学ぶ。 【関心・態度・人格の到達目標】 一般的に個人としてかかわる地域社会は家庭、企業、団体などに限定されるが、実際は住民、NPO、企業、団体、行政など多様な主体が関わって地域社会が成立していることを理解して、地域社会に対して能動的に行動する人間を育成する。 【思考・判断の到達目標】 地域課題に一つの正解があるわけではなく、地域性の違いや担い手の思考により多様な解決策が存在する。そのため、自ら地域社会を理解し、創造的なアイデアを考え、関係者を巻き込む実践的な手法を習得する。 【実践的スキル・表現の到達目標】 意見が異なる多様な関係者を巻き込み、合意形成を進めるための手法として、ワークショップ等手法を習得する。また、自らまちとテーマを選定して、レポートを作成して、国や地方自治体に提案できる水準まで検討する。
授業計画	【授業概要】 集中講義（100分の講義を3時限、2日／2時限、1日）と校外学習として現地調査実習（100分の3時限、2日）を実施する。レポートは、授業を通じで各自の「地域課題に関する取り組みプログラム」を作成して、発表評価する。 【授業内容】 ○第1日目 5月13日（土）（教室における講義） 第1回 基礎① 地域活性化デザイン 第2回 基礎② 多様な主体が参加した地域活性化デザイン 第3回 基礎③ 現状把握と多様な主体の巻き込み ○第2日目 5月14日（日）（教室における講義） 第4回 手法① 課題設定と合意形成 第5回 手法② 実行・評価と改善／地域特性や主体の違いによる留意点 第6回 手法③ 「地域課題に関する取り組みプログラム」の構成要素と作り方 ○第3日目 6月10日（土）（現地調査実習）

	第7回 実習① 準備・活動計画 第8回 実習② 各種データや計画の収集 第9回 実習③ 関係者のヒアリング調査 ○第4日目 6月11日(日)(現地調査実習) 第10回 実習④ 地域資源調査 第11回 実習⑤ 地域情報の整理 第12回 実習⑥ 調査の取りまとめ ○第5日目 7月22日(土)(教室における実習と発表、講義) 第13回 成果発表① 取り組みプログラムの作成。 第14回 成果発表② 成果の発表と質疑	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	中間、期末の 2 回に分けてまちづくりレポートを作成する(50%) 毎回の授業で簡単な理解度テストを実施する(50%)	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	自治体の都市計画部署、政策企画部署等にて住民参加の計画づくり、自治会や NPO の支援に携わる。 2010 年、市民参加専門のまちづくり会社の「合同会社橘」を設立。市民参加の計画づくりやワークショップ企画、住民参加型の商店街活性化計画の推進などを手がけるほか、町内会や市民活動に関する講演やアドバイスなどを行う。
	授業内容との関連性	自治体職員・コンサルタントとして関わった事例をケース教材として取り上げて学習する。
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	資源循環・リサイクル論
担当教員	磯部 孝行
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	【科目概要・到達目標】 人間以外の生態系は共生並びに食物連鎖で資源循環に成立しており、廃棄物やリサイクルの概念はない。人類にとって必要な資源とは何か、資源を用い持続可能な社会を維持するためにどのような社会システムが必要かについて、自分なりの考えを持つことを目的とする。 第 1 ステップとして、資源とは何かについて考える。資源は固定的なものでなく、常に変化しているので、宇宙誕生から現在までの歴史を振り返ることから始める。生物の活動が地球環境の変化に大きく影響を及ぼし、地球環境変化が生物の進化に影響を及ぼしている。生物は地球の環境に対して常に受け身の立場ではなく、相互に影響を及ぼし合っている。 第 2 ステップとして、現在の天然資源の状況を事例で紹介した。 第 3 ステップとして、日本における資源循環、リサイクル、廃棄物の状況を環境白書などでのデータで示すとともに、循環型社会形成に向けた法体系とリサイクルの個別法の概要を示した。廃棄物の適正処理、リサイクル推進を規定している廃棄物処理法の概要を説明した。 第 4 ステップとして、生物界での共生と循環の事例を示した。生物の活動、変化は非常にダイナミックに行われ、何回もの大絶滅を乗り越え、多様化している。 第 5 ステップとして、現在の人類の活動が自然界、生物界へ影響を及ぼしている事例で示した。 最後のステップとして、人類の持続可能な社会形成に向けての提言である「成長の限界」の示す点、過去の崩壊した文明や国家の事例を紹介した。 人類が多量の資源を消費し、多量の排出物を自然環境に出している問題に加え、新たな脅威を起こす可能性の生産活動（遺伝子操作による生物の誕生、意思を持った人工知能体の誕生）を開始していることを提言した。
授業計画	本講義では、資源循環・リサイクルに関連する専門知識習得を目指し、レポートは1つの課題に対して 1 回の提出を求めます。単位認定申請レ ポート課題は全体の学習で得られた知見を示すレポートを提出して下さい。 第1課題（出題範囲：資料集第 1 章・第 2 章） 1回目のレポート（WBTの No.1 区分「レポート」に提出） （レポートには調べた結果を求めるだけでなく必ず自分の考えを盛り込んで下さい。） 1)人類にとって必要な資源について、現在生じている課題を全体的な観点でまとめて下 さい。 2)人類にとって必要な資源について、現在生じている課題の具体的な事例 2 件を取り上 げ、問題点を示して下さい。 ＊字数：2,000 字程度を目安としますが特に制限は設けません。なお、図表を用いてまと めた場合は、字数は前後してもかまいません。

	第2課題(出題範囲:資料集第 2 章・第 3 章) 2 回目のレポート(WBTの No.2 区分「レポート」に提出) (レポートには調べた結果を求めるだけでなく必ず自分の考えを盛り込んで下さい。) 1)資源循環・リサイクルを阻んでいる要因をまとめて下さい。 2)資源循環/リサイクルを推進するための必要な社会体制を全体的な観点でまとめて下さい。 3) 資源循環/リサイクルを推進するための必要な具体的な事例 2 件を取り上げ、施策と効果をまとめて下さい。 ＊字数:2,000 字程度を目安としますが特に制限は設けません。なお、図表を用いてまとめた場合は、字数は前後してもかまいません。 単位認定申請レポート課題(出題範囲:資料集第 1 章・第 2 章・第 3 章) (WBTの No.3 区分「単位認定試験」に提出) (レポートには調べた結果を求めるだけでなく必ず自分の考えを盛り込んで下さい。) 1)人類が現状のままの活動を続けていった場合の将来像を、成長の限界、エコロジカル・フットプリント、文明・国家の崩壊、新たなる脅威の事例より推定し、まとめて下さい。 2) 将来にわたり持続可能な社会とするため、資源循環・リサイクルに科せられた課題への対応策と期待される効果をまとめて下さい。 ＊字数:2,000 字程度を目安としますが特に制限は設けません。なお、図表を用いてまとめた場合、字数は前後してもかまいません。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	特定課題研究演習（環境＿環境）
担当教員	明石 修・伊尾木 慶子・磯部 孝行・白井 信雄・白鳥 和彦・髙橋 和枝・真名垣 聡・村松 陸雄
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	4
到達目標	「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。 一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の環境学研究科環境マネジメント専攻では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。 「環境学研究科環境マネジメント専攻」という研究科名と専攻名が示しているように、研究対象は 環境マネジメントです。具体的には、企業・自治体等の事業所レベルにおける環境改善・低炭素化の ための諸課題、あるいは地域社会における環境改善・低炭素化のための諸課題などについて、環境マネジメントの手法や地域特有の地理的・人的・社会的条件の事例調査やフィールド調査によって、持続可能性の観点からの解決策をまとめるものとします。また特定課題研究の成果は、論文形式又は研究対象とした事業所や自治体への提案やフィードバックを想定した形式でまとめるものとします。 研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。どんなに独創的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。 以上の観点から、特定課題研究論文では、論文の新規性には必ずしもこだわらず、まずは確実な研究方法を求めます。「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。
授業計画	・2023 年度に「特定課題研究演習」を履修するに は、以下の条件があります。 ①指定 された期日までに、「第1次研究計画書」を提出していること。 ②指定 された期日までに、「環境アジェンダ研究」または「持続可能な発展研究 1」及び「環境経営論」の単位を取得していること。 ③2 年次開講科目の「地域環境マネジメント科目群」、「環境経営科目群」及び「エコプロダクツ科目群」から特定課題研究の内容と関係する科目の履修をすること。 ・特定課題研究論文の文字数は、図表等を含めて、A4 文書形式で 30 ページ（400 字詰め原稿用紙 90 枚）程度です。 ・特定課題研究論文では、論文の新規性には必ずしもこだわらず、まずは確実な研究方法を求めます。 ・特定課題研究演習の研究テーマについては、以下の 4 つのうち、いずれかを選択します。 ［テーマ 1］ 持続可能な社会の条件に関する考察

	［テーマ 2］ 都市環境・地域環境における環境負荷低減のための地域社会特性や自然環境特性に応じたハード及びソフト対策について ［テーマ 3］ 事業所における環境マネジメントシステムの構想、構築、戦略システムとしての利用、新たな環境マネジメント手法等開発について ［テーマ 4］ 企業の製造部門等における環境負荷の定量化・軽減策及びエコプロダクツ、そこから派生するビジネスモデルの創出について 特定課題研究のテーマ 1 は、2 年次の各科目群もふまえた 1 年次の共通科目群、テーマ 2 は地域環境マネジメント科目群、テーマ 3 は環境経営科目群、テーマ 4 はエコプロダクツ科目群からの学びを発展させることを意図したものです。 選択した指定テーマの範囲内で自らの研究テーマを設定します。 ・研究方法は、広い意味での調査研究になります。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	提出された清書論文および 口述試問 も加味した点数で評価します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教と共生原理(S)	
担当教員	新作 慶明	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	本科目では、仏教と「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。 今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。	
授業計画	1. 共生とは何か 2. 個人と世界 3. 自己の探究 4. 空とことば 5. 煩悩と行為 6. 仏教の深層心理 7. 環境・自然	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	仏教と共生原理(R)	
担当教員	新作 慶明	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	本科目では、仏教と「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。 今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。	
授業計画	①テキストⅠの「共生思想の歩みと課題」「自然と他者と―禅の立場から」、＜参考論文＞を読む ②テキストⅡの「仏教に基づく生活指針―新大乗戒の提唱」、および＜参考書＞の中から関心のある論文を読む ③ テキストの他の箇所や関心のある参考文献を読む ④ 学習した内容にもとづいて、自分自身の共生観をまとめる	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会福祉理論研究(S)
担当教員	野口 友紀子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	社会福祉とは何かを考える授業です。日々の仕事では、目の前の課題解決のために頭を使いますが、この授業では、日々の仕事にはすぐに使うことができない理論的な内容を扱います。ただし、それは役に立たないという意味ではありません。社会福祉の領域で必要な実践力、指導・管理能力の土台となる理論的基盤を身につけることにつながるのです。 社会福祉理論は、第二次世界大戦前に発表された大河内一男の論考に始まり、戦後の研究者たちが本質論争などを経て理論構築を目指し現在に至ります。80 年以上の時間が経ちましたが、未だに何が代表的な理論であるのかは研究者によってさまざまな意見があります。そのような経過を踏まえて、現代ではどのような視点で社会福祉が描かれているでしょうか。この授業では、最近の社会福祉原理の代表的なものを扱います。 この授業の目標は、最近の社会福祉原理に関する文献を読み込み、内容に対する理解を深め、批判的検討を通して、社会福祉とは何かという問いに自分なりの答えを見つけ出すことです。そして、自分なりに社会福祉を体系的に説明できるようになることです。 この科目では、2021 年度以前に履修登録した学生、2022 年度の履修登録者、2023 年度新規履修登録者はそれぞれ使用するテキストが異なっています。ご注意ください。
授業計画	【使用するテキスト(2023 年度の新規履修登録学生)】 岩崎晋也(2018)『福祉原理』有斐閣 【学習の進め方(2023 年度の新規履修登録学生)】 このテキストは 4 章で構成されています。 はじめに 第 1 章　古代都市国家の「福祉」とキリスト教による転換 第 2 章　現代社会の「福祉」と「新しい社会福祉」による転換 終章　福祉の原理とは何か まずは「はじめに」をよく読み、全体を把握しましょう。第 1 章からはメモをとって読んでください。分からない用語は各自で調べてください。著者が現代社会における福祉の正当化についてどのように論理を組み立てているのかを考えてください。スクーリングの場合は、報告担当者が報告をした内容についてディスカッションを行い、教員からの解説があります。 【使用するテキスト(2022 年度に履修登録した学生)】 岩田正美監修・岩崎晋也編集(2011)『社会福祉とはなにか―理論と展開』日本図書センター 【学習の進め方(2022 年度履修登録した学生)】 戦後から現代までの社会福祉学の理論を中心とした論文集。社会福祉の研究をする上での最重要論文が掲載されています。解説を読み、戦後から現代に至る社会福祉理論の潮流をつかみます。社会福祉理論を読み、報告して、ディスカッションをして理解を深めます。

	第1部　社会政策と社会福祉の関係性（我国に於ける社会事業の現在及び将来；社会事業の理論的位置　ほか） 第2部　社会福祉学は成り立つのか（社会福祉学とは何か；社会福祉学の失われた半世紀　ほか） 第3部　社会福祉の政策と技術の統合（社会福祉固有の視点と方法；社会福祉における構造＝機能論的理解　ほか） 第4部　社会福祉理論の課題（「日本社会福祉理論史」について；社会福祉における“原理論”の展開と課題　ほか） 第5部　社会福祉とはなにか（社会福祉の争点；「社会福祉とは何か」の今日的意義　ほか） なお、2021 年度以前の学生はスタディガイドを参照してください。		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」		
	b その他		○
	授業に参加し、報告して報告レジュメを提出する（ 50%）こと。ディスカッションをする（50％）こと。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会福祉理論研究(R)
担当教員	野口 友紀子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	社会福祉とは何かを考える授業です。日々の仕事では、目の前の課題解決のために頭を使いますが、この授業では、日々の仕事にはすぐに使うことができない理論的な内容を扱います。ただし、それは役に立たないという意味ではありません。社会福祉の領域で必要な実践力、指導・管理能力の土台となる理論的基盤を身につけることにつながるのです。 社会福祉理論は、第二次世界大戦前に発表された大河内一男の論考に始まり、戦後の研究者たちが本質論争などを経て理論構築を目指し現在に至ります。80 年以上の時間が経ちましたが、未だに何が代表的な理論であるのかは研究者によってさまざまな意見があります。そのような経過を踏まえて、現代ではどのような視点で社会福祉が描かれているでしょうか。この授業では、最近の社会福祉原理の代表的なものを扱います。 この授業の目標は、最近の社会福祉原理に関する文献を読み込み、内容に対する理解を深め、批判的検討を通して、社会福祉とは何かという問いに自分なりの答えを見つけ出すことです。そして、自分なりに社会福祉を体系的に説明できるようになることです。 この科目では、2021 年度以前に履修登録した学生、2022 年度履修登録者、2023 年度新規履修登録者はそれぞれは使用するテキストが異なっています。ご注意ください。
授業計画	2023 年度新規登録者の授業計画(それ以外はスタディガイド参照のこと) 【使用するテキスト(2023 年度の新規履修登録学生)】 岩崎晋也(2018)『福祉原理』有斐閣 【学習の進め方(2023 年度の新規履修登録学生)】 このテキストは 4 章で構成されています。 はじめに 第 1 章 古代都市国家の「福祉」とキリスト教による転換 第 2 章 近代市民社会の「福祉」と社会連帯論による転換 第3章 現代社会の「福祉」と「新しい社会福祉」による転換 終章 福祉の原理とは何か まずは「はじめに」をよく読み、全体を把握しましょう。第 1 章からはメモをとって読んでください。分からない用語は各自で調べてください。著者が現代社会における福祉の正当化についてどのように論理を組み立てているのかを考えてください。 【使用するテキスト(2022 年度・2023 年度に新規履修登録した学生)】 岩田正美監修・岩崎晋也編集(2011)『社会福祉とはなにか―理論と展開』日本図書センター

	【学習の進め方(2022 年度・2023 年度に新規履修登録した学生)】 戦後から現代までの社会福祉学の理論を中心とした論文集。社会福祉の研究をする上での最重要論文が掲載されています。解説を読み、戦後から現代に至る社会福祉理論の潮流をつかみます。そして、社会福祉理論を読み、理解を深めます。 第1部 社会政策と社会福祉の関係性(我国に於ける社会事業の現在及び将来;社会事業の理論的位置 ほか) 第2部 社会福祉学は成り立つのか(社会福祉学とは何か;社会福祉学の失われた半世紀 ほか) 第3部 社会福祉の政策と技術の統合(社会福祉固有の視点と方法;社会福祉における構造=機能論的理解 ほか) 第4部 社会福祉理論の課題(「日本社会福祉理論史」について;社会福祉における“原理論”の展開と課題 ほか) 第5部 社会福祉とはなにか(社会福祉の争点;「社会福祉とは何か」の今日的意義 ほか)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	課題1レポート、単位認定申請レポートにより評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルワーク理論研究(S)	
担当教員	木下 大生	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	ソーシャルワークにおける価値、実践における倫理と倫理的ジレンマ、ソーシャルワークの技法、ソーシャルワーク理論の歴史的な背景を理解しながら、特にポストモダン以降の理論について学びを深め、自らの実践と理論の関連性について検討します。ソーシャルワーク理論を各自の実践において検証し、自らの実践の深化を図ることを目的とします。ディプロマポリシーにある、「1.困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等」および「3.社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等」の向上を目指して学びを深めます。	
授業計画	1. オリエンテーション 2. 心理社会的アプローチ 3. 機能的アプローチ 4. 問題解決アプローチ 5. 家族療法とソーシャルワーク 6. 行動療法とソーシャルワーク 7. 課題中心ソーシャルワーク 8. 生態学的(エコロジカル)アプローチ 9. ジェネラリスト・アプローチ 10. ケアマネジメント・ソーシャルサポートネットワーク 11. エンパワーメント・アプローチ 12. 構成主義・ナラティブ 13. ソーシャルワークの価値と倫理及び倫理的ジレンマ 14. まとめとふりかえり	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	50

	b その他		50
	各受講生に様々あるソーシャルワーク理論の1つを要約し、報告をしてもらう。その報告内容を評価、および、単位認定レポートにて評価する。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	実務経験:医療ソーシャルワーカー、知的障害者就労支援、被疑者・被告人段階もしくは罪を犯した知的障害者の支援、性産業に従事する人の支援 資格:社会福祉士	
	授業内容との関連性	実務は、ソーシャルワーク理論に基づき行っている	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルワーク理論研究(R)
担当教員	木下 大生
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	ソーシャルワークにおける価値、実践における倫理と倫理的ジレンマ、ソーシャルワークの技法、ソーシャルワーク理論の歴史的な背景を理解しながら、特にポストモダン以降の理論について学びを深め、自らの実践と理論の関連性について検討します。ソーシャルワーク理論を各自の実践において検証し、自らの実践の深化を図ることを目的とします。ディプロマポリシーにある、「1.困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等」および「3.社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等」の向上を目指して学びを深めます。
授業計画	【学習の進め方】 テキストにはソーシャルワークの価値、知識、方法に関する基本的な内容が記述されています。テキストに記述されている内容は、自らの実践に引き寄せて考えるとどのようなことなのか意識しながら、学習を進めて下さい。 【学習方法】 本科目には、①レポート、②スクーリングの2つの学習方法があり、選択することができます。 ① レポートを選択した場合、2つのレポート(1 つの課題に対してそれぞれ2つのレポート)を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 ② スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。 【使用するテキスト】 久保紘章、副田あけみ編著(2005)『ソーシャルワークの実践モデル―心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 【レポートの出題範囲と課題】 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して 2 回の提出を求めます。1 回目は課題についてのレポートであり、2 回目は 1 回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1 回目のレポート課題は全学生に共通ですが、2 回目の課題は学生によって異なることがあります。 【学習方法①レポートを選択した場合】 第1課題 1 回目のレポート

	テキストの第 1 部(第 1 章から第 6 章まで)を読み、①ソーシャルワーク理論の変遷の歴史をまとめ、②新たな理論が生まれる背景について考察しその理由について論じてください。 2 回目のレポート 第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。) ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題 ソーシャルワークの価値・知識・方法について、テキストの全章を概観するとともに、統合実践モデルとは何かを説明し、またソーシャルワーク理論の今後の課題、及びその解決方法について論じてください。 ＊字数:3,600 字程度(3,200 字から 3,800 字まで)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会福祉制度政策研究(S)
担当教員	山本 雅章
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	日本社会福祉政策の今日的課題に対して、実践課題を踏まえつつ問題点を分析して解決策を提言する論文を作成すること。
授業計画	1 回 オリエンテーション 政策課題に対する講義と履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 2 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 3 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 4 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 5 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 6 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 7 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 8 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 9 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 10 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 11 回 政策課題に対する履修者の報告・討議

	講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 12 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 13 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 14 回 政策課題に対する履修者の報告・討議 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。 15 回 政策課題に対する履修者の報告・討議・まとめ 講義形式の授業は行わず、論文指導の形をとっている。受講者は社会福祉に関する幅広い分野から小論文のテーマを選ぶことができる。当該小論文は修士論文の一部を構成するものと位置づけられる。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	課題レポート（不合格レポートも含む）の平均点（四捨五入）に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	調布市に勤務し、ケースワーカーや通所施設職員、福祉諸計画の策定担当、新規事業の構築などの業務を経験し、障害福祉課長、子ども生活部長、福祉健康部長として自治体福祉行財政部門の長として統括を行った。また、仕事の傍ら、大学院で障害福祉や福祉行財政の学びを深めた。 社会福祉士、博士（社会福祉学）。
	授業内容との関連性	政策課題に対する履修者の報告・討議をとおして，その報告及び報告，討議内容の関する妥当性等について，明らかにする。その際，先行研究や講師の研究実績，職務経験などを踏まえて，実践的な視点からコメントしたい。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	社会福祉制度政策研究(R)	
担当教員	山本 雅章	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	日本社会福祉政策の今日的課題に対して、実践課題を踏まえつつ問題点を分析して解決策を提言する論文を作成すること。	
授業計画	レポートは 1 つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートとなります 第1課題 1 回目のレポート(WBTの「レポート」No.1 区分に提出) テキスト第3章～第5章及び終章を読んで、社会福祉制度の中からテーマ(自由に決めてください)を1つ選んで、その改革案を論じなさい。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 2 回目のレポート(WBTの「レポート」No.2 区分に提出) 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題(WBTの「レポート(単位認定)」No.1 区分に提出) 現実に日本や世界で起きている福祉の問題(事件)について、論点を分析し、「社会連帯」の観点と関連づけて自分の考えを述べなさい。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	調布市に勤務し、ケースワーカーや通所施設職員、福祉諸計画の策定担当、新規事業の構築などの業務を経験し、障害福祉課長、子ども生活部長、福祉健康部長として自治体福祉行財政部門の長として統括を行った。また、仕事の傍ら、大学院で障害福祉や福祉行財政の学びを深めた。

		社会福祉士、博士(社会福祉学)。
	授業内容との関連性	政策課題に対する履修者の報告・討議をとおして，その報告及び報告，討議内容の関する妥当性等について，明らかにする。その際，先行研究や講師の研究実績，職務経験などを踏まえて，実践的な視点からコメントしたい。
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースワーク特論(S)(実践福祉学専攻)	
担当教員	大崎 広行	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援(ケースワーク)について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。 本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。	
授業計画	1. ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み (1)オリエンテーション、ソーシャルワークとは (2)ソーシャルワーク理論と実践―過去・現在・未来 (3)ソーシャルワークの科学という課題(実践の科学化) 2. ソーシャルワークの視座 (1)ソーシャルワークの価値と倫理 (2)ソーシャルワークにおける人権と社会正義、権威 3. ソーシャルワーク理論の活用と検証―理論と実践－ (1)問題解決アプローチ、エンパワメントアプローチ (2)ナラティブアプローチ、ストレングス視点アプローチ 4. ソーシャルワーク実践から理論へ (1)高齢領域におけるソーシャルワーク実践 (2)精神科領域におけるソーシャルワーク実践 5. ソーシャルワーク実践への実践モデルの適用 (1)人間理解のための方法論(理論モデル)と実践モデル・アプローチの概要 (2)ミクロレベルに焦点を当てた実践(事例 1:F さんの事例) (3)メゾレベルでの実践効果を出すアプローチ(事例 2:H家族の事例) (4)メゾレベルからマクロレベルに焦点を当てた支援の実際(事例 3:認知症の男性の事例) (5)まとめと補遺	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースワーク特論(R)(実践福祉学専攻)	
担当教員	大崎 広行	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援(ケースワーク)について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。 本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。	
授業計画	1. ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み (1)オリエンテーション、ソーシャルワークとは (2)ソーシャルワーク理論と実践―過去・現在・未来 (3)ソーシャルワークの科学という課題(実践の科学化) 2. ソーシャルワークの視座 (1)ソーシャルワークの価値と倫理 (2)ソーシャルワークにおける人権と社会正義、権威 3. ソーシャルワーク理論の活用と検証―理論と実践－ (1)問題解決アプローチ、エンパワメントアプローチ (2)ナラティブアプローチ、ストレングス視点アプローチ 4. ソーシャルワーク実践から理論へ (1)高齢領域におけるソーシャルワーク実践 (2)精神科領域におけるソーシャルワーク実践 5. ソーシャルワーク実践への実践モデルの適用 (1)人間理解のための方法論(理論モデル)と実践モデル・アプローチの概要 (2)ミクロレベルに焦点を当てた実践(事例 1:F さんの事例) (3)メゾレベルでの実践効果を出すアプローチ(事例 2:H家族の事例) (4)メゾレベルからマクロレベルに焦点を当てた支援の実際(事例 3:認知症の男性の事例) (5)まとめと補遺	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	グループワーク特論（S）	
担当教員	小俣 智子	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指す。 具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを到達目標とする。	
授業計画	第1週 グループワークの歴史と概要 第2週 グループワークのアプローチ・モデル理論 第3週 グループワークによる支援の展開（準備期） 第4週 グループワークによる支援の展開（開始期・オリエンテーション） 第5週 グループワークによる支援の展開（作業期）（終結期） 第6週 グループワークによる支援（セルフヘルプ・グループ） 第7週 グループワークの実践演習 振り返りとまとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	グループワーク特論(R)	
担当教員	小俣 智子	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指す。 具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを到達目標とする。	
授業計画	第1課題 1 回目のレポート グループワークの成立過程及び各理論を整理した上で、グループ発達におけるグループワーカーの役割について述べなさい。 2 回目のレポート 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 単位認定申請レポート課題 グループワーク実践事例を自ら想定し、グループの展開(準備期、開始期、作業期、終結期)を具体的に説明した上で、実践効果及びグループワーカーの役割について述べなさい。 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	コミュニティワーク特論(S)
担当教員	小田川 華子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	地域社会の変質に伴い、さまざまな生活上の課題や困難を抱えつつも、地域(在宅)で自立した生活を営むためには、安全で安心できる生活圏域の確保、再構築、地域づくりが重要課題となっています。ソーシャルワーカーには、今後ますます地域を基盤とした支援を促進するためのコミュニティへのアプローチの機能が求められます。 本科目は、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、多職種・多機関との協働・連携力、人材育成力を高めることや、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力を高めることと関連しています。より具体的には、メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶとともに、地域の福祉ニーズの把握方法、ソーシャルサポートネットワーク(地域における社会資源)の活用・調整・開発、地域のトータルケアシステムの構築と実際、住民活動・ボランティア活動を支援する方法等について検討し、学ぶことで、我が国の現状にあったコミュニティアプローチについて議論します。 コミュニティ・エンパワメント、組織化の意義、必要性を理解し、自身の実践においてその道筋を見出せるようになることを到達目標とします。
授業計画	【使用するテキスト】 下記文献を本科目では適宜活用していきます。※大学からは 1 のみ配布されます。 1. 平野隆之・穂坂光彦・朴兪美・韓国住民運動教育院(2018)『地域アクションのちから―コミュニティワークリフレクションブック』全国コミュニティライフサポートセンター. コミュニティ組織化の基本的な考え方、主体、準備、展開過程における様々な着眼点について書かれており、自身の実践の振り返り、省察に活用できます。 2. マシュー・ボルトン(2020)『社会はこうやって変える！―コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社。 ソーシャル・アクション型のコミュニティ・オーガナイジングの基本的な考え方とワーカーの心得、戦術などについてイギリスにおける実践事例から学ぶことができます。 3. 鎌田華乃子(2020)『コミュニティ・オーガナイジング―ほしい未来をみんなで創る 5 つのステップ』英治出版 コミュニティ・オーガナイジングの実践に不可欠なスキルが分かりやすく記述されています。 【学習の進め方】 上記文献およびその他の文献を用いて、コミュニティワークすなわちメゾ・マクロレベル(特にコミュニティ)でのソーシャルワークとは何か、またその方法に関する概念・実践理論を学びます。「コミュニティ・オーガナイジング」や「ソーシャル・アクションとアドボカシー」、「地域住民のエンパワメント」などがキーワードとなります。 次に、自らの実践やフィールドワークに当てはめて、生活を困難にしている状況を改善するための仕組みづくりや地域のエンパワメントの実践、あるいは、新たな公的施策の創設に向けたアクションについて考察し、学習を進めてください。 スクーリングでは、コミュニティワークに関連する文献の輪読、ディスカッションをとおしてコミュニティワークの概念と方法の理解を深めるとともに、実践で活用するスキルの演習も行います。受講生が自身の問題意識に

	基づいて課題を選び、コミュニティ・住民をエンパワメントしながらどのようにコミュニティワークを展開すればよいか、プランニング演習や話し方のスキル演習を行います。希望者がいれば実践コーチングも行います。 【スクーリングの講義内容（講義内容は変更されることがあります。）】 ＜実践理論＞ ・コミュニティワーク（コミュニティ・オーガナイジング、以下 CO）の概念と歴史 ・CO を活用したソーシャル・ディベロップメント ・CO を活用したソーシャル・アクション ・コミュニティ組織化の主体：コミュニティリーダーとワーカー ・コミュニティ組織化の準備：住民との関係づくり・対話、コミュニティ理解 ・コミュニティ組織化の展開：リーダーシップ、トレーニング、組織の立ち上げ ・エンパワメントを意図した参加型アクションリサーチ ＜演習＞ ・それぞれの現場における CO 実践との関りと問題意識の共有 ・CO 戦略策定（プランニング）演習 ・パブリック・ナラティブ（スキル）演習 ・CO 実践コーチング ・貧困問題等への CO の活用 ・現代日本における CO 実践の有用性と課題	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	各回の課題をふまえた授業でのディスカッションおよび最後のレポートまたはプレゼンテーションにもとづき評価します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	コミュニティワーク特論(R)
担当教員	小田川 華子
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	地域社会の変質に伴い、さまざまな生活上の課題や困難を抱えつつも、地域(在宅)で自立した生活を営むためには、安全で安心できる生活圏域の確保、再構築、地域づくりが重要課題となっています。ソーシャルワーカーには、今後ますます地域を基盤とした支援を促進するためのコミュニティへのアプローチの機能が求められます。 本科目は、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、多職種・多機関との協働・連携力、人材育成力を高めることや、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力を高めることと関連しています。より具体的には、メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶとともに、地域の福祉ニーズの把握方法、ソーシャルサポートネットワーク(地域における社会資源)の活用・調整・開発、地域のトータルケアシステムの構築と実際、住民活動・ボランティア活動を支援する方法等について検討し、学ぶことで、我が国の現状にあったコミュニティアプローチについて議論します。 コミュニティ・エンパワメント、組織化の意義、必要性を理解し、自身の実践においてその道筋を見出せるようになることを到達目標とします。
授業計画	【使用するテキスト】 下記文献を本科目では適宜活用していきます。 1. 平野隆之・穂坂光彦・朴兪美・韓国住民運動教育院(2018)『地域アクションのちから―コミュニティワークリフレクションブック』全国コミュニティライフサポートセンター コミュニティ組織化の基本的な考え方、主体、準備、展開過程における様々な着眼点について書かれており、自身の実践の振り返り、省察に活用できます。 2. マシュー・ボルトン(2020)『社会はこうやって変える！―コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社 ソーシャル・アクション型のコミュニティ・オーガナイジングの基本的な考え方とワーカーの心得、戦術などについてイギリスにおける実践事例から学ぶことができます。 3. 鎌田華乃子(2020)『コミュニティ・オーガナイジング―ほしい未来をみんなで創る5つのステップ』英治出版 コミュニティ・オーガナイジングの実践に不可欠なスキルが分かりやすく記述されています。 【学習の進め方】 上記文献およびその他の文献を用いて、コミュニティワークすなわちメゾ・マクロレベル(特にコミュニティ)でのソーシャルワークとは何か、またその方法に関する概念・実践理論を学びます。「コミュニティ・オーガナイジング」や「ソーシャル・アクションとアドボカシー」、「地域住民のエンパワメント」などがキーワードとなります。 次に、自らの実践やフィールドワークに当てはめて、生活を困難にしている状況を改善するための仕組みづくりや地域のエンパワメントの実践、あるいは、新たな公的施策の創設に向けたアクションについて考察し、学習を進めてください。

	【レポートの出題範囲と課題】 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全受講生に共通ですが、2回目の課題は受講生によって異なることがあります。 課題のテーマ及び執筆方法についてはスタディガイドを確認してください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	スーパービジョン特論(S)	
担当教員	稗田 里香	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニ ング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的に実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自職場におけるソーシャルワーカーの新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにする ことです。	
授業計画	テキストはソーシャルワークにおけるスーパービジョンの入門書です。 専門職として仕事をするうえで、スーパービジョンは欠かすことのできないソーシャルワークの間接援助でもあります。スーパービジョンを独学で学ぶことは非常に困難な作業と思います。組織としての人材育成にとって、ご自身のソーシャルワーカーとしての専門的力量を高めるために、自分の中にある今までのソーシャルワーカーとしての体験や学びの中からスーパービジョンが身についているものがあることを発見し、確認することができます。そのようなことをノートに書き留めながら学習を進めてください。 テキストは、実践編と理論編に分かれていますが、先に理論編を学習してください。また、テキストのすべての章を取り上げるわけではありませんが、取り上げなかった章も読みこなして学びを深めてください。 スクーリングを選択した場合、スーパービジョンの実際を学ぶことができるよう演習形式で行いますので対面のみで実施します。スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
	スクーリングを選択した場合、スーパービジョンの実際を学ぶことができるよう演習形式で行いますので対面のみで実施します。スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	スーパービジョン特論(R)	
担当教員	稗田 里香	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的に実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自職場におけるソーシャルワーカーの新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにする ことです。	
授業計画	テキストはソーシャルワークにおけるスーパービジョンの入門書です。 専門職として仕事をするうえで、スーパービジョンは欠かすことのできないソーシャルワークの間接援助でもあります。スーパービジョンを独学で学ぶことは非常に困難な作業と思います。組織としての人材育成にとって、ご自身のソーシャルワーカーとしての専門的力量を高めるために、自分の中にある今までのソーシャルワーカーとしての体験や学びの中からスーパービジョンが身についているものがあることを発見し、確認することができます。そのようなことをノートに書き留めながら学習を進めてください。 テキストは、実践編と理論編に分かれていますが、先に理論編を学習してください。 また、テキストのすべての章を取り上げるわけではありませんが、取り上げなかった章も読みこなして学びを深めてください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースマネジメント特論(S)	
担当教員	下垣 光	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。	
授業計画	第 1 回 ケースマネジメントの概念及び必要とされる背景 第 2 回 ケースマネジメントのプロセス 第 3 回 ケースマネジメントにおけるアセスメント① 第 4 回 ケースマネジメントにおけるアセスメント② 第 5 回 ケースマネジメントにおけるニーズ① 第 6 回 ケースマネジメントにおけるニーズ② 第 7 回 ケースマネジメントにおけるサービス支援計画 第 8 回 ケースマネジメントの間接サービス機能 第 9 回 ケースマネジメントにおけるモニタリングと評価 第 10 回 ケースマネジメントとソーシャルワーク 第 11 回 ケースマネジメントの実際① 第 12 回 ケースマネジメントの実際② 第 13 回 ケースマネジメントの実際③ 第 14 回 まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースマネジメント特論(R)	
担当教員	渡邉 浩文	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。	
授業計画	第 1 回 ケースマネジメントの概念及び必要とされる背景 第 2 回 ケースマネジメントのプロセス 第 3 回 ケースマネジメントにおけるアセスメント① 第 4 回 ケースマネジメントにおけるアセスメント② 第 5 回 ケースマネジメントにおけるニーズ① 第 6 回 ケースマネジメントにおけるニーズ② 第 7 回 ケースマネジメントにおけるサービス支援計画 第 8 回 ケースマネジメントの間接サービス機能 第 9 回 ケースマネジメントにおけるモニタリングと評価 第 10 回 ケースマネジメントとソーシャルワーク 第 11 回 ケースマネジメントの実際① 第 12 回 ケースマネジメントの実際② 第 13 回 ケースマネジメントの実際③ 第 14 回 まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルアドミニストレーション特論（S）	
担当教員	熊田 博喜	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	スタディガイドを参照のこと。	
授業計画	スタディガイドを参照のこと。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	
	レポート、スクーリングの選択した学習方法によって成績評価は異なる。レポートについてはスタディガイド、スクーリングについては一回目の講義の際に指示する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルアドミニストレーション特論(R)		
担当教員	熊田 博喜		
授業方法	講義		
学習方法	レポート		
単位数	2		
到達目標	スタディガイドを参照のこと。		
授業計画	スタディガイドを参照のこと。		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」		
	b その他		
	レポート、スクーリングの選択した学習方法によって成績評価は異なる。レポートについてはスタディガイド、スクーリングについては一回目の講義の際に指示する。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験(経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	プログラムエバリュエーション特論(S)	
担当教員	小髙 真美	
授業方法	講義	
学習方法	スクーリング	
単位数	2	
到達目標	社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着ける。 ・プログラムを必要とする対象のニーズをアセスメントする方法を理解する。 ・プログラムの目的や目標を明確に言語化することができる。 ・プログラムの内容を具体的に示すことができる。 ・ロジックモデルを作成できる。 ・プログラムのプロセス評価とアウトカム評価を理解し、計画することができる。 ・評価に必要なデータ収集および分析方法を考案することができる。 ・社会福祉現場でプログラム評価を活用してくための方策を考えることができる。	
授業計画	1:プログラム評価の概要 2:事前調査・ニーズアセスメント、プログラムの目的・目標の設定 3:実施計画演習1 4:実施計画演習2 5:ロジックモデル1 6:ロジックモデル2 7:プログラム評価の実際1 8:プログラム評価の実際2 9:プロセス評価 10:アウトカム評価 11:データ収集と分析1 12:データ収集と分析2 13:実施計画演習3 14:実施計画演習4・まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	単位認定課題(100%)により評価する(単位認定課題の作成プロセス(小課題)も含む)。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	プログラムエバリュエーション特論(R)	
担当教員	小髙 真美	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着ける。 ・プログラムを必要とする対象のニーズをアセスメントする方法を理解する。 ・プログラムの目的や目標を明確に言語化することができる。 ・プログラムの内容を具体的に示すことができる。 ・ロジックモデルを作成できる。 ・プログラムのプロセス評価とアウトカム評価を理解し、計画することができる。 ・評価に必要なデータ収集および分析方法を考案することができる。 ・社会福祉現場でプログラム評価を活用してくための方策を考えることができる。	
授業計画	1:社会福祉の実践場面の課題の改善・解決に向けたプログラムの実施および評価のための計画書を作成する。 2:本科目で学んだことを踏まえ、自身の実践現場に引き付けながら、社会福祉現場でプログラム評価を今後より活用してくための方策について考えを論じる。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	課題1と課題2(70%)、単位認定申請レポート課題(30%)として、評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	チームアプローチ特論(S)
担当教員	矢野 明宏
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	ソーシャルワーク実践は、支援者たちのチームの力によって成り立っているといっても過言ではなく、チームアプローチは、領域を問わず重要な技術です。ゆえに、チームアプローチとそれを支えるチームワークの重要性は、専門職であれば誰しもが認識し必要としています。しかしながら、実際にチームワークが実践に有機的に機能しているかとなると多くの課題を抱えていることも現実です。 本講では、対人サービス組織の特殊性を踏まえつつ、小集団論を基盤にリーダーシップ・メンバーシップを理解した上で、チームワークを難しくする要因、チームワークを有機的に作用させるためのチームコンピテンシー等について、事例等も活用して検討します。 本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。 そのことによって、本専攻の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。
授業計画	第 1 回:イントロダクション・自分の思うチームアプローチとは ＜基本整理編＞ 第2回:今、なぜチームアプローチなのか？ 第3回:ソーシャルワーク専門職関係の法律、倫理綱領にみるチームアプローチ 第4回:地域包括支援センター等にみるチームアプローチ 第5回:チームアプローチの定義 第6回:他職種チームについて 第7回:包括的支援システムとネットワーク ＜実践事例編＞(許容範囲内で受講生の実践事例を加工して用いる場合もある) 第8回:チームアプローチの実際①在宅高齢者の権利擁護 第9回:チームアプローチの実際②終末期緩和ケア 第 10 回:チームアプローチの実際③居宅介護支援事業所を中心とした支援 第 11 回:チームアプローチの実際④精神障害者の退院支援 ＜まとめ編＞ 第 12 回:多職種とのパートナーシップ、チームアプローチの阻害要因 第 13 回:チームをめぐる倫理問題と個人情報保護・チームコンピテンス 第 14 回:総括

	＊日程や教室等については、WBTのガイダンスや最新の掲示を確認してください	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○
	課題発表（50%）と単位認定レポート（50%）を合計して評価する。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	チームアプローチ特論(R)
担当教員	矢野 明宏
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	ソーシャルワーク実践は、支援者たちのチームの力によって成り立っているといっても過言ではなく、チームアプローチは、領域を問わず重要な技術です。ゆえに、チームアプローチとそれを支えるチームワークの重要性は、専門職であれば誰しもが認識し必要としています。しかしながら、実際にチームワークが実践に有機的に機能しているかとなると多くの課題を抱えていることも現実です。本講では、対人サービス組織の特殊性を踏まえつつ、小集団論を基盤にリーダーシップ・メンバーシップを理解した上で、チームワークを難しくする要因、チームワークを有機的に作用させるためのチームコンピテンシー等について、事例等も活用して検討します。 本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。 そのことによって、本専攻の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。
授業計画	テキストは、言うまでもなく、最初から最後まで変わらず、読み込んでください。 野中猛『図説チームケア』中央法規出版、2007 年 テキスト構成としては、7章立てとなっています。 第1章では、ケアチームの概念について、整理されています。そもそものチームを中心とした概念整理をしています。 第2章では、チームワークの難しさについて整理しています。チームアプローチの重要性は遠い鴨から叫ばれていますが、皆さんは、この章にあるような困難さのために、チームが機能していない現実を目の当たりにしているかもしれません。 第3章では、チームワークの効果について整理しています。チームワークの難しさを克服すれば、チームの効果が明確になっていきます。 第4章では、チームワークの工夫をについて整理しています。皆さんもチームを運営するうえで、さまざまな工夫を凝らしていることと思います。それらを整理してみましょう。 第5章では、チームにはそのチームに応じたリーダーシップを発揮する人が必要です。そこでリーダーシップにまつわる知識を整理していきます。 第6章では、チームを含むそもそもの組織について整理されています。モチベーションや各種マネジメントについても振り返ることになります。

	第7章は、課題について整理しています。皆さんの課題についてここで改めて振り返ってください。 【レポートの出題範囲と課題】 学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は、1回目のレポートの対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題のレポートになります。1回目のレポート課題は、全学生に共通ですが、2回目の課題は学生によって異なることがあります。 【第1課題】 ①1 回目のレポート 「テキスト第1～5章までを読み、自分の実践経験を踏まえ、チームアプローチを定義したうえで、チームアプローチの必要性を利用者の視点から論じてください。」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) ②2 回目のレポート 「テキスト第6～7章も読み込んだうえで、第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで) 【単位認定申請レポート課題】 「ソーシャルワーク実践におけるチームアプローチの有効性と今後の課題について、テキストを改めて概観するとともに、テキスト事例や自分の実践に照らし合わせて得た知見をもとに、論じなさい。」 ＊字数:2,400 字程度(2,200 字から 2,600 字まで)

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルワークリサーチ特論(S)
担当教員	永野 咲
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	ソーシャルワークリサーチ特論の特徴は、担当教員全員によるオムニバス形式の授業であり、全教員の研究の専門性を知ることができるところです。また本科目内容を受講生が理解していることを踏まえて、2学期に必修のソーシャルワークリサーチ演習(スクーリング)が開講されます。そのため本科目の履修を強く勧めます。しかし、当該科目の内容をすでに理解している場合には本科目の履修は必要ではありません。そのため本科目は選択科目となっています。 さて、ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズに立った援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーク実践においてリサーチは必須の技術であり、修士号を有するソーシャルワーカーには、その技術の「修得」が求められます。 本講義では、社会福祉学研究の目的・特徴・範囲、研究倫理を踏まえた上で、量的(統計)調査法、質的調査法の基礎について理解します。また、文献研究法についても取り扱います。そこで、本科目の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。 具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画(リサーチデザイン)、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン(研究の設計と手順)、量的・質的なデータの分析方法を学びます。
授業計画	第1部 社会福祉研究とは何か ＜この章のねらい＞ いわゆる社会福祉・ソーシャルワークにおいて調査研究に取り組むことの意味と実施における倫理を理解します。はじめに概要として社会福祉学において、また、ソーシャルワーカーとしての調査研究の意味を理解した上で、研究をどう設計するのかについて、問いの立て方、問題意識の深め方、これらと関連して先行研究(文献)の探し方やまとめ方を理解します。 その上で、受講生自身の関心に照らし合わせて、先行研究のレビューに基づいてその意義を説明できるように取り組みます。スクーリング(メディア)授業では、受講生が相互に研究の関心に沿って先行研究レビューの結果を発表し、ディスカッションします。研究の枠組みを構築するためには、他者とのディスカッションは重要なプロセスの一つであることを理解します。 ＜学習のポイント・ヒント＞

日頃の実践が、根拠に基づいたものであるかを振り返り、その根拠はどこからどのように生み出されたのか、どのようにその根拠になった理論や知識が効果的であると説明されるのか、考える視点を持つことによって、学びが深まります。

＜キーワード＞

エビデンス・ベースド・プラクティス、研究のデザイン、枠組み

＜第 1 週＞

1. オリエンテーション(本演習の意義と目的、成績評価について他)、問いのたて方、研究計画の作り方

2. 研究の種類と概要、先行研究(文献)の探し方とまとめ方

リーディング課題（第 1 週の授業の前に読む）：

・ テキスト「なぜ、何を研究するのか」「現場の視点と研究の視点」「先人に学ぶ―研究レビューの進め方とレビュー論文の書き方」「研究の倫理」「研究をどう設計するか」「仮説の構築と検証の手続き」「研究資料の収集と分析」

・ 岡本民夫,平塚良子,牧洋子,戸塚法子,久保美紀 et.al., ソーシャルワークのスキルに関する研究枠組,社会福祉学,vol40 (1) pp,150-171,1999.

※授業内で本学図書館の web サイトからマイライブラリを活用するので、事前にログインできるように準備をしておいてください。

※担当教員から課題が提示されることがあります。

==========

第2部 研究の設計と手順

＜この章のねらい＞

ここでは、仮説の構築とその検証手続きについて学びます。構築された研究の枠組みを、どのような手続きによって検証していくかを検討するためには、研究の手法を理解していなければなりません。ここでは、研究の種類と概要、具体的な量的研究の方法（概要、データの収集方法と分析方法）、質的研究の方法（質的研究の方法・種類、データの収集方法と分析方法）を学びます。

＜学習のポイント・ヒント＞

しっかりと、方法・技術を学び、身につけることを意識して、知識を学ぼうとすることが大切です。これにより、「ソーシャルワークリサーチ演習」につながり、より一層学びを深めることができます。

＜キーワード＞

研究のデザイン、枠組み、量的研究法、質的研究法

＜第 2 週＞

3.量的研究の方法と実際

4.質的研究の方法と実際

リーディング課題（第 2 週の授業の前に読む）：

・ テキスト「量的調査データの実証分析」

・ 「調査票の作り方」（国立教育政策研究所）

・ （https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook03_04.pdf）

・ 池田郁男「改訂増補版：統計検定を理解せずに使っている人のためにⅠ・Ⅱ・Ⅲ（web 上での閲覧が可能）」公益社団法人日本農芸化学会,2019.

・ Ⅰ（https://katosei.jsbba.or.jp/view_html.php?aid=1183）

・ Ⅱ（https://katosei.jsbba.or.jp/view_html.php?aid=1196）

・ Ⅲ（unpublished→改訂前のものを確認してください）

・ テキスト「インタビューによる質的研究（現場から）」

・ 岡知史・Ian Shaw「質的調査研究法」2000,pp.1-20.

・ （http://pweb.sophia.ac.jp/oka/papers/2000/qrswj/qrswj4.pdf）

※担当教員から課題が提示されることがあります。

＜第 3 週＞

5. 先行研究のレビューの発表 1

6. 先行研究のレビューの発表 2

事前課題（第 3 週の授業で発表する）：

・ 自分が関心のあるキーワードを使って、CiNii で検索する。

・ CiNii での検索結果を利用して、文献リストを作成する（検索結果をコピーし、ワードに貼り付けたもので良い）。

・ 文献リストの中から、「査読付き」の論文を少なくとも 3 本読み、それらをもとに「文献レビュー」を行い、まとめる。

==========

第3部 研究事例に学ぶ

＜この章のねらい＞

ここでは、第 3 部に示されている研究事例を読みながら、担当教員の研究内容から、研究の設計、調査方法、分析方法の実際を学びます。自分自身の興味関心と一致している場合や研究事例に示されている方法の中で自分が活用する可能性がある場合など、特に参考にして自らの研究計画の作成に活用します。スクーリング（メディア）授業では、これまでの内容を踏まえ、実際に各自が作成した研究計画を発表し、ディスカッションします。

＜学習のポイント・ヒント＞

様々な研究手法があることを理解し、自分のこれから実施したい調査研究と照らし合わせて、読み進めることが大切です。

＜キーワード＞

	研究手法、具体的な研究の手続き ＜第 4 週＞ 7. ミクロレベルの評価分析・研究の実際 8. メゾレベルの評価分析・研究の実際 リーディング課題（第 4 週の授業の前に読む）: ・テキスト「ミクロレベルの評価分析」「メゾレベルの評価分析」 ※担当教員から課題が提示されることがあります。 ＜第 5 週＞ 9.　歴史研究・文献研究の実際 10. ケース研究の実際 リーディング課題（第 5 週の授業の前に読む）: ※担当教員から課題が提示されます。 ＜第 6 週＞ 11. 海外研究・国際比較研究の実際 12. 問題を政策と結ぶ研究の実際 リーディング課題（第 6 週の授業の前に読む）: ・テキスト「海外研究・国際比較研究」「問題を政策と結ぶ研究」 ※担当教員から課題が提示されることがあります。 ＜第 7 週＞ 13. 研究計画の発表1 14. 研究計画の発表2 事前課題（第 7 週の授業で発表する）: ・これまでの授業内容を踏まえて研究計画を作成する。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	○

	課題レポート(①先行研究レビューのまとめ及び②研究計画)により評価する		
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルワークリサーチ特論(R)
担当教員	永野 咲
授業方法	講義
学習方法	レポート
単位数	2
到達目標	本科目は担当教員全員によるオムニバス形式となるため、スクーリングでの履修を強く勧めます。※R4 レポートは休講となります。(前年度からの履修継続学生のみ対象) ソーシャルワークリサーチ特論の特徴は、担当教員全員によるオムニバス形式の授業であり、全教員の研究の専門性を知ることができるところです。また本科目内容を受講生が理解していることを踏まえて、2学期に必修のソーシャルワークリサーチ演習(スクーリング)が開講されます。そのため本科目の履修を強く勧めます。しかし、当該科目の内容をすでに理解している場合には本科目の履修は必要ではありません。そのため本科目は選択科目となっています。 さて、ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズに立った援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーク実践においてリサーチは必須の技術であり、修士号を有するソーシャルワーカーには、その技術の「修得」が求められます。 本講義では、社会福祉学研究の目的・特徴・範囲、研究倫理を踏まえた上で、量的(統計)調査法、質的調査法の基礎について理解します。また、文献研究法についても取り扱います。そこで、本科目の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。 具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画(リサーチデザイン)、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン(研究の設計と手順)、量的・質的なデータの分析方法を学びます。
授業計画	(前年度からの履修継続学生のみ対象)学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。1回目は課題についてのレポートであり、2回目は1回目のレポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートになります。1回目のレポート課題は全受講生に共通ですが、2回目の課題は受講生によって異なることがあります。 また、スクーリングの内容もご確認ください。スクーリングのスケジュールに示したリーディングに取り組んでいただくことは、レポートを選択した方の学習方法としても有効です。 第1課題 1 回目のレポート 自分自身の関心について、文献研究を行い、まとめた上で、研究の目的、研究の対象と方法、期待される結果とその結果による考察の予測を記述してください。 ＊字数:2,400 字以上(字数の上限は制限しない)

	2 回目のレポート 「第1回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい。(具体的には、添削で指示する。)」 ＊字数:2,400 字以上(字数は制限しない) 単位認定申請レポート課題 これまでの学びを踏まえ、研究計画として、「研究の背景と目的」「研究の対象と方法」「倫理的配慮」「結果及び考察の予測」「調査票及びインタビューガイド」の順に記述する。 ＊字数:2,400 字以上(字数は制限しない) ＜レポート作成上の諸注意＞ (1)レポートの1行目に適切な研究のタイトルを書いて下さい。 (2)レポートの2行目には学籍番号と氏名を必ず書いて下さい。 (3)レポートの作成には先行研究からの引用等が必ず必要になります。最後に必ず、誰のどの論文から引用したのか、明記してください。引用の表記の方法については、別途ご説明しますので、その方法にそって作成してください。 (4)レポートの構成は、「1. 研究の背景と目的」「2. 研究の対象と方法」「3. 倫理的配慮」「4. 研究の結果及び考察の予測」「文献」としてください。節等を付ける場合は、(1)(2)・・・、①②・・・の順に使用してください。 ＜レポートの最終成績＞ レポートの最終成績は、課題レポート(不合格レポートも含む)の平均点(四捨五入)に、単位認定申請レポートの内容によって、加点・減点した点数になります。なお、課題レポートの再提出によって合格した場合、不合格のレポートがあることになり、不合格のレポートを含めると、平均点が 60 点未満になることもありますが、この場合は 60 点になります。 レポートの最終成績は、課題レポートを基礎にした成績になるため、課題レポートの全てに合格していれば、単位認定申請レポートが不合格になることはありません。

成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	
	b その他	○
	2 回の課題提出によって評価する	

実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースカンファレンス特論（S）
担当教員	小松　美智子
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	2
到達目標	① ケースカンファレンスは地域に根差したソーシャルワークを進めるうえで中核となる多職種連携のコアな技術であることやその方法について学習する ② 地域に根差したソーシャルワーク推進が必要となってきた社会的背景を多角的に理解する] ③ ケースカンファレンスの実践方法を理解し、多様な社会福祉現場において実践可能な力を身に付ける
授業計画	ケースカンファレンスは、事例研究会、事例検討会、ケース会議、ケア会議など様々な名称で呼ばれています。ケースカンファレンスは、事例研究の形態という側面やスーパービジョンの形態ととらえることもできます。本科目では、地域包括ケアの推進が求められる現在において、ソーシャルワークの重要な課題である地域を生活の基盤とした支援を実践するため、保健・医療・福祉・司法・教育・労働など多くの機関や多くの専門種による多職種連携が重要となってきています。さらに地域生活者であるクライエント中心の支援の在り方やクライエントを取り巻く近隣住民やボランティ アなどインフォーマルなサポートも含んだネットワーク形成が必要となっています。本科目においてはケースカンファレンスをこのような多様な連携方法の一つとしての側面に焦点を当てて、学びを進めていきます。 　テキストは、「多職種連携の技術」としてのケースカンファレンスについて、ケア会議という名称で、野中先生と野中先生が主催されている研究会のコアなメンバーによって執筆されています。1 講から 10 講まで比較的平易な言葉で解説され、各講ごとに実践事例が掲載されています。学習を進めるにあたり、まずはじっくり時間をかけて、全講を読み込んでください。ご自分の実践領域での多職種連携やケースカンファレンスを省察してください。各講ごとにポイントとなる項目はノートにまとめながら学習 を進めてください。 ＜スクーリングの講義内容（講義内容は変更されることがあります。）＞ この講義は演習方式で行います。ケースカンファレンスに関する基本技法を学んだ後は、受講生が示す具体的な事例についての検討を考えています。協力して頂くことをお願いします。 第 1 回　ガイダンス・相互理解する 第 2 回　ケースカンファレンスに関する共通理解 第 3 回　ケースカンファレンスの前提としての多職種連携について 第 4 回　多職種連携が必要となった社会的背景について① ・疾病構造の変化・医療提供体制の整備（国民皆保険など） 第 5 回　多職種連携が必要となった社会的背景について② ・少子高齢化・女性のライフスタイルの変化・家族機能の脆弱化 第 6 回　地域包括ケアについて 第 7 回　多職種連携のための基本

	第 8 回 ケースカンファレンスの事前準備 第9回 ケースカンファレンスの実施 第 10 回 ケースカンファレンスの事後 第 11 回 ケースカンファレンスの実践① 第 12 回 ケースカンファレンスの実践② 第 13 回 ケースカンファレンスの実践③ 第 14 回 まとめ	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	小松美智子 東京女子医大病院医療社会福祉室課長（医療ソーシャルワーカー） ・社会福祉士 ・精神保健福祉士 ・認定社会福祉士制度認定スーパーバイザー
	授業内容との関連性	医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践をもとに、多職種連携やケースカンファレンスの意義や方法などについて学生の理解向上を図る
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ケースカンファレンス特論(R)	
担当教員	小松　美智子	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	2	
到達目標	① ケースカンファレンスは地域に根差したソーシャルワークを進めるうえで中核となる多職種連携のコアな技術であることやその方法について学習する ② 地域に根差したソーシャルワーク推進が必要となってきた社会的背景を多角的に理解する] ③ ケースカンファレンスの実践方法を理解し、多様な社会福祉現場において実践可能な力を身に付ける	
授業計画	ケースカンファレンスは、事例研究会、事例検討会、ケース会議、ケア会議など様々な名称で呼ばれています。ケースカンファレンスは、事例研究の形態という側面やスーパービジョンの形態ととらえることもできます。本科目では、地域包括ケアの推進が求められる現在において、ソーシャルワークの重要な課題である地域を生活の基盤とした支援を実践するため、保健・医療・福祉・司法・教育・労働など多くの機関や多くの専門種による多職種連携が重要となってきています。さらに地域生活者であるクライエント中心の支援の在り方やクライエントを取り巻く近隣住民やボランティ アなどインフォーマルなサポートも含んだネットワーク形成が必要となっています。本科目においてはケースカンファレンスをこのような多様な連携方法の一つとしての側面に焦点を当てて、学びを進めていきます。 　テキストは、「多職種連携の技術」としてのケースカンファレンスについて、ケア会議という名称で、野中先生と野中先生が主催されている研究会のコアなメンバーによって執筆されています。1 講から 10 講まで比較的平易な言葉で解説され、各講ごとに実践事例が掲載されています。学習を進めるにあたり、まずはじっくり時間をかけて、全講を読み込んでください。ご自分の実践領域での多職種連携やケースカンファレンスを省察してください。各講ごとにポイントとなる項目はノートにまとめながら学習 を進めてください。	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験(100%)により評価する」	○
	b その他	
実践的教育を行う授業科目の種別	a:実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	小松美智子 東京女子医大病院医療社会福祉室課長(医療ソーシャルワーカー) ・社会福祉士 ・精神保健福祉士 ・認定社会福祉士制度認定スーパーバイザー
	授業内容との関連性	医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践をもとに、多職種連携やケースカンファレンスの意義や方法などについて学生の理解向上を図る

	b:企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c:企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	ソーシャルワークリサーチ演習
担当教員	渡辺 裕一
授業方法	講義
学習方法	スクーリング
単位数	1
到達目標	はじめに、本科目の履修にあたり、「ソーシャルワークリサーチ特論」を修得済み、もしくは同等の知識・技術を有することが求められます。必ず「ソーシャルワークリサーチ特論」のスタディガイドを参照して、内容をご確認ください。また、本課程の修了にあたって、本科目は必修科目であることにご留意ください。 ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズにたった援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。本演習では、ソーシャルワークリサーチ特論で学んだ社会福祉学・ソーシャルワークにおける研究の目的・特徴・範囲、研究倫理をふまえた上で、文献研究の方法、量的(統計)調査法、質的調査法の基礎について理解します。適切な研究計画を作成する力を身につけます。 そこで、本演習の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画(リサーチデザイン)、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン(研究の設計と手順)、量的・質的なデータの分析方法を身につけられるよう演習に取り組みます。
授業計画	第1部 ソーシャルワークリサーチの意義と方法 ＜ねらい＞ これまでのソーシャルワークリサーチの意義と方法に関する全体的なレビューを行い、学びの状況を踏まえて、「問い、問題意識を他者に向けて発表すること」、自分自身の関心に基づいて「先行研究を探し、文献リストを作成すること」に取り組みます。 ＜学習のポイント・ヒント＞ 日頃の実践が、根拠に基づいたものであるかを振り返り、その根拠はどこからどのように生み出されたのか、どのようにその根拠になった理論や知識が効果的であると説明されるのか、考える視点を持つことによって、問いが深まります。また、その内容を発表し、参加者からフィードバックを受けることによって、その問いをさらに深めることが期待できます。問いを深めるためには、先行研究との対話は欠かせません。その前提として、「文献リストの作成」は必須です。 ＜キーワード＞ 問い、問題意識 ＜第 1 週＞ 1.オリエンテーション(本演習の意義と目的、成績評価について他) 2.問い、問題意識を発表する、先行研究(文献)を探し、文献リストを作成する 事前課題(第 1 週の授業に持参する):

・自分自身の問い、問題意識を発表できるように準備する（一人 5 分以内、書式・方法は自由）
※授業内で本学図書館の web サイトからマイライブラリを活用するので、事前にログインできるように準備をしておいてください。

第2部　先行研究レビューの実践
＜ねらい＞
研究の実施にあたっては、先行研究のレビューを踏まえて、自らの問いに関する現在の到達点（すでに明らかになっていること）を説明し、これから行おうとする研究がソーシャルワークにどのような進歩をもたらそうとするのかが説明されなければなりません。ここでは、先行研究レビューをまとめたものを授業内で発表することで、自分自身の文献をまとめる力を高めます。また、この力は、先行研究をしっかり踏まえた研究計画を立てることにつながります。研究を実施する上での基本的な技術ですので、第 2 部では「読む」「まとめる」「説明する」を実践します。そして、フィードバックを受けた上で、再度修正する作業も経験します。
＜学習のポイント・ヒント＞
　課題の実施と発表の準備を丁寧に行うことで、よりよく技術を身につけることができます。また、他の履修者の発表に対してフィードバックを準備することなどを通して、自分自身の作成した内容に対しても評価する力が高まります。
＜キーワード＞
先行研究、文献研究
＜第 2 週＞
3.先行研究のレビューの発表①
4.先行研究のレビューの発表②
事前課題（第 2 週の授業に持参する）：
・第 1 週に作成した文献リストをもとに論文を読み、先行研究のレビューとしてまとめる（30 文字×40 行、全体の文字数は指定しない）
・先行研究のレビューの結果を発表できるように準備する（1 人 10 分以内、書式・方法は自由）

第3部　研究計画作成の実践
＜ねらい＞
　研究計画の作成には、明確な研究の問い、その問いに対する現在の到達点の説明（先行研究のレビュー）、研究の目的を達するために必要な研究手法や具体的な研究の手続き等に関する知識が必要です。演習では、これまでの学びをもとに、各自が研究計画を作成・報告し、フィードバックを得ることを通して、適切な研究計画を作成し、研究を遂行する力を高めます。
＜学習のポイント・ヒント＞
　なかなかテーマやタイトルが決まらないこともありますが、研究計画作成のトレーニングとして先に進めていくことも大切ですので、「研究の問い」でとどまらずに先を考えてみる必要があります。また、他の履修者の発表に対してフィードバックを準備することなどを通して、自分自身の作成した内容に対しても評価する力が高まります。
＜キーワード＞
　研究手法、具体的な研究の手続き

	＜第 3～7 週＞ 5.研究計画の発表① 6.研究計画の発表② 7.研究計画の発表③ 8.研究計画の発表④ 9.研究計画の発表⑤ 10.研究計画の発表⑥ 11.研究計画の発表⑦ 12.研究計画の発表⑧ 13.まとめ 14.まとめ 事前課題（自分が発表を担当する授業に持参する）： ・第 2・3 週でまとめた先行研究のレビューを再度見直して、研究計画の冒頭に採用する（30 文字×40 行、全体の文字数は指定しない） ・第 4 週から 8 週の間に 2 回程度、発表を担当します。発表担当会に合わせて、研究計画を作成し、発表できるように準備する（30 文字×40 行、全体の文字数は指定しない、また、発表の形式は指定しない）	
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100％）により評価する」	
	b その他	○
	課題の実施状況（20％）、授業への貢献度（20％）、最終的に作成された研究計画書（60％）により評価	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	フィールドワーク演習		
担当教員	大崎 広行・木下 大生・熊田 博喜・小髙 真美・永野 咲・野口 友紀子・稗田 里香・渡辺 裕一		
授業方法	講義		
学習方法	スクーリング		
単位数	1		
到達目標	特定課題研究の執筆において重要な要素の一つが課題の設定である。本演習では、今後、執筆に向けて重要な研究課題の設定を念頭に文献の購読やフィールド等の踏査によって、研究課題の彫琢を指導担当教員のアドバイスを踏まえ行うことを目的とする。社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆指導を受け、研究力と調査力を身につけ、知識・専門性を高めることを目標とする。		
授業計画			
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」		0
	b その他		100
	担当教員の指導を受け、担当教員が指示する成果をまとめること。		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

2023 武蔵野大学 通信教育部 シラバス

科目名	特定課題研究演習（人間＿実践）	
担当教員	大崎 広行・木下 大生・熊田 博喜・小髙 真美・永野 咲・野口 友紀子・稗田 里香・渡邉 浩文・渡辺 裕一	
授業方法	講義	
学習方法	レポート	
単位数	4	
到達目標	演習を通して院生の問題意識・研究するテーマに従って特定課題研究を書くための指導を行う。従って演習で特定課題研究に関する研究に関する発表を求め、他に受講者がいる場合、その発表に対して意見等を受ける形式で進められる。 特定課題研究の執筆の流れとしては、研究テーマの設定と適切な研究方法の検討、研究計画の立案、先行研究文献・データの収集と分析（精査）、調査等を実施する場合の調査設計・実施・分析等への助言・指導、ドラフト作成・本文執筆にあたっての助言・指導を行う。 なお特定課題研究の指導に関しては教員が各専門領域に応じて行う。詳細について担当教員の指示に従うこと。 到達目標は高度なソーシャルワークに関する研究力・実践力を身に付け、社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆指導を受け、特定課題研究を執筆することができることである。	
授業計画		
成績評価の方法	a 学習方法ごとに「単位認定試験（100%）により評価する」	
	b その他	100
	指導教員・院生とのディスカッション。特定課題研究の提出。	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		